

森彦太郎書簡集

森彦太郎書簡集

目次

一、芝口常楠宛書簡	一一一通	1
二、芝口常楠氏書簡補遺	三〇通	48
三、田中敬忠宛書簡	二二通	59
四、恨は深し 南紀土俗資料	71
五、心友の爲に紙碑を立つ	73
六、森先生公葬の弔事	一四通	77
七、故森彦太郎君の横顔（芝口常楠）	86

一、芝口常楠宛書簡

1 明治四五・一・一五

絵はがき

芝口 常楠宛

此の瀧の偽なること（エツカイ瀧の絵はがき）、また何故に此の偽瀧を、龍神名勝絵葉書中に加へしかといふことは、天下恐らく知るものあらざるべく候か。 日曜日 森 生

2 大正六年三月二〇日

絵はがき（南部町） 芝口 常楠宛

のっぴきならぬことにて、今日一寸北上せんとしたるも、年末にて孝校にもものっぴきならぬ要件ありて手が抜けず、授輿式（二十三日）後直ちに北上と決定、中村氏へ「二十五・六日比井趨」と報じ置き申候。○形勢混沌左せんか・右せんか、毎日くらくらと考が変り、我ながら可笑しく候。

二十日夜 雨を衝いて、街に出でんとして

3 大正六・九・〇日不明

（右 〃）

馬鹿にお暑いことに候。此節風呂敷の拵げ方激しく、小生の如きは六月以来、内で昼飯を食ふた日が一日もなといふ位の忙しき。自然内職の方も忘れてしまった程の御無沙汰。今夏の休暇を利用し、何とかせねばならずと思ひ居り候。従つて出歩きも一寸出来兼ね候。内へも一寸得販らず候。高野山詣・山上詣の企ある由、人氣は如何にや。 （終業式前日）

4 大正六・五・一

（右 〃）

昨招魂祭・今日はまた鹿島神社祭とあつて、毎日毎日遊び居候。今日猫の糞の立食や、ぞろぞろした裾いきは要するに駄作、裾いきは本来露出すべきものに非ず。テナことを饒舌って大喝采を博し候。呵々此の間鷹尾より下山の途、先登たりし小生道を失してトテツもない方へ行き、トド奇絶峽の東側なる急斜面へやりこんだ騒ぎから、龍神登山隊の面々にも小生の言を信じて、古座谷の下り口で大失策をやらかし申候。

5 大正六・五・二七

（右 〃）

雪隠の屁にせよ何にせよ、公人・私人・子があんなに動静を書いてくれるからエライもの也 呵々。僕等が毎

度出掛けて行って街頭を横行しても、チットモ書いて呉れぬからアカヌ 呵々。南方翁なお富さん云々、もう鼻につくやうになりたれど、あの人のいつもの挿話ちよい／＼面白いことあり、田辺へ行ってあの人を訪はぬは、龍を畫いて晴を点せずともいはんか。呵々廿五日郡長来南孝校に立寄られ、小生始めて面語之が実に始に候。それ程小生は……に候。六月一日開校記念日、また強行軍的登山をやるか。

6 大六・六・二四

(南部発 絵はがき)

えぞすみれといひ・たいきんきくといひ、稀代の珍物難有御礼申し上げ候。たいきんきくは昔から神田・白崎に聞いてはゐたけど、実物を知らざりに候。女孝校三木さん二世ともいふべき、周章てた御方もあると見え、日高実業孝校宛の封書を封切つて、アット驚き給ひし方は誰 呵々。商科主任、夙に敏腕の聞あり這面新宮へ取られんとし、後任難にて行惱の態、廿五日地久節奉祝の意味にて農科(田植)・商科マラソン競争(芳養浦の鼻より孝校へ)・技藝科は庭球競技と孝藝会といふ段取。

7 大六・七・二九

(" ")

富士登山も可は則ち可、然れども何となく月並み候。矢張り紀和の山彙を踏破する方、面白かるべきか呵々。筆硯に親まんとして籠り居れば、常は訪ふ人もなきに今丁度算術の講習会ありて千客萬来、午睡の夢も破らるゝことしばしば

御坊もどりの客、山崎氏の口吻を真似すると頻りと、余程よかつたと見え候。

8 大六・八・一〇

(" ")

日高奥よりの御短信拝受、羨望の念切に候。小生も寒川・龍神両村へ所用あるも、遂に出馬の機を得ず。近く寫眞師だけ派遣の筈に候。▼川上・船着方面は日高郡中最も人情の軽浮なる処と「民俗誌へ書いて置いたが、どんなものに候や呵々、▼此の頃名所圖会の値踏致居候処、二・三年まで廿五円位なりしも、三十八円に暴騰、到底貧囊を叩くも及ばず珂々。

9 大六・八・五?

(" ")

京都より 小生

御上阪中にや、小生三浦博士出迎の使命を帯て本日東京、始めて博士のケイガイに接し申候。孝者先生中にはイヤに威張り散らすエライ方も有之走へども、博士はホン大人しき人にて、謙徳寧ろ恐多き位に候。明夕大阪

より乗船飯郡の筈 (五日夜)

10 大正三・四・二七

(" ")

南部より も生

啓上紀北社より直送してくれ候につき、御郵送御見合せ願上候。紀北の行き方は頗る時事と行き型を同じうせるものあるに似たるが、サテその運命は如何にあるべき歟、洵に歟ハ歟、歟に候かな 二十七日夜

11 大正三・五・一二

(" ")

紀北と時事、其の最后何ぞ相似たるといひたい。最近の紀北は全く乱調子であつたが、愈々息を引取ること候はんか、高垣先生の得意想ふべき也。さるにても現代の日高は彼等以外別箇有力なる中立紙を要し候。十一日の牟婁日誌「勸月」の短評があるから、全号静岡縣興津町「農商務省農事試験場園藝部 崎山信吉君宛 送つてやつてくれ給へ、信さんよろこぶから」

12 大正三・六・二九

(" ")

：：：そこはかたなく漕ぎ行けば浮世忘るゝ不老橋：：：なんどと、昔小孝時代によく歌つたものだ。顧れば僕や既に人生の半を過ぎで、無為碌々誠に懽然たらずんばあらず。あゝ我が前途邁進乎・勇退乎。

廿八日后三時於 観海閣 も生

13 大正三・七・四

(" ")

今紀南を見て耶か苦笑を仕つてゐる所。「禁転載」三字を忘れたばかりに、和歌浦よりの出鱈目が活字になつてゐるからアハハ：：：ダ。実はあれは無届の御徴行だったので：：：。然しマア構はない。ツマリ僕の邁進か・勇退かを決する爲、チョット出市したのだった。たゞ余りに絵はがきを飛ばし過ぎたので、つひ怪我をした次第阿々。

(金曜日の夕 も生)

14 大正三・七・二二

(" ")

少々御念の入り過ぎたる暑氣中りで、缺勤正に一週間、もう明日から出やうかと思へば、医師は今一週間も静養せねばいかぬといふ。オマケに旅行は一切見合せと云ふ。僕豈弱らざるを得んや、併しもう快いの候。

(水曜日正午 も生)

15 大三・九・四

(絵はがき 南部より)

田辺からはセンキウをやれといひ、山路からは支柱を設けよといつて来る。高見松もし靈あらば喜ぶべきか。湯川兄大患の由驚入り候。我等回春を疑はずといへども、而も誠に關心に堪へず候。休暇日誌の成績如何。湯川朝枝子などに、「家庭体操」と「懇話会」の寫眞でも撮つて、口絵に入れ置く様勧め置きたる次第に候が、
：・呵々。牟婁紙老樹・名木稿の次に、里伝村話を募集する。其の次には俗謡を (南部にて も生)

16 大三・一〇・八

(" ")

「国民」・「世介の変局」・「那木」などくさくの御惠投品悉く拝受仕候。読売飛脚便に托し差上候。国民は自今十日間分位一括して、飛脚に御ことつけ下度願上候 (八日 正午)

17 大三・一二・一七

(はがき 南部)

▼太田先生の村長就職は、小生双手を擧げて賛同する所、先生をして晩節を全ふせしむるの道、たゞこれあるのみ。先生の爲・西内原村の爲、眞によろこばしき次第に御座候。

▼池田女に原男いふなる。あの女の産地は楊梅の大産地、あの楊梅林を昔ながらのあのまゝに放置するは、頗る憾むべし。差當りあれを整理し、崎山翠柳山人の所謂科率的経営法を以て、大ひに発展策を講ぜざるべからず候。

▼荆木の向山を濫伐荒廢に委し、田圃街道(官道でありながら)を一年に十遍も交通杜絶をさせたりする。東内原や湯川あたりも、随分開拓の余地有之候。乃公をして村宰たらしめば……に候 呵々。

▼暁君紳士録で公判に附せられると、此の人わしを一小色男と書いた罰にもやあらん 珂々。

▼土屋某なるもの江戸の仇を長崎で撃つつもりか、三名部よりの尻を紀南へ迄持つて行ったとは、サテサテ度し難き男男にて候。一体御坊の奴等は尻の穴が小さいから、自治講習会や習字講習会を開くより、チト尻穴拡大講習会をやらかしては如何。

▼歳末軍資金得ば山路郷へ遠征の筈

(三名部より も生)

18 大四・二・二三

(" ")

御高示多謝仕候。御蔭様にて小生もダイブ力み得る事と相成り、大喜びに御座候

▼啓次やんの論戦 虎公の漂流記何処かへ埋歿待遠しく候。

▼北海道の老杉所詮命なかるべきか、併し小生は極力食ひ止策を講じ居候。
▼場合によっては徳川侯の保存昭会の力をからんかとも存じ候。

19 大 四 ・ 三 ・ 三

(" ")
吉田の杉愈々面白い問題と相成候。南方大和尚なんかエライ意気込にて不取敢 『日本及日本人』一月号に、例の論調にて之を論じくるゝはず。又白井光太郎博士を経て、其の筋へ紀南記事を提出、大浦内相の一顧を乞ふべく、徳川侯の会長たる天然物保存協会でも盡力し呉る筈。之にて和尚の御機嫌嘖になほり申候。

20 大 四 ・ 八 ・ 二 一

(" ")
果せるかな……何でも何処かへ御住飛と察し居り候処、東京見物はなか／＼の大儀傑作也。小生碌々として爲す所なし。『郡誌』片つけてしまはんとの意気込も何処へやら、毎日／＼寝てくらすのみ。夏は矢張り旅行が一等に候。明日此版省、西口由良方面より日高奥へ、月末版任の筈に候。

21 大 四 ・ 六 ・ 不 明

(" ")
青鯨大会・涕泣大会なんか僕等敢て関する所なれど、嗜眠大会だけは賛成。十二日も井上友ちゃんをワザ／＼呼んで来て、御十念を授けて貰はなくとも、僕等は毎日獨りで嗜眠大会を舉行仕って居るから、御安神下され度候珂々。「国民」の議員スケッチ頗る我意を得たるもの、平福百穂画伯の筆なるべき乎。

22 大 四 ・ 十 ・ 一 二

(" ")
拜啓此程は髪長姫伝説御披露有難謝奉候。尚此種資料の御惠投願上候。「郡誌」の自然誌も御蔭にて、ダイブ面白ふ書上げかけ居り候。山勢の説明なんか只固有名詞をつらぬるのみなれど、それだけでも多少の貢献となるべきかと存じ候。何れ不日挿絵の版下二つ三つ御寫生願度と存じ居候。委細次便。(南部 ▼▼生)

23 年 不 明 ・ 九 ・ 三 〇

(絵 は が き)

白井博士の博物享年表御貸與被下多謝／＼、なか／＼面白く拝見仕居候。鳶山の松と御堂の柏槇は、周どれ位これあるべきか、御存知ならば御高示に預かり度、近刊の「勸月」へ日高名木誌を書かうかと思ふのにて候。湯川兄余病を発して加養中と仄聞せるが経過如何。

拜啓国勢気分でも申すべき緊張的態度は、どことも皮相だけは盛なやうなれど、実際の成績は果たして如何あるべき乎。小生寧ろ最初より之を危み居るものに候。併し国調宣伝の元祖は（全国でも云はれねど）、縣下では確に小生が（南部在郷軍人青年聯合總會席上・五月某日）なるべきか 珂々。幸校新築の件もつれ来り、結局

- 一、 上南部が組合を脱退して高等を置くか
- 二、 或は上南部の経費負担を軽くするか

の何れかに落付くらしく、恐らく郡か縣の高圧的仲裁を以て、第二の方になるべきか。組合將來の経営上より見れば、寧ろ此の際上南部を脱退せしむるを、有利とすべきかと思はれるゝも、今日の処上南部側も脱退せよとも明言し得ず、互に腹の探り合ひといふ処。何れなりとも新築は決行して呉れることは確なるも、まだ愈々決行といふ処までには、多少の波乱曲折を経ざるべからず。而して南部は岩代と聯合してでも獨力でも、兎に角やうて行こうといふ決心はあるらしきも、積極的にもつと整備して昇格を郡にせまる、といふやうな意気は見るべからず。第一そんなことを計画したりするやうな経綸ある男が無之候。小生ももう全然愛想が盡き遠征の決心を固ふ致し居り候。

年功加俸も発令されず、少しばかりある筈の値上げも今に発令を見ずウンザリ致居候。當方は五五円以下七割・五五円以上は五割のところへ、本俸を鼻糞ほど値上げしてもらう筈（四月に増俸なかりし故）。それが暇入り居る次第に候。

田端憲之助君の農林入りは面白かるべきも、あの先生長続き六かしかるべきと觀察せらる。寧ろ農林の国漢位太田老先生でも起用する方、気が利いてゐるやうに候。入山小川小三郎氏（元當校出）幸校方面へ就職希望らしきも、今一寸商業教員の口無之。矢張不景氣になつたら、實際教育界も人物も沢山に候。 不

巨大な人物等教育何やら会といふ、大きな看板の下に高遠の理想（？）を吹き出したが、まあく見ものに候。

「芝口先生も私の授業を見に来てやらうとの御話見に来て」とは中尾・笠松嬢。

御懇書拝見、一つ別紙の通縣へ上申しては如何、併し縣當局へ（此の係は社兵事係）も無理解の事故、なか／＼頼りになり難く候。尚小生より御坊警察署長へも、手紙を出して置くべく候と書いたが、これは覺束なく候。此の間中新入生徒勧誘の爲東馳西奔、それへ『土俗資料』が出来て来て、配本せねばならずゴタ／＼と貧

乏暇なしの態に候。『土俗資料』一部拝呈御厚情に負ふ所多大。何卒記念の爲御笑納被下度、御坊町配本分本日飛脚にて町役場まで送り申候。其の中に交りあり多分十日頃入手下さるべきか、若し誤つて他と同様「請求書」が挟り居り候はゞそれは誤りに候。御棄却なさるべく候。全部の配本なか／＼手間取り、まだ一週間位かゝるべく候。

(註) 別紙の通り縣へ上申の懇願書云々とあるは、東内原村茨木向山の古墳が、土地の農民達の耕作のために、濫掘され荒廃せんとするを、取締方を懇願せるものにて、史蹟委員森・芝口両氏が署名してある)。

26 大 一三・一二・二四

(南部町)

拜啓 『千代の翠』御惠贈被下難有御礼申上候。之は縁談などの聞合せを受けたる場合、大ひに参考になり得る所少からず。何卒此の後も御惠贈に預るを得ば幸、甚伏して御願申上候。

この休暇中からまた生徒募集の皮切で、随分厄介な荷物に候。こんどは実業担任者を第一軍として、休暇中各地を「農事講話」と称して遊説せしめ、次に小生等乗出してシラミツブシをやる豫定。それでも定員カツ／＼集め得る位が関の山。殊に本年は田中増員の影響も有之随分難局に候が、結局その筋へ報告の統計は小生の腰だめで、大袈裟に数字を書き改め、大優勢の如く見せる手品は天下一品、併し之も幸校の政策上地方有志の望む所。校長も教頭もあはゝゝゝゝで盲判を押し通す例に候。それに年令不足・辛歴不足の無資格者をドシンドシ拾ひ込んで頭数を揃へる所は、校長の太っ腹にもよれど随分危い綱渡り。同じことでも西牟婁はあんまり無資格者を採用せず。爲に本年など定員の半数位しか集まらぬといふ寂しさに候。一方小生南部女子実業幸校の創立に参画し、種々の行掛り上犠犠的に、此の校の経営に當らねばならぬことになるかも知れず。まだ町長が昨今漸く決定した位の所で、町の首腦なき爲話は具体化し居らざるも、創立委員諸氏より尻を押され居り、一面之に反対して、小生を飽くまで現位置に留らしめんとする、岡崎縣議の勢力も無視する態はず。まだどうなるや分からず候へ共、岡崎氏は今や南部町政と關係を絶ち、只管農幸校擁護のみに盡力せる關係上、小生の転出に賛成せざる立場にあるのにて候。女幸校は大阪汎愛小幸のお古を購入、鹿島社馬場に近き保安林内に建設する豫定。縣道から便利な道の無いのが難。經常費は大分出るらしく、初年度の俸給五千五百円程有之。小生がやるとすれば、初年度及次年度裁縫月六〇・家事月八五・国語月九五位の三女教員に、理科月九五・農業月一〇(兼)位の男教員を以て編成の見込みに候。大体見當つき居候へ共、国語月(九五)の女教員(免許持持)だけ其の人を得ず候。自然御手許にて御心當りもあらせられ候はゞ御垂示願上候。第一小生の身上からも未定、随つて何も彼も未定には候へ共、何れ来春初頭位には、何とか決定可口候。下らぬことばかり申上恐入候

27 大 一 四 ・ 三 ・ 一 六

(南 部)

職員聘用の件々御配慮難有存じます。実はまだきまりませんが、家事がやれる人で（裁か国を手伝ひ得る）八五内外で、慾にはちっと年の行った人（三十歳内外位）がほしいのです。此の人物得らねば一寸後廻しに不取敢、四月七日から授業を開始したいと思つてゐます。それにしても生徒があるやらどうやら、今にサツパリ見當がつきません。といふのは農校の方の募集に骨が折れて、手が廻りかねます。過日來山路郷を歴訪、昨夜半飯宅、まだ東牟婁の遊説が残つてゐます。農本科五十名は何とかして頭数を揃へねばとあせつてゐますが、専科高等程度Ⅱ商科（五十名）は、先づ二〇名位か精々三〇位までを目標としてゐます。昨今近村遊歴、二十一日卒業式後直ちに東牟婁に向かう筈ですが、本日十六日女孝校の設置認可が発令されたので、こちらの開校準備もあり、何だか神経衰弱症にやられさうです。何卒此の上とも宜敷御願申上げます。十六日夜

28 大 一 四 ・ 六 ・ 九

(南部町)

御無沙汰申上居候。御垂示の比井の観音像は、先年小川仲記翁全村誌編纂に際し、取調べ全村誌つ然天念寺の條に、縁起全文紹介致居候（此村誌は始め白井君より、浮津眞海上人に執筆依頼の処、浮津君悠々として筆を進めず、白井君自烈ったさに囁を解き、小川翁にやらせたものに候。大正四・五年頃のことにて、浮津君怒つて白井君と反目久しかりき。其の後どうなつたかは知らず。さて小川翁比井の錦山に陣取り、一年程かゝつて村誌をつくり上げ、それを白井君より小生の方へ廻付、自然地理の方を小生執筆、白井君村長辞任のとき返送せしも遂に上梓に至らず）。斯様な行き懸りにて、小生小川君の稿を通覧、彼の縁起も寫し取り候ひしが、小生あのやうな縁起に信を置く態はず。勿論佛像其の物の眞偽を判別するの明めもなきまゝ、「郡誌」へはあのやうな我田引水の自慢縁起は大部分削除して載せず。富安の足切地藏の如きも、頼まれたまゝ一寸載せただれどあのやうに、ボ口糞にやつつけたやうな次第。天然寺の宝永の縁起も、やはり可い加減のものに候へ共、あのやうな佛像中にも、案外よいものがあるかも知れず、聖徳太子の作などといふことは假物なるべきも、案外見るに足るものならんも知るべからず。小生見る目は無之も、其の内誰か其の道の人を引つ張つて行くことに可致。就ては西下氏へ「該像寫眞一葉序ついでに撮つて送られ度旨」御序に御伝へ置き下度願上候。孝校教員の配置につき、色々御厚配を煩しながら、其の後御礼も申上げず恐入り申候。教員についての小生の無理算段は、全く何処かのピアノどころにあらず。自ら最初の犠牲となり部下・職員にまで寄附申付け、年末賞與金や旅費まで削除（賞與

は全額削除)して、一人の新任教員を得、兎に角創立當初の顔觸を整へ申候。校舎未成で何も手につかず候へ共、差當り松原の荒蕪地開墾(蔬菜園とする計画)をやらせ居候。待遇は菲薄なれど男女教員皆協力、作業場に立って生徒を率ゐ、実に涙ぐましき恪勤ぶりに候。孝校内は渾然一躰融和して驀進致居候へ共、對外關係は外交の拙いことを以て自他共に許せる。小生ではちと緩和出来ぬほどの險惡な雲行き。どうも改選後の町会に女孝校反対の分子多く選出され、女孝校黨も有力なれど、反対黨を撲滅することは不可能に有之。新町会の厄介なことは御坊以上に候。それもプロブルといふやうな截然たる分野にあらず、たゞ選舉競争に女孝校を争具に供し、それからの感情の衝突で、まだ大なる正面衝突はなきも形勢全く面白からず。随て豫算の追加など思ふやうに出来ず、手も足も出ぬ有様に候。殊に馬鹿正直な我々教育者は、田舎政治家の策に常に乗せられ勝ちに候。兎に角基礎の定らぬ孝校は、手習草紙として面白きこともあれど、いつ坐礁するやらわからず、小生も来春三月までには沈没を免れざるべく候。珂々。

勤險強調などいふ尻の如きことに頭をひねりつゝ

六月八日 も生

29 大一四・八・一

(南部時代 東京にて も生)

大暑の候日夜の日直・夜直、随分エライこと、御察し申し上候(僕も経験あるから)。併し下宿の四畳半もなか／＼エライ御憫察を乞ふ。小生宛の郵便物はホッてお置き下され度。講習会はマダあと十日、併しこれらが面白い奴。

(エハガキ)

30 大一四・八・一六

(“ ” 東京より森彦太郎)

今日小石川に徳本行者の遺蹟一行院を訪ひ、開山堂の風涼しき処上人の遺物遺書も見、主僧と清話に時を移し候。僧行誠遺著『徳本上人伝』三冊は當山の藏版に相成居候。聞けば本書は近く再版せらるべく、同時に新なる『徳本伝』も公にさるべしとのこと。植物園は當山の前に候。されど時既に黄昏、最遊を他日に期して去り申し候。珂々。

(エハガキ)

31 大一一・一・二六

(南部 封書)

拜啓 唐突ながら武藤女史は御校を退職して飯郷されたとの事ですが、もう退隠してしまつたのですか。再び教育介に復活するやうな意向はないものでせうか。実は私の方また家事担任教員を要することになり、物色中なのです。暗闘といふ奴男性間にもあるが、女性間にも随分多いものです。一つ鈍刀を下さうかとも思つ

てゐます。その内百円内外で家事を持つ、有爲の女教員がありましたら一報を願ひます。校長といふ俗務の多い仕事も、われ／＼にはうるさくて勤まりそうもありません。眞妻村住祠の椋（むくだといふ。小生には確にわからないが、まあむくにして置いて）、縣へ報告して置きました。周二丈を越ゆることは事実です。上南部須賀社附近にあると裏川氏に教へられた「たいきんぎく」、探しにいったけれども、とんとわかりません。若しや本月末の農校数幸研究会へ御出でのやうでしたら、その地点を御案内しますから、御調べを願ひたいものです。農民美術研究会といふのをこしらへましたが、経費がないので目覺しい仕事も出来ません。縣では千五百円を投じて、今春三月高野山で講習会を開くといふことを最近聞きこみましたが、遅れてそれが貰へずこちらでは「梅材の利用」の考察をすることになってゐます。

二十六日

拜啓 タイキン菊所在を「紀新」の記者に問ひつめられて、仕方なしに本庄附近らしいとゴマ化して置くと、新聞へ東本庄と書いて呉れて、先づく大助りに候。此の頃上南部向いて行くと、チヨイ／＼とタイキンギクあるとどここなあと尋ねられ、わしや知らぬ芝口さん獨り来たんじやよと胡魔化して置き候。あれは縣へ御手続下され候分、所在は上南部村大字西本庄字宮の地続（河岸）ならんか。あの上は社の基本財産林に候。小生等にはとんと所在わからず、まあ素人にわからぬ位の方がよろしかるべく、それにしてもよけ生えてないかも存じ候が、今後絶滅の恐れあるにあらざるか（あの上の道多分改修さるべくと存じ候）。今年職員は餘る程来手があり、人選は至極らくに出来申候。併し金がないのでオイヤンやオバハンを貰へず、ほん若いお嬢さんしか来てくれぬので一寸困り候。嫁なら若い程よいも先生の若過ぎる奴はチト困り候。こちらから嫌らせるのは骨に候。ドダイ和歌山辺中等も初等も女教員ウチャ／＼で、優秀なお婆さんでもトント売れずこれには閉口致候。といつて一時恩給の入るやうな馘り方は出来ず、実教資格はあるも（中教免状なき）七五円の人はどうも道がせまく候。御坊補の伊藤といふ人、昨年来八方へ売りに出してあれど、これも全く捌けず遂に佐藤ハンの英断となつたのにて候。伊藤ハンは佐藤校長を忌むこと毛虫の如くにて、佐藤氏の伊藤觀も全様らしく候。しかし小生はまだそのしまひに立つて来る御本人に会つたことも無之候。當方生徒募集難にて、これは大閉に。これは外交に骨を折らず。小幸校の若い教員の歡心を買はざりし崇りにて、當校ボロクソにやられ、志願者頗る少なく高等科大繁盛の態で、何とも彼とも手がつけられず。纔に小力で全城鉄壁を突ついてゐる位でみじめなものに候。しかし引責退却の余議なきに至らば、幸校の爲相當の善後策を講じ、相當アバレしてやるつも

り呵々。牧野はん退職せず、西校兼任を解かれただけに候。西ムロでは全く受けざりしも、こゝでは岡崎縣議を背景にして重望あり。しかし生徒募集難は相變ずに候。いろくやつて見るにやはり「私幸」が一番面白いらしく、一つ常盤の向ふを張った私幸を、日高平野の一角に起したらなどと夢を見居り候。香雲丘上の小祠ことを小殿の森と申し候。御高説一つ、農美研究会の同人に話して見る心算。梅村の木工藝はよい思付なれど、彫刻などに向かずとのこと（堅き故）。茨木の宮跡早く見に来いとサイく申し来るも、どうもサテと云ふと尻をあげるゆとり無之。退却して飯つたらゆつくり見られるも、今は幸校大事のときに因り居り候。

先般お出で下され候砌はほんとに失礼仕り エンバナ折にて恐縮く

（十六日）

33 大 一五・三・二六

（南部 封書）

拜啓 例のお話牧野氏へすぐぶつつかつてみたところ（昨日小幸校の卒業式で出会って心算の処牧野氏見えず、依つて書面を以て出して置いたところ）、今朝次の如き回答を得申し候。どうも遅かりし由良之助の感、なくんばあらずといふ所。今朝楠山校長からも之と同一の聞合せあり、木村克龍氏よりも紹會のよし。あかんくアハ……。実は昨日問ひに行ったら、今返事来た所だと話した次第に候。當方生徒募集成績サツパリ撈助で、自称神さんもカブトを脱いで、愈々壇の浦の最後へと急ぎ居り候。敗軍はやり心よくなものに候。小生は引責切腹・次席は殉死。三月廿日の紀南の記事は小生自筆で背水の陣を敷いたもの。それを味方が危がつて二十三日の取消しとなり申候次第 呵々。小生が何だか昂奮してやったやうに取られ、昂奮記事などと書かれ笑止の候。

34 年 不明・一二・二三

（南部町 書簡）

拜啓 私は講演に参ります（かね）から、どうか貴兄御一人で宜敷御願ひ申し上げます。右昨日佐藤様まで申上げて置きました、行違ひに日程変更の御通知に接し、どうも種々御配慮をかけ恐縮して居ります。全く過般来公私の俗務混乱ウルサイことが、後へ後へと出来て来て、ちっとも気が落ちつかず準備が出来ませんので、……それとも横好きの方面に没頭してゐた。時代ならば準備もヘチマも入らずいつでも講壇に立ったものですが、校長といふ俗務に従事以来、横好きの方がとに角御留守になり、縁遠うなつてゐますのでヨッポド豫習して行かぬとやれません 呵々。そんな次第で今回は甚だ心苦しきも、違約の御咎めを甘受して失礼することになりました。いづれ追つて機会があったら、左様の幸校又は教育部会へ、今回の御詫び旁々長談議に参りたいと思ふてゐます。何卒佐藤様に宜敷御伝へ下さると共に、今回のところは貴兄に於かせられて宜敷……

35 年月不明・二四日

(南部町 手紙……：昭二・四、昭三・三迄のもの)

拝啓無精ばかりしてゐます。郷里へも病母を口口する爲賑らうと思ひつゝ、五月・六月空過ところへ田辺第一校の社会講座といふものへ話しに來いとの厳命で、その資料蒐集旁富田の知人から豫て來いくと頼まれてあつたので、二十三日先づ富田へ自動車に助けられて行つて來ました。富田川口右岸の西富田村を歴訪、貝塚じやないかといふのを見ました。西富田村阿久川口右岸が、やはり貝塚ではなく貝殻包含層でした。然し脚がよくならもう一度あの海岸を、跋涉してみたいと思ひます。西富田村社熊野神社(熊野山の鎮座跡)の背後に、古墳乱掘したあとが幾つもありました。

而も既掘の跡に石廊用の石材がちつとも遺つてゐないのか不思議。たゞ主塚と覺しき塚だけは、まだ玄室に達してゐないやうでした。此の主塚なか／＼規模が大きいやうに見受けました。小墳のひとつに石棺(組合せ式)と覺しきものが残つてゐました。石棺はこれで二つ発見したわけです。村の青年が乱掘して土器など発見したらしいが、全く隠蔽して何も彼も秘してゐるらしいが、とに角今からでも保護しなければならぬと思ひ、すぐ手続きをする筈です。別に阿久川口で塚穴も一つ見つけてきました。二十七日田辺行・三十日印南の研究会で七月へ入つて田辺へもう一回、児童大學とかいふものへ出演せよといはれてゐますが、暑くなるとよう行かぬかも知れません。

婦人会の方、御申間の件拝手、私はいつでも山路行きを辞しませぬが、成るべくは自動車開通後に願ひ度と思ひます。自動車(南部・広井原間)縣議選舉戦を當てこんで近く開通するらしいです。それから私の方の女教員を派遣する要がありとすれば、成るべく会期を休暇以外に定めて戴き度、休暇には今度賑郷するのや、旅行するものがありますから、成るべくは(平日ならば多少授業を缺くも、これはどんなにでも人の遺線が出来ます)。次に教育会の夏の講習の科外出演、若し私の方へ云つて來るやうでしたら、貴兄の腰で(眞平御免)と辞退して置いて戴き度く、余事はさてをき夏の講話は大儀ですから(冬か春なら行くことは辞しませぬ)。今年の脚氣昨年よりは病勢強からぬ様子ですから、自動車さへ通じたら山路へ行つて口務をとる位のこととは辞しませぬ。読本相変らずチビく出してゐます。

昨年の婦人会豫算全く知らなかつたため、講習の方へ金を無茶に使ひ込み、どうも恐入ります。

36 昭和三・一・四

(南部 手紙)

拝啓 本日は飛脚便にて結構なる御品御惠贈を忝ふなし(早く着いていたらしく候。此の程より連日戸締のたぬ……) 毎度御高配恐縮の至り奉存候。私は常に御無礼のみ申上げ居り相済み申さず候。今度東牟婁郡古座

商業校行に大略決定、南部の巨頭会議で大体（當方へ古座校長を取る）（つまり交換へ部長の岡崎君の手紙にあり）、諒解を得、多分近々発令さるべき見込みに御座候。これは古座校長行詰まりの結果に外ならず、小生一つ思い切つて其の乱脈の校規を肅正すべく決意……といふと大に名分が正しけど、実は小生個人の經濟逼迫（文化読本以来どうもやり切れず、今に売上金の回収不能……、そこへ小生孝校費へ注ぎこまねばならぬ寄附といふ奴あり。といつても無茶に借金も出来ず）の結果餘儀なき脱出、併し小生実は熊野か紀北の歌枕など話尋致度き宿志もあり、研究慾などいふほど大したものに非ず、一種の好奇心（？）位に候得共、兎に角二・三年熊野で、二・三年紀北でやりたき空想を抱き居り、その点進んで大いに行くことに決した次第に御座候。當校としては今別に大した問題も無之、まあ精々夜這の尻拭ひがウルサイ位にて校運は順境。併し古座商は丁度昔の上南部と南部とが紛争した流儀にもメがあるらしけど、小生としては昔とつた杵柄（？）で、まあ一つやつて見る心算。町村長に一寸知人もあり……併し先方の事情は全く知られず、いはゞめくら滅法界にやるのにて候。行きつまつたらそれまでのこと「大に飲まねばあかんぞ」など冷かされ居り候呵々、飲むところらしく候。女房役の首席教諭に適材がないらしく、此の点が難に候（校長と前首席が喧嘩して前首席出たらしく候）。此の程より郷里へ再び往復、野田山人君にも会い置き候。尚赴任前に一度古田君のところへ、修養談（？）とやら云ふ奴をやらされる筈。呵々。御礼まで一寸申上げ度。四日午前一時半、遅かつた賀状を一夜にかたつけたところ。

37 昭三・二・二九 夜

（古座町中湊四六六）

どうも失礼して居ります。さて十五日夜南部発全夜の急船で南下翌曉串本につけば、主席教諭の来り迎ふるあり、案内されて海月旅館假泊夜明けし後、自動車で古座河畔に到れば、町當局有志生等行列して凱旋將軍を迎ふるやうな景氣に聊か尻コソバユク。即時新任式・午後歓迎会で七・八十に献酬してゐると、空腹と睡眠不足で全く悪酔、翌日は組合豫算会・翌々日は新宮支庁へ、其の夜定期船で勝浦発・十九日御坊に販り、二十日一票を携へて南部へ（此の票死票となる）。即日飯坊折柄改築移転工事中の茨木へ。矢鱈に飲み続け二十五日上棟投餅を終るや即時飯坊、その夜の急船で家族同伴南下、翌晩は旧同窓だけの歓迎会と、イヤハヤ大あはたゞしき旅を続け候ため、全く御無沙汰も筆を持たぬこと半月に候。住宅も思はしきが無く、新築十二畳敷月十四円・米三円六十三銭・黄砂糖三十五銭とは驚入申候。孝校の経営は思つた程むつかしくもないらしいけれど、組合町村の纏れは稍深入りし過ぎ居り、職員編成の方も前任校長は現状維持を切望し、町長等は大更新を要望し一寸板狭みの体、併し前校長は八方塞がりだったのに比し、小生は組合の一たる高池町長をはじめ、組合議

員中に旧同窓・先輩數氏あり、其の支持を受けるだけが強味に有之。小孝校長との間も円滑に行けさうに有之。支庁當局（前任者と不仲）とも協調して行けそうに有之。兎に角努力すればどうにかして難局を打開し得べくと存じ候。古座町としては三町村組合高等小孝を置き（之を西向に譲り）、其の上に甲種商業を置かんとする決心にて（家政女孝校を別派獨立とす）、單獨でもやるが高池は同一歩調を取る見込で、先づ串本のやうな存廢といふ難局では無之。或は案外面白くやれるかも知れぬ所に候。国民新聞難有持受、何卒引続き御廻送を賜り度折入つて願上候。

（二十九日夜　も生）

38 昭三・十二・二九

（古座川　も生）

拜啓　歳末押迫り候処、尊台御健勝奉大賀候。前便小包経少なから拜呈、御笑納下され候はゞ幸甚。少々あはてゝ、粗品を書くのを忘れて、後から思出したれど包装のやりかへが面倒にて失礼致候。當方孝校問題にていろいろ混線、只今は串商に先んぜられた形、何しろこちらは組合立にて文部省へ申請に先だち、組合規約改正の許可を知事の稟申せざるべからず面倒あり。何や彼やと手続き煩瑣にて、サテ縣としては両立を許さぬ方針とあり、然りとせば當校は廢校の運命に陥るの外なく、之を廢校にし組合を解いたら、町村合併の前途に暗影を投げることゝなり、地方自治の將來に禍根を胎すことゝなり、一寸困ると云ふ処に候。折も折今年になつて両方共昇格を企つるとは妙なことになり候。小生行く処毎に廢校か組合変更かで、此の節はもう朝めしが夕飯同然珍らしくも面白くもなくなり候。呵々。三谷君は一八〇〇円を二四〇〇円位に上げて貰い一應退職、恩給を貰つて囑託校長で出直さうと芝居しかけられたらしく、此の辺赤井第二世にて徒らに物資に執着するので失敗、遂に退職となりたるものゝ如し。後任は楠山君の兼務説も出でたるも、岡崎の從兄田中大一郎の盡力で、やつと専任（但し恩給持）ときまつたものゝ如し。

39 昭四・三・一五

（古座町）

拜啓　玉置氏の件昨年末和田君からも依頼を受けてゐますが、御承知の通りの組織変更で當方現員十三人のうち、先づ五人を減じ組式変更一件の進捗具合で、更に二・三人を更迭せねばならぬことになりま。それが商業関係の人を退けて、実科女式に入替ねばならぬので、今の処五人の職員の転任口を懸命でさがしてゐますが、時節柄全く効果なく、漸く商一人を日高へ・女一人を女孝校へ・普一人を小孝校へ・体一人を転又は退・普一人を退と内定しましたが、此の動し方の影響で商一人を退・女一人を退、更に囑託任用にせねばならぬことあり、此の上に女孝校が昭和四年に開校となれば、更に二・三人の入替を要し、全く人の遺縁に窮してゐます。

私が商業学校に転じ得るなれば、玉置君の如き新人を用ひる腹はありますが（串本校長はどうせ入替ねばならぬが）、私はどうやら行き掛り上こゝに留らねばならぬらしくと云つて、土地出身の教員（皆背後に有力者あり）を散々に切つて切りまくる以上、どうも居率くなるのですが、まあ壇の浦までのつもりで押し切る心算。而も一方女学校は手続が暇入るので、昭和四年の開校が至難の事情にあり（串本商は手続は進んでゐるが、肝心の町内でモメテゐるらしく、當方はどうか・こうか三町村の足並だけは揃つてゐますが、組合立のことで組合規約の改正から着手せねばならぬので、本庁への申請はこの二十日過ぎになる見込）。何や彼やで支庁へ御百度を踏むやら・土地の巨頭の御機嫌伺ひに廻るやら・組合幹部の会議やらで、ドサクサしてゐます。右の事情故玉置氏の履歴書、一先づ御預りして置きますが今の処至難です。井上君新報を出たら、井上自身窮地に陥るだらうが、併し本来金なしで着手したこと故、どうせあんなことになるだらうとは豫期してゐました。新聞介の離合集散は、今の政黨人の如し。

40 昭四・四・一九

（古座町 はがき）

拝啓 見事な御絵葉書難有御礼申上げます。日高平野は今祭と・正月と一緒に来たような騒ぎだらうと思ひます。裁（九五位）稍年寄といふとて、まだ話が出来かけてまとまりません。こゝは別に人が得難ひです。

41 昭四・四・三〇

（古座町 はがき）

拝啓 夜行汽車に揺らるゝこと連夜、文字通りの不眠不休で一週間の旅から戻りました。イヤモウ何も彼も混沌停滞未決鬱陶しいことです。道成寺だけは坊主大當で存。御高配の預かった件、書面昨日拝見一寸預りしてゐます。老嬢がないものかいナ―と思案の態です。新聞大いに遅延、今一括して御送り申上げます。

42 昭和四年八・一一

（〃 封書）

大いに御無沙汰恐縮の至に存じます。本日は何より結構な御品御惠送を忝ふて、御厚情の程感銘致しました。今夏一度田辺・南部・御坊と歴訪して、拝芝種々御詫も申上度と思ひましたが、子供等だけ飯り小生一人留守しています。実は学校も手少なで日夜直にも事缺く程とて、今任地を離れられません。何れその内機を見て飯北、拝訪いたします。学校の開校認可遅れたため、休暇をつぶして授業し、本月一日から廿日間だけ休んでゐます。どうも思ふやうに行きません。串商へでも突進運動のをやれといふ人もあれど、串商の前途はこゝ以上についで、寧ろ辛抱するならこゝの方マシかとかとも思ひます。併しこゝも白紙でやるならやれるが、私は去

る三月に十三人の内七人の職員を動かしたことから、地方有志のゴキゲンを損じ、創病満身の態です。最近和歌山で謄寫版刷りの郷土史料刊行を企てゝあるものがあるが、あんな式のものをお坊でやらぬかといふ話も出て居り、和歌山へ出て新聞をやりつゝ、稍大規模の叢書刊行をやらぬかといふ相談も持ち上つて居り、南葵育英会の幹部を通じて、有力筋から相當〇が出るやうなことにでもなれば蹶起するつもりですが、この間同会に居る男が来て、補習学校規定に依る学校を起こすなら、今でも出資する人があるとのこと、それも面白いといつて別れました。井上豊辨護士も不如意で弱つてゐるやうですな。あの原一平といふ男は一番新聞経営の才があるやうですな。最近「紀南」が一番紙面の調子がよいやうですな。兎角脚氣で全身倦怠がちで、御無音失礼不敢取御礼迄申上度。

43 昭四・一〇・三

(古座町 はがき)

拝啓 「御幸記」十日の処は、「郡誌」神祇誌一〇二七頁所載の通りです。別封完本（寫本で誤寫があります）が御目にかけます。活字になつたのは「群書類從」本の中にあります。元郡立図書館にもあつたやうです。鹿背山を越へて沓掛王子に参り、それから昼養御所に御着といふ順序で、その踏掛の旧趾御発見は大慶事です（ウマトメ王子の事は御幸記にはまだ見えて居りません）。私は自村のことですが、あの方面のことは一向暗く「郡誌」も聞きかぢし丈け書きましたが、生活改正会不況でサツパリ、廢物利品が何か御援兵願上度。

44 昭和五年二月七日夜

(古座町 封書)

こゝは人氣の荒い処で、校長排斥運動で渦を巻いてゐます。陰にはやはり政友の糸が引いてあつて、南部では政友の支持を受けた小生も、こゝでは政友で固めた古座町當局一派と抗争し、民政系（小山系・西田系・田淵系）の支持を受けてゐます。父兄会・卒業生團も小生を支持し、示威行列をやつたり・路傍演説をやつたり、町役場の前へタヌキ助役だの・狐町長だのと悪罵した掲示を出したり、エライ騒ぎをやつてゐます。新聞も盛に當方の提灯を持ってくれるのはよいが、校内に紛擾があるの・女生徒が示威行列をやつたのと、ヨタを飛ばしくさるので弱らされています。それで二つ三つ模範的記事を提供していたけれど、それを焼直してくれずヨタ新聞のヨタ記事を、向ふへ向ふへと転載するので叶ひません。私としては小本正がないので、奏仕[？]特別待遇銓衡にかゝらぬし、例へ奏待になつても最終俸給二・三〇〇円位。それより今恩給法上の所謂併職にあるを奇貨とし、之に乗じてウマクやつたら最終増俸に於て得するといふ勘定で、勇退を決心してゐるのですが、旧友の地方有志連が、そんなことをいはずに野垂死するまでやれ、討死にしたら骨を拾つてやるといはれるので、

一寸意地づくで頑張ってゐる処です。併し町當局と喧嘩してゐる以上、所詮留任して永くゐるといふことは不可能で、縣としては失業救済の意味で小生の如き古株を退け、安値の孝歴持新人を持って来ようとする腹らしく、小生をばどこかの中等学校の囑託にしてやらうといふお情らしいが、小生として過去二十年の悪夢にコリ／＼で、もう教育介に未練もヘチマ無く、退職と共に絶対絶縁方向変換を試みて、大いに反旗を翻さうといふつもり。もう恩給証書さへ握つたら、後はもう……といふ処 呵々。前田望峰もエライがちと調子に乗りすぎた感あり。三尾の田淵と三人共倒れじゃなからうかと見たは僻目乎。

(も 生)

45 昭五・三・二五

(古座町 はがき)

拜啓 勝田天裁？藏氏出張の旨新聞で見ました。縣としてはもうあれで結構でせう。當地からも西向訓導藤田君が、島田京大教授に会いに行きました。當方生徒募集難で全く弱り込んでゐます。

46 昭五・六・三

(" 封書)

拜啓 古墳に関する報告有難く拝見。是非一度機を得て巡遊致度。本當に日高平野は古墳の分布状態濃密に有之、まだ徹底的調査を必要と存奉候。小生富田川口まではザツト見廻り候も、それより以南當方面へかけては全く無識。まず今の所當方面などは、全く古墳らしきものすら見當らず異様に感ぜられ候。下里町に於ける神社跡の古墳らしきものゝ如きも、発掘の結果單に砂丘に過ぎざること判明失望致候。

先般縣參、會計検査の砌毛利氏來訪、近く委員会開催方當方へ要請あり。勝田囑託などに任して置きてはグズで埒明かず困るとの話あり、近く委員会開かるべき模様に候。天然記念物報告の急を要するものもあれど、それも一木一草や群落の指定に止めず、黒島とか鹿島とか神島とか稻積島とかは、島全部を指定することが緊要と被存候。それも政府の国宝指定に準じ、縣としても何等かの規定を設け国宝とまでゆかざるも、兎も角も地方としての什宝(書画・日記など)を保護とまでは行かざるも、せめて散逸せざるやう施設を要すと存候。當地西向村成就寺所藏、長沢廬雪の画の如き前住放蕩売払はんとせしことあり。塩屋羽山家も芳樹氏死亡後家政整理中、芳樹氏の祖父大孝翁は其の名の如く大孝者にて、「螢惑夢雜誌」百拾四冊・「杏花園雜記」数冊など遺せるが、井上辨護士の手で整理中近く競売に附せられるとか。而して三千円とかに評價されてゐるとかの話もあり、目下の時節柄とても売れざるべきも、何とか保存して貰はねばと存じ、目下山田栄太郎氏へ懇請中に候も生遠からず。教職と絶縁先づ此の種紀州先賢の遺著(就中未刊物)を整理、保存刊行の道を講じ度き存念に候。斯くて残生を此の方面に捧げ度、先づ和歌山か田辺を中心としてやり度。

「大毎」近刊紙上に見えたる、和歌山切支丹臭味の墓、西郡江住にもあるとか。日高でも吉原松見寺はキリシタン臭味濃厚、或は大松原辺の墓地などに匿れてあるかも知れず、興味ある問題と存じられ候 敬具。

47 昭五・五・一四

(古座町 はがき)

拜啓 銅鐸見取圖御惠賜下され多謝致します。実地の御寫眞とこれを拜戴、実境を目撃するやうで坐ながら勿体ない心地致します、不取敢御礼まで。縣の報告中岩西忠一氏の海草の古墳報告最も價値あり。勝田君の報告物何れもどうも感心せず。公費を使ってやたらに出張する以上、もっと權威ある報告がほしいですな。柴庵氏先般「紀毎」で勝田クズベーと攻撃してゐた。

48 昭五・六・三〇

(古座町 はがき)

『揺籃期の紀南を語る』は、もっと突込んで書けないこともないが、まだ二階黨の領袖で相當羽振りを利用してゐる仁もある事故少し遠慮した訳。実は四十年の時の縣議戰の「紀南新聞」を、先般崎山から貰ったんで面白可笑しい材料がタントあるのですが、高尾君や滝本君(呂川)もあの頃チヨイ／＼書いてゐるやうですな。さて當方相変わらず問題が多く、外交をやらぬ男ながら矢張り呑むこと多く、こゝも金・金・金で節季が厄介です 呵々。

49 昭五・八・二日

(古座町)

拜啓 不景氣風猛烈で、とう／＼私も失業者になりました。豫而期してゐた低氣圧ならぬ、強圧がやって来るやうな豫感に襲はれ、こゝぞとばかりやってしまひました。貧乏鬪ばかり引いてどうも多事多難な教員生活を体験しましたが、最後まで貧乏鬪らしく今恩給關係を有利に展開すべくグズツテゐる処。それでまだ発令されていませんが、大抵本月中には當地を引揚ぐる豫定です。さて退職後の行方はまだ定まりませんが、縣では(或は小生の退職後の反逆を幾分氣にしてゐるのか)此の不景氣の折柄、中等校方面で月一〇位の囑託に採用しようとのベラボウに結構な話。さすれば恩給と合算して現在よりも収入がずっと増す勘定、まさに失業成金ですが、私としてはもう教育介とは絶対絶縁して、物質的には苦しくとも孤軍奮闘で邁進する決心。大抵和歌山方面へ出て新聞に勝手な熱を叫びつゝ、著述をやらうといふ目論見。内原駅附近の郷里へ皈つてもよい理ですが、実は紀北は未知の世介なので、二・三年はその風物に親みがてら修養を積みたいと思ひます。併しひよつとすると田辺附近へト居するかも知れません。田辺には同年輩の友人が居る關係上面白いのですが、それに南

部へも近いのですが、図書館のないのがつらひのです。和歌山だったら縣立図書館もあり、大阪府立へも便利ですから此の点好都合です。それに和歌山だったら岡崎君の借家がいくつも空いてゐるらしいので、利用するのに都合がよいといふわけですが、未だ過般未交渉中。第一和歌山附近・第二田辺附近・第三内原といふやうな順序で比較考究中です。何れ決定次第御知らせ申し上げますが、將來一人の御厚情を蒙り度く、何れ落着次第万葉地理やら何やら矢継早に出版をやる豫定。実はこういふ方面に余生を捧げんと希望に燃えて、教育介には執着を持ちません。こんな土地にでも家族等は余程の愛着心をもってゐるらしいが、私は来春三月までの豫定を半年早めるだけで平気です。たゞ私経済は一寸苦しいですが、今はそんなことを愚痴って居るべき場合ではありません。本月中(下旬になりますと一寸多忙になります)御寸暇に御觀光旁々御来光を御待ち申し上げます。過日來在東京の友人來り、次いで南部の農林生來り、ちよい／＼來遊者があります。羽山家の整理で大孝翁の「螢惑夢」雜誌百十四冊が、三千円に代えられんとするの風説あり、山田栄太郎氏に警告しましたが、山田氏の所管に移つてゐるらしく、散逸の憂なささうです。

拜啓 引揚げ準備就りて父兄會長へ内々で諒解を求めたところ(父兄会とは會計問題・金錢出入問題ありて引継を要すと、前回擁護運動をやつて呉れた経緯あり、黙つてゐる訳にも行かぬので)、父兄会としては前々からの行掛り上、會長限りでこれを秘し置くわけにゆかぬので、止せばよいのにこれを評議委員会へ報告したのです。すると評議員中の強硬分子が、それを放つて置いては父兄会の威信に関はるから、藤並視幸と一戦しようとなつて、遂に父兄總會を開いて騒ぎ出すといふ騒ぎ、私としては実は有難迷惑な話で、実は藤並視幸の陰謀に乗りながら、さあらぬ体を装ふて恩給關係を極力有利に導き、もう発令を待つばかりであつたのです。処が父兄会が騒ぎ出したのはよいが、紀勢を上げるとあつて幹部総出で新聞宣伝をやつたものです。そして藤並視幸の陰謀を明るみへ出してしまつたのです。|| 藤並は森を誡つてその後へ引地黒江を、黒江の後任に海草の〇〇を・海草の〇〇の後任は藤並自身が行く|| 此の筋書は傑作と見えて、友部さんから當方へ伝はつたものです。當方それを素つ破抜いたので、藤並真赤になつて怒り出し、支庁へ出入りの新聞記者を集めて盛に「森は資格がないから當然誡首さるべき運命にあつた」と宣伝をやり出すといふ騒ぎ。當方としては免許状はないが、特別任用の道は確にある。現に判任待遇になつてゐるのは資格があるからだ、資格がないといふなら、現在の校長を任命したのが違法だ。心得とも取扱ひともせず、資格があるから校長に任用して置きながら、資格がないは聞こゑぬぞ。若しそれ奏待なれば小山代議士が本省の見解を聞いて来て、確かに可能だとやり返

し、トドのつまりこれを法廷で争ふといふことになってゐます。実は余り免状なしの裸男として有名になり過ぎ、余り名譽でもないのに藤並に一矢酬ひる意味で、今は秘して置いて発令と同時にやる筈になってゐます。之を明かにして置かぬと、恩給法にも影響するのじやないかとの虞もあり、否それを法廷で明にすると却って、恩給に悪い影響をおよぼすといふ説もあり目下折角考究中。実の処私の辞令が変な辞令で、商工長・女校長併職で両方から俸給が出て、その両方の俸給が恩給の基礎になるといふ専門家の見解があるのです。そこを賢う利用しようといふのです。呵々。ところが父兄会の強硬分子の猛運動が案外猛烈で、我黨内閣の威光を利用し、西田代議士ではオトナシすぎるとあつて、山崎代議士や中井縣議の巨砲で猛射してゐるのです。それで九月差入れに発令される豫定のところ、まだ其の運びに至らず。今十一日にも父兄調印の陳情書を出すといふやうなことをやってくれるので、私としてはもう生殺しにあつて、白日のもとに晒されるやうな感じもするし、余り當局を制肘しその邪魔をすると、最終の増俸がうまくゆかぬので、どうも困つてゐるところです。今度のことは来春まで頑張つてもよかつたのですが、縣（支庁）と管理者（古座町長）と通謀してゐるので思切つてやつたのでした。ところが辞表を出してから拾日も経たぬうちに、政友のチャキ／＼古座町長が卒倒（卒中）で死んだのです。其の後は未定ですがどうやら當方の派（民政系）の若手が出さうになつて、組合内は有利に發展してゐるのです。高池町長は民政で當方を支持し、西向村長は民政ですが中立、私も一昨年来の人事異動で所謂有志の感情害すること甚だしく、寧ろ今まで持ちこたゑたのが不思議な位です。いよく／＼近く発令あり次第、一旦郷里へ引揚げて暫く息を抜かねば経済的にも、戦費消盡・精神的にも神経衰弱でやり切れません。やたら腹を立てたり怒ったりするが、それでも狂ひもせず死にもせぬところをみると、ドコかにナマクウな根性があるのか。呵々。暇になつたら紀南へは應伐に行きませうが、何程も力になりますまい。まあ私の方から利用さして貰ふのが関の山？。何れ遠からず拜芝の機を得べく、堅田氏にもお目にかゝる機がありませう。

57 昭和五・一〇・二八

（古座町）

拜啓 まだ出ません。八月に出した辞表を却下して来ぬところをみると、発令するつもりらしく、新部長未だ管内の事情が呑みこめぬといふを理由にしてゐるが、実は我黨の黨人から尻をつゝかれてゐるからで、其の腰の弱さ加減呆れかへざるを得ません。苟も確信を以て計画したことならスパとやるべきに……併しもうやがて、十月ぐらいに発令されそうだといふ情報が来てゐます。私個人としては、もう最終俸の増給だけをセツいてゐるだけで、発令あり次第藤並を告訴して置いて、浪々の旅にでる算段（此の事坂君あたりへ極秘。坂も藤並も同じ穴の狸。海草穴の大狸・岩橋の寵児・坂／＼藤並・藤並／＼坂、どちらからでも何でも感電するや

うです)。藤並といふ男全く腹の黒い男で、次の縣会で爆弾を飛ばされるやわからぬが、悪運強い性故若尾視
幸がこゝの後任に出て来たら(来るとの下馬評もあり)、その後任として縣へ販るとの説もあり、引地引抜説
は新聞が素破抜いたで、ものになるまいとの話。やれく世間は茶にして渡らねば損だとは豫て期してゐた所
ですが、今度といふ今度は余程馬鹿を見ました。発令次第まだ見ぬ大辺路を一巡、若干道草を食ふて浪々の旅
に上ります。……人の洪水で、もう方々の幸校から新卒の売込猛烈ですか、今年はさっぱりですな。

52 昭五年十一月一日

(古座 ペン書)

拜啓 緊縮の余波は特別任用の中等校長の鹹るとか、平教員を減員するとか物騒な宣伝行はれ居り候が、中等
校の品位(?)とやらを向上せしむる爲に、特任校長を整理するとは、昔の特任郡長を一・二年で首にしたの
と同じ手でやるなら公正厳命にやるべしに候。有資者の若手必ずしも有能に限らず、無資格の老人必ず無能と
限らず、これは要するに人の問題に候が、やはり有資格の若手氾濫使途に窮したら、斯う出るのが止むを得だ
るか。何にしても老も若も・エライもアカも、卒も男も女も物騒になつて参り候。小生の首八分ほど鹹られ
て、二分ほど繋がつて白日の下に宙ぶらりんの態。今日は十一月吉日になるのにまだ電報が来ず、困り果て居
り候。サテ今日夏目康太郎氏から極秘に人を介して、「日高新報」の経営を引受けて呉れぬかとの内交渉に接
し申候。買収といふほど金を出す必要はなし、経常費を支出して多少利潤あらば資金を若干宛償還すればよい
といふらしく、小生引受ける意思ありとせば(つまり社長として経営の衝に當る意)、更に具體的交渉に入ら
んとの話に候。「日高新報」創刊當時の経緯は多少知るところあるも、其の後の変遷は深く知らず。たゞ刻下
の世相に於て経営難は想像するに堪ふるも、中村源六君が「紀南」紙で損したほど損するやうなこともるま
いかとも思はれ候。資金として持たねど、一つ乗り出して思い切り革新の斧を揮つて見やうかとも思ひ居候。
近々都合をつけて上阪、夏見翁とひそかに会見して来ようかとも存じ居候。併し「紀南」堅田君への義理もあ
り、「紀新」小山社長とも或経緯あり、聊が逡巡致居候。「紀南」堅田君が小生を利用せんとするは、どの位
の程度の話なるべきか、御見込の程伺上度。

53 昭五・一一・八

(古座町)

夏見・岡崎両氏との連絡がとれず。先方からの消息は入手するも、當方からの消息先方にとどかず、サッパリ
理がわからず候。場合により御坊に借家して一肌脱がうかと計画仕居りしも、話は骨だけで具體的内容に入る
能はず。依て一先づ郷里へ引揚げ暫く浪々悠遊の見込。先方も大阪方面からどこかへ旅行中らしく、當方より

押しかけても行けず困り居り候。今朝御書面拝見忝く奉存候。當方公的關係の一切の手續完了。依而一兩日中に未だ見ぬ大辺路經由飯郷の途に上り度。荷がらみが随分厄介にてヘトヘトになり申候。大辺路徒歩見幸を志し居り候へ共どうなるやら。何れ拜芝の機を得べく候。恩給關係をグズツテ多分うまく行きさうに候。「国民新聞」郷里の方へ御惠送を仰ぎ度、混雑中御返事申上候 早々。

54 昭六・五・二五夜

(内原村茨木)

肅啓 御高配万謝 「近世資料」難有鳴謝奉候。場合により之は一部買うてくれたところへ、一部景品の寄贈致しても宜敷、御腰にて適宜御頒輿の御取計ひ下されたく、随って御必要に應じ何部にても御送り可申候間御利用願上候。「鷲峰余光」につき本日岩林氏来宅、和歌山にても未だ二十部ぐらゐしか出ずとのこと。頗る悲觀的態度に候。當方も今の処二十部ぐらゐ、まああと五・六十何とかして捌き度ものと苦慮致居候。段々の御盡力拜謝旁々右の如くに御座候。

敬 具

志浦氏の幸校へ「鷲峰余光」一部売れ間敷哉。幸校に依つてはもう次年度豫算でといふもあり、之は次年度でも次次年度でも結構に御座候。

(備考 本編は昭和六年五月二十五日としたれど、書状には只六月二十五日とあるのみ年次の記載なし。封筒の入れ違ひなりしなり。即ち「鷲峰余光」の発行は昭和十三年十月なればなり。)

55 昭六・八・一八

(内原村茨木)

拝啓 北海道の御旅行先より御消息難拝見。品変る風物の御巡覽健羨に堪へず候。長途の御長驅御拾う疲労の程もさこそと拝察申上候。本日は亦御珍敷名物の御土産、及何より結構なる御品御惠贈被成、毎度の御厚情千・万忝く奉深謝奉候。何れ一度拜芝御礼旁々島巡りして、野田山人へも慰問に参り度と存じ居候。

実は大掃除一益一 全宝会巡りなど盡、暑中かなり身心過勞少し新涼を待ち居申候。岩代の建碑は村内のゴテにて一頓挫の形に有之。野田氏とも久しく会ふの機を得ず。小生も御坊駅はチヨイチヨイ通過するも、全駅下車の機を得ず。大いに御無音失敬此の事に候。御詫旁々右御礼迄申上度如此御座候。

56 昭六・九・一三

(内原村茨木)

拝啓 先日は失礼、さて野田山人のこと過日貴家へ御伺候日(八月八日なりしか)、島で春日会の掲示板を見はじめ承知。実は其の前より気にかゝり居り、その日も久々にて見舞に行かうと思ひ居たることろ、大い

に驚ひて、其の足にも弔問に出掛けんかと橋を渡りかけたるも、唐突故出直すことゝし。翌日改めて弔問致候。全く気の毒に候。特に桂藏君の転任一件がよほど病軀に衝動を興へしことを思へば、佐藤校長も寢醒心地よろしからざるべきか 呵々。勿論桂三君が御坊を出された経緯は、われわれの関知せざるところに候へ共、あの家庭の実情を思ひやる時、眞妻あたりへ持つて行くことは少々惨酷の心地せられ候。それに當節は運動〇次第阿附次第で、玉置体操君の如く四月に桂三君と一緒に山間入をした男が、もう九月に山間から出て来た例もあり、それに比較するとき朴直そのものともいふべかりし。故人山人君も黄泉の客として、あの世で苦笑してゐることゝ存じ候。何卒故人の冥福を祈る意味に於て、桂三君の身上に對し内密に御配慮を賜り度小生も応分の心配は致候。先日御願申上候切目及志賀行の件、小生も九月中選舉に關係なきも、何の彼のと雜用有之。十月以後の御都合宜敷日曜に願上度、どうせ十二月迄にやればよいことに候。「狼烟台」の完存せるものあらば指定手續致候。南部高井田山のは稍完全と思はれ候へ共、御坊附近で適當なものをほしく候。夏季はとかく健康不良、徒歩大儀につき、秋涼を待つてぼつ／＼海岸筋を踏破致すつもりに候。選舉の演舌に出てくれとチヨイ／＼申し来るものあれど御免／＼。とても暑いので自分の演舌すらとても大儀、トテモ一日三席巡演など命取と恐れ居候。それに甲を助け乙を授けないのも工合悪く候。

57 昭七・三・六

(内原村茨木)

拜啓 御無沙汰のみ失敬此事に御座候。一度拝趨野田君(桂三君)の栄転方につき、御打合せ旁御高見相伺度と存居候が、兎角家事向の俗累繁く、五日以前六日上南部・七日和歌山・八日上南部と、連日他出勝にて其意を得ず候。須賀神社一件今に書類不備で骨の折れること。而も結局見込みは？(只今の処日高方面で昇格の派あるは、兎に角須賀神社のみとなり居り、小竹八幡・御崎・野口熊野・川上阿田木等々悉く不合格のうちで、上南部だけはやゝ脈ありと見られ居るも)。次に「土俗資料」再刊の件拝承、之は「紀州土俗集成」とでも題し、紀の南北全土に亘り蒐集採録せば、面白かるべし伝説や方言の資料も相當所持致居候。先般杵村楚人冠氏より、和歌山市の方言を調査せる資料讓與する旨、申来られしも辞退致し候。今にして思へばあの時貰つてらよかつたのにと。

兎に角和歌山の書律で出版を引受け呉れるば、一つ書いて見ることに致度も。目下一つ儲かりそうな子供向の読物を立案、一方で損失必定の『日高郡大指の出帳』なり(日高と南部組・切目組・大指差帳合併)と、是非公刊致度。此の分は七分通り原稿淨書、後三分程に小生の附設(解説)を附し、四六版千頁内外に上るべく、大分厄介な出版物に候も、一方で併行して儲りそうなものを、最大急行で粗製濫造の意気込に候 呵々。新聞

も社長になれとオダテに来る者あり。此のオダテに乗って一つ大社長さんになって、出版物の宣伝に利用すること、野間清治の「報知新聞」式にやりまくらうかとの、む叛気もないこともなければ、右のオダテが眞に社長さんの、手腕・識見に惚れこんでの申込みなれば、大に敬意を表して出陣もマンダラならねど、社長の椅子をあてがうて、金（出資）せしめようとの魂胆あるものゝごとくにも見られ、うか／＼乗るべからずと警戒仕居候。ドレか一つ手に入れて少し面目を改めたら、他の二紙はスグ凹むこと必死と思はるれど、ドレにもコレにも相當の傷あり。最近創刊の分一番無難のやうに思はるゝも、ソコに又ソコがあつて、今少し感心せぬ点あり。今に於て野田山人君を思ふこと切、野田君流の人を榮業務長にして、金庫番を司らしめたら間違ひあるまじと存申候。併し小生も結局上手にオダテに乗って出陣しようかとも思ひ居り候。今日縣庁で川島栄一君（自治会幹事）に會ひしに、清姫伝説を自治会の雑誌（自治）には非書けといはれ請負来り候。自治と清姫の対照頗る妙。田中敬忠君の史談本月末か来月出るべく。和歌山の人濱田康三郎氏も四月より、郷土研究誌を出す大意気込み居候。此の人は明恵上人に関する研究家にて、上人の遺跡指定は概ね此の人の盡力に基づくものゝ由に候。由良の人魚屋吉次郎氏は発明の天才、名所の土産物など此人の創案に係るもの多く候。南部の梅の種の廃物利用案も目下考案中、開山興國寺の土産物も工夫方囑托申候。

啓上 京極中納言定家卿の自筆原稿を寫眞に撮ったといふ、建仁元年「熊野御幸記」（巻物一軸）を古本屋から入手、「十月十日シシノセ山崔嵬嶮巖石不異昨日」とあり、やはり不異が本當らしく候。標題は「熊野道之間愚記」とあり、縣立圖書館にも此の伝寫本あるらしく候。多分小生藏の寫本と同種のものならん。さて野田桂三君の甲斐の川逆流には、一本も二本も三本も参つてしまひ申候。玉置視幸に懇請（直吉大人と全視幸と懇意なりし由）、全視幸より上松視幸へ内密に依頼して、御坊近在へ出して貰ふつもりで、甲斐ノ川逆流はワケがわからず、四月一日桂三君本人を上縣せしめ、玉置君に談判せしめたれど要領を得ず（要領を得る位のガチマン先生ならば逆転などになるまじ）。先づ泣寝入世話した小生は面目丸つぶれで、二枚も三枚も男を下げ候 呵々。多分久保藤一（これも小生の旧弟子）を甲斐ノ川へ、野田桂三を西内原への豫定が視幸多忙に紛れて錯覺でありやこりや取違へたらしく、先づ小生は善意に解釋して憤激を差控へ居候。併し何にしても有難からぬ錯覺、それにアチコチの校長さん達にも内々懇願して居たが、これは屁の皮ほども効果なかりしことに口アングリ。併しこれはアングリする方が阿呆と存じ候。

次に「紀州毎日」の通信簿焼却云々は、近頃御迷惑至極の沙汰と拜察。之は多分貴校長か或は職員一同として

の、創刊号広告料としての献金がチト澁かつたのではないかと想像仕候。小生にでも社長になれと好餌をもつて釣りこみ乍ら、一面献金を強要し、現役校長の例を以て圧迫し来り大閉口。併し現役でない強味で、ほんの御ハナガラ程御三酒料をやったのは大出来だったと鼻を高くしてゐたるに、豈圖らんや小生仲介の縁談に対する中傷的投書をソツクリ其のまゝ掲さい、こんなことになるのだつたら一文もやるのじゃなかつたのにと、後悔先に立たず。馬鹿奴と嚴重抗議したけれど、ウンともスントモ挨拶に来たず、面の皮の厚さに於ては矢張りこちらは負けに候。小生の方は假名で暗示せるに止るも、御校のは氏名まで明記せること故、堂々と刑事訴訟法により名譽毀損罪で告訴を提起する價値十分に候。史蹟調査一件で徳本人誕生遺跡指定せられ、御高配相煩したる寫眞も活き難有奉存候。有田の泣沢女の塚も同様。然るに切目風早の狐の森だけ漏れたるは、崩潰の甚だしきに依るか。海岸防禦の史跡(主として狼烟台)を徹底的に調査すべく、之が一週間以上を費すべく、正當旅費支給を受くべく出張命令方申請せるに、經費缺乏新年度迄待つて呉れとの解答、乱費を自白致候。先日外のことと社事課に出頭せるも、勝田囑托の不在で要領を得ず候。併しもう命令を待たず、近日(印南・衣奈間)日高海岸を一巡の筈に候。南部より切目までは調査済。切目は遺跡そのまゝ遺り申白く候。機会あらば一つ撮影を煩し度ものに候。

肅啓 昨日より「紀南」へ連載の拙稿、実は前週土曜の暁に脱稿。翌朝其れを携帯拝坊の上、一應御意見を伺つた上、新聞へ送る手筈になつていゝたところ、當日になつて家族皆それの用向で他出、小生一人留守せねばならぬことになり、エー儘よと(掲載は一日も早い方よいと思ひ)御坊行の人に事つけ、堅^{かた}氏宛直送してしまつた次第。若干の御迷惑になる点もあつたかも知れませんが、何しろ一氣に書いて書きまくつた爲、後から掲載されたのを見て、自分ながらちとどうかと思ふ^{おぼ}廉もなきにしもあらずですが、併しウソの皮を完膚なきまで引剥ぎ、盲目千人の豪を啓くに於て、大体の目的は達し得られたかと存じます、でまあ悪しからず御高議を賜り度く、大抵明十六日の三回目ぐらいで完結することと思ひます。「紀州」・「毎日」・「紀伊新報」・「大毎」と三把一束に徹底的に叩きつけてやつたつもりで、初め「紀協」・「毎日」をオダテたり・コソグツたりして、やんわりと持ち込んでポツ／＼と論陣を進め、之でもか・之でもかとひた押しに押しの一手でやつける論法だつたつもりですが、一つ大事の大事の警句 || 取つときの巨弾を打つのを忘れて、これだけは遺憾千万、それは『敢て問ふ、紀州・毎日一手販売のやうにウルサイ程聞かされる。「厳正公平・純中立」とは抑もこんなウソ八百を書き並べて、ヨタを連発するの謂である乎』で、キャッポンと参らせる筈のところ、ウツカ

り忘れて千歳の恨事に思ひます。野田桂三君甲斐ノ川へ左遷一件は、土地（眞妻）から排斥陳情（腰掛式とんと眞劍に落ちついてやらぬ、出して呉）あつた爲らしく、それにしてもそんな事由で山奥へくと追込む、伝統の方針が間違つてゐると、先日縣當局に一本キメつけて置いた通りです。古久保君でも視孝になつてくれたら頼み易いが、私としてはもう植松や玉置・若尾などいふ連中へ頭を下げて行けません。まだこれから折にふれて新聞で厭味をいってやるつもり。それで野田桂三の世話（縣當局へ泣きこむこと）はもう不適任になりましてたら、是は一つ貴台にお願ひして一つ手を変へねばならなくなりました。何れ拜芝万々面陳致しますが、一つよろしく御配慮願ひ上げます。

開山興国寺の松明踊の由来『開山原見坂の傳説』、幽明を隔てた悲恋の哀話を本月末の『自治』と『紀州公論』の二誌へ併載の豫定。紀州全部の傳説でも調べて、全集でも作つたら□に面白いでせう。

60 昭和七年五月一日

（内原）

拜啓 告訴提起が実現するやうだったら、私の方も鳴をひそめて黙視してもよいのですが、それが実現しないとあれば逆襲に應戦する意味ではありませんが、兎に角一應私としての立場を宣明し、心事の公正なることを告白して置きたいと思ひ、別封原稿の通やつて見ました。文中チヨッピリくゝと厭がらせを言ひ、痛ひ所にもふれてゐるが、グサリと刺すことだけは差控へてゐます。幸校側にも先づあれ位の程度で少々と勿体ぶつて、而も極くやさしい注射二本打ちこんで居いた次第ですが、御通読の上御意見もあらば御洩らし戴き度、どんなにでも改訂いたします。御意見あらせられずば紀南社へ御廻付方御取計りを願ひ上げます。尚此の種事件をタネに幸校へ脅迫がましいことを申出る不良漢があつた場には、警察へ密告してよう膺懲して貰うやうに願ひ度。大物がやつて来たら私共へ御内報戴けば、甲紙のユスリは乙紙で・乙紙のユスリは甲紙で摘発するといふ風に、悪弊掃除の任務にあたります（以下畧）。

61 昭七・一〇・二〇

（内原 はがき）

拜啓 箕島で新発掘の銅鐸現場を一寸大急ぎで見て来ました。伴出物がありませんかとの期待を以て、キツイ山頂まで登りましたが、何も伴出してゐないやうです。御出張になるやうでしたら御伴して、もう一度緩々見に行き度、序でに山地の古い銅鐸も見たいと思ひます。有田より飯来寝こんでしまひ今日は如此。

62 昭七・一二・二七

（内原）

肅啓 歳末御繁忙と拝察仕候。扱本日は何より結構の御品沢山御惠被下多謝々々。毎々頂戴致すばかりにて、只管恐縮此の事に御座候。何れ一度御邪魔申上げ万々御礼申上度と存じ居候。史跡報告調査ノ件大いに新聞で宣伝に努め、人氣をあふり申候。呵々。斯くして町村の當局や有志を喜す算段一笑い下され度。それで宣伝だけは抑々しく中味は屁の如きもの何の変哲も無之候。縣當局問責については毛利氏失格後縣議其の人を得ず、今回も松本眞一氏がやゝ適役かと思ひ色々頼こんで置いた所、どうしたのか余り議場で氣を吐いて呉れず、大いに失望致候。松本駄目餘子は碌々こんなことでは共に語る資格無之。縣会も存外ツマラヌ所に候。斯種慨世余言を発表する機関の必要を感じること切。井上豊太郎君も同感なるも「日高新報」で味噌をつけて以来、再舉については余程槓重に構へ居り、且つは私經濟通迫容易に起つ能はず。新聞は四つも出来居り候へ共、どれもこれも似たりよつたりで何等特色を認むる能はず。且つ他人の新聞へは兎角言論発表の都合よろしからず。無論四紙が四紙とも此方を向ひて色目を使ひ居り候へ共、何れも一長一短ありて俄に乗り出す程の勇氣も無之候。堅田紀南氏も先日久し振りで来訪、稍具體的な内情を話し呉れ候。尚細かい話は致し居らず候へ共、場合によりては老舗「紀南」を守り立てゝ行くべく、その経営に乗り出すことは他の新米を助けるよりは、世間に対する聞こゑもよろしかるべきかと被存し候。併し物質的に相當大なる犠牲を払はねばならぬやうならば考へものにて、寧ろ新に第五紙を創刊するに如かずとも被存候。と申しても相當な新聞を興すにはなかく、資本を要するらしく、小資本では今の四紙同様貧弱なものしかやれずとの、井上君等の意見傾聴に價するもの有之候。何にせよ一つ有力な新聞が出来、優勝劣敗自然淘汰をやらねば讀者殊に有志層はこりく、この年末など広告料セビりに皆々閉口頓首の至り、「紀州毎日」まで小生に広告料を請求にくるほどの鉄面皮、いやはや呆れ返り申し候。然し浪人獨自の立場に於て、今は兒兼も何もあらず片ツ端から糞くらへの連発、痛快此の事に候。呵々。原稿セビリも閉口、去り乍ら之は逃げる道あり、雜誌へ執筆の原稿を三つも四つも複寫して居きその槽を分配、即ち勞力只といふうまい方法に候。呵々。

雜誌も田中君の「紀伊史壇」は無代配布の篤志刊行物、浜田君の「紀伊郷土」・猪場君の「紀伊藝術」も眞面目なる企画に候。東京山崎君の「紀伊公論」も眞摯敬意を表する價あり。猪場君其の人は知らず候へ共、他の三人は至極眞卒な人物に候。幸校方面へ時々無心に廻る、大阪濱寺の阪本恭雄君は評判よろしからず。是は御注意なさるべく候。何れそのうち拝眉万謝申上度候へ共不取敢。右乍略謙書中を以て御礼申上度。

拝啓 御来示の件拝承、直に拝眉御協議の上と存じ候ひしも、丁度婦人会にて稲原辺に御出張のやうに推察、

拝趨を見合せ直ちに松本氏宛「一名減の具体化が突如日高方面へ、日高々女現れ將にその実行を見んとする形勢。即ち芝口氏を犠牲たらしめんとするものゝ如く、……が之は教育上大ひに熟考を要する問題と存ずる。日高々女は数年来校長の更迭頻々で実績擧らず。今山本校長に芝口教頭を配して漸く安定を見つゝある折柄、當分は現状維持をもつて上々の策とす。縣從來の無軌道行政は頗る深概にたへず。その不法を精算する意味に於ても、五考三考を要すのみならず、日高々女のみ有一名減を強ふことは、省令違反の嫌あり」云々。「之は日高を侮辱し国法を蔑如することの蓋し、優柔不断の校長が縣から賞められてゐるものか。縣としては退職囑托の常套手段に出でんとするものならんも、日高々女の場合は今回は眞平御免預らく、此の御鉢はよそへ御廻し下さる様、可然接衡方宜敷御配慮を煩し度」との意味を懇請致し候。松本氏は斯種問題尤も理解あり適任と存じ候。但し向ふ意氣強く頑張ることは前田氏一等、此の点で一度親しく御協議申し上げんと存じたるも、前述の次第にて先づ松本氏へ依頼致候。(以下省略)

64 昭八・三・七夜

(内原)

啓上 先宵は一方ならぬ御厚情を辱けなうし候上、本日はまた『日本民家史』まで御惠被相成、御芳志深謝に堪へず候。洵に稀代の珍籍永く愛藏致度候。前田君へ御依頼一件、向ふ意氣の強い性故この好漢懸命に頑張れば、獲る所少からざるべく期待され申候。野田桂三君の件同君は農林出身故、出身幸校より手を廻して上松視孝の鞏丸を握らしむべく計画致し居り候。先づは不取敢右御厚情旁々此如御座候。兎角俗事纏綿昨日も當地の法会と、島塩路家の告別式とかち合ひててこ舞致し致候。明日は南部農校の卒業式と、旧卒業者(優良者)の表彰伝達式あり、今日は同和会總會のよしなるも、斯種公的会合へは一切失敬致候。

65 昭八・三・一七

(内原)

啓上 御高書拝見御来示の件遺憾なれど、寧ろ此の際の御高踏は恩給受給上至適の機とも被存候。新恩給法なるものゝ成文は未だ見づ候へ共、縣當局が宣伝する所の如くんば、此の場合には恩給關係に於ても好都合。當局としても恰好の武器と盛に之を振廻し居るらしく、精々此の機を利用有利に御展開、御解決あらんことを御期待申上候。是蓋し刻下に於ける適策か。松本君へは小生より日高々女問題として依頼したる次第につき、小生より適宜挨拶状(否不足状)を一本参り置くべく、貴台の方では御黙過願上候不取敢、右貴酬迄申上度此如に御座候。先日拝載を忝ふせし『日本民家史』面白く拝見致居、定價は高けれど高いだけの價値はある様に覺へ

申し候。

不一

66 昭八・四・一五

(内原 はがき)

拜啓 まるばしやりんばい || || 成る程くこれでよくわかり申候。大いに有難く奉存きやうらんも面白く、兎に角西口の植物景觀は、素人目には素晴らしくよろしいやうに感じ申候。森似仙氏に対し傍若無人の一発を飛ばし申候。但し「紀南」之を掲載し得るかに候。

67 昭八・五・一六

拜啓 御寫眞拜戴有難存じ候。先日亀山の東の尾平井氏の開墾畑を見に参り候処、案外時間を費し腹ペコくになり附近を見る能はざりし次第に御座候。何れ御高示の箇所、及亀山東より西へ畝伝ひに一巡致度奉存居候。実は亀山の狼烟台趾の有無に確めづして「無し」として了った跡にて、あの報告は随分よい加減なものに候。塩屋の珍植物寫眞も難有拜見御礼申上候。珍植物と云へば磯辺の「たいきんぎく」を欲かった。小生の標本を持って採取に出かけ二回も行つて而も遂々得る所なくしてスゴくと飯った人も之有候。志賀の湯森順吉君先般来訪、蟻島へ一度渡らんかとの話に遊意動き居候。未見の油良湾南岸も一巡致度(池田・阿戸・志賀)三方の境上、大平山狼烟台趾も実地を知らずして「無し」としてしまひたる行掛上、一度は上つて見たく存じ居候。崎山君の急変と殆んど時を同じうして(四月二十三日)、宮原剛氏も交通事故の犠牲となられた由。小生も四月末より度々南部へ参り候が、あの山内踏切の辺を通過するのがいやになり、先日は岩代駅で下車山越に目津に参り候。崎山君のアトは洵に困ったものにて、唯一の遺産としての開墾畑一町余歩は、故人の手で経営して始めて若干の價値あり。故人の手を離れては殆んど無價値、否経営してもくたびれ設けになる位のものにて、全く致方無之候。恩給は有功年限タツタ三年(一給俸一四五円)にして、貰つてその七倍に相當する一千余円(死亡賜金一時扶助料)を得るのみで、之では校葬の華かなりしに似ず、實質的には犬死同様にて同情に堪はず候。それで職員会でありつたけの智恵を絞つて、弔慰金募集を發起致候。さりながら校友会をはじめ、近町村有志連は既に香奠・香華料を供へ候事にて、弔慰金になると二重・三重となり成績が案じられ候。而も弔慰金でもいくらか集うねば、遺族(嗣子はやうやく尋一)は全く立つ瀬無之。洵に表面華かに内実なこと、かくの如き例は稀有と存じ候。かういふ事情にて御校あたりへも、無理な御喜捨を御願ひ申上げたることかと存じ候。切に御同情・御洞察を賜度奉願候。小生また此の土曜日に南部へ参り一泊、日曜日滞在故人の建碑・その他につき打合せ度奉存候。『至誠現觀空信道居士』と法名を贈られ申候。六月に入つて日曜日などの休日を下

し、由良の内方面の植物介見孝に御指導願上度念じ居候。不取敢御礼旁々右迄申上度。本年の退職増俸は一率に蒞かつたらしく候が、やはり恩給法改定実施前と云ふので、縣も腰を据へたものか。

68 昭八・一〇・二五

(内原)

拜啓 先日は態々御来光下され候処、何の御愛想も無之失礼仕候。方言訛語を補修して専門的(?)方言を加へ度。動植物の部門については、何れ御助勢を相仰度念願に御座候。此う云ふ方面に着眼し出色のものとせば確に受けるばかりか、孝介を裨益する所少なからざるべしと存じ候。「紀南新聞」遂に二千円にて松本縣議の手に譲渡済みの報到る。二千円なら買つて置いてもよかつたとも、今になって思ふは未練といふものか。津野君初めより只、又は只に近いものなら譲受くべし。高ければ飛び付く程のものでもなしと申し、小生も大分躊躇し候処。堅田氏債務の取付に会ひ、万策盡きて楠山米喜知氏等の仲介にて、松本君に塗りつけたるものゝ、申道理で松本君の弟が(一洋)昨今紙面へも顔を出し居り、之は營業を主宰する由。二階君の「紀州毎日」(国民)も話しありてそのまゝになり居るも、津野君の話にアレハとても買収しても、算盤にも何にも掛からぬとあり、先づ暫く形勢觀望のつもりに候。

69 昭八・一一・一三

(内原)

肅啓 御高示(堅田氏より御伝言)の件拝承。堅田君も氣の毒なる状態にあり、記念品贈呈の件に就いては應分のことは致度。松本君へ譲渡しの件の発表を遅らし居るは、堅田君の方にて債務整理の都合ありてなりと、消息通は申居候。小生も常盤の方向とか道をつけ、言論機關を手に入れて筆陣を張り度く居候。

原谷「鞍多和長尾記」(崎山氏旧記) 謄寫印刷に附し、内原区小孝教員研究会講本に使用致し候。分別冊有之近日中に一部拝呈仕可候。「謄寫版及付属品」破格廉賣を標榜し「紀州謄寫堂」といふ謄寫版屋を始めやうかと存じ居候。実用的機械を十円位・上等原紙を一棧二・三厘見當に売って、一大競争をやつて見たら面白いのみならず、確に社会の爲になると存じ候。新聞経営の場合代理部の如きものを設け、眞先に謄寫版の大安売をやらうかと思ひ居候ひしが、今は新聞を離れて獨立し商売をやらうかと、大いに氣を出し居り候。

常盤には経営上の相談役とも云ふべき評議員といふものあり。今は有名無実なるも田辺へ引越せる、吹上惣太郎・村長出口友藏氏これは無難なるも、昔(二十何年前)紀南で『和田の古屋敷は三穂岩屋の遺趾にあらず』中西和男氏に興ふ」といふ論稿で攻撃を加へた、當の中西氏(御坊補習中西和太郎巖父)あり、之を懐柔するの一寸骨に候 呵々。

70 昭八・二・一五

(内原)

肅啓 先日松本眞一氏へ依頼の件につき、本日簡單なる返信に接し申し候。御来示の通縣事務當局へ進言、然るべく善処される見込との事に候。サテ其の進言がどう響いて来るか、注目を要する謙と存じ候。幸に幸校へ好影響をもたらさば此上なきも、然らざる場合は更に対策を構じ、巨彈を投ずる必要も有之か。此の辺御含み置きの上御報らせ賜り度、右不取敢御報旁々此如御座候。此程より南部へ通ひ申候処、例により開会時刻延刻、午後六時開会といふ触れ込みが、七時過ぎにならねば聽者集らず、汽車で通ふものにはどうも都合悪く、或夜は峯屋泊・或夜は終列車にて御坊迄販り、それより徒歩販宅せば深夜十二時になることもあり弱り申候。聽者は初め二百三十名を越へしも、小生のは終り頃にて百二・三十名に減り申候。然し成人講座としては、先づ成績よろしき方のよし。

71 昭九・三・七

(内原)

拜啓 植物方言御直被下され、重々深謝の至に堪えず候。さて『いちひがし』植物目録(種苗商の)一位樗とあるものに當る乎。「きこく」は「きこく」として幸名にならざるか。『びじよやなぎ』は美女柳と種苗木録もくろくにあるものを小生取寄せたるに、昔より此の辺にある黄色の「びじよやなぎ」といふものと同様に候ひきなる乎。之とすれば「びじよやなぎ」とする称乎はかなり広く(少くとも兵庫県あたり)に行はれ居る乎。『十薬』の称もかなり広く行われて居る乎。言泉に「どくだみ」に同じとあり。『美女桜』は言泉にあり、一年生また多年生草木とあり『美女桜』は見えず候。

『きりしま』も種苗木録に見え、取寄せみるに(花は未知)葉は素人目に所謂『さつき』と同じやうなものと思はれ候。『ねこやなぎ』の『□□』の「□□」の意は如何なる候や。この辺で『みそはぎ』といふは『めどはぎ』の事に候や(盆の佛花用)、『はんの木』は幸名なるか。然りとせば『はりの木』は不可?。茨木の小事『はんの木』をえらい人ら『はりの木』と呼び、村長等村道認定に『針之木線』云々と宛字せり。『おん松・めんまつ』も方言としてはよろしきか。御序に御垂教奉願候。玉稿は暫く拝借、拝寫の上御返納可申上候間。凡そ本月末頃猶豫願上候。楠山光一氏方をば『庵之木』など宛字で書く人あり、意不明なりしが、今回御垂示により始めて了解致候。やはり『はんの木』の多かりし土地ならん。

72 昭九・四・六

(内原)

拜啓 これは実に御無理な御願に御座候へ共、故寒川君の弔慰金思ふやうに集らず。八方の有縁・無縁の方々

に御願ひ申し上げ、湯川又次郎・蓮池孫太郎諸君に迄願ひ申候。一人でも多くの方々から御喜捨を得度、何卒崎山信吉君の時に準じよろしく。以下謄寫印刷（愚念ながら申添へて置きます。先般御送り申し上げました趣意書によって明な通り、この學は故人の朋友及故人を恩師と仰ぐ旧弟子が慰靈のために、純情と至誠を捧げるものでありまして、念佛寺又は念佛寺壇中の問題ではありません。また茨木区の問題でも・萩原区の問題でもありません。たゞ善祐上人一個人に対する弔慰です。理屈屁理窟を超越した熱涙の結晶……それを捧げるのです。糞理窟をならべてケチを付けたがる人の身の上には、やがてきつとタタリがあるでせう）。荊木の西出方面の連中グズグズいふて出さず、手をやき居り候。今日（四月八日）三百二十円程に達し申し候。

73 昭九・三・五

（内原）

拜啓 本日は方言に関する御垂示を辱ふし謹謝の至に堪へず候。洵に深甚なる御筆勞恐縮の外無御座候。先般ア・イを無茶苦茶に書き集め御茶を濁し置候が、愈々次のウ・エ・オ・カあたりを本月下旬迄にやらねばならず、その爲に非常に有力なる、而も究竟の資料として感謝の至に堪へずさうろう。「えてきち」は南方先生あたりの用ひそうな面白き方言……と思ひ、落合芳賀の「言泉」を採つて見るに（土俗資料の方言辞典は金沢博士の「辞林」に拠れり）。第②義として陰茎の異名とあり、「おやかす」も「おやけるやうにす。おやす（俚語）」とありて、「おやす」・「おやかす」に同じ（俚語）”きのうはけふの物語”に「馬めがかのものをおやしてをりけるを」とありて、してみるとこの方言かなり広い区域に行はれ居るか。

『ぎんた』は宇井氏「魚譜」にオキヒイラギとあり之によるしきや。『しよしまい』は集米の転と見る面白きも、「言泉」に『しよしまい（春米）』

① うすずきたる白米・つきよね。

② 古諸国にて春きて京都に輸送し、大炊寮などに納めし白米

とあり、この転かとも疑はる。本義は兎に角此辺の『しよしまい』は、玄米なるか白米なるか一度老人に聞いてみるつもり。何にしても集米の転と見る面白きものに候。『しるかき』は確に面白き方言、つゆぎく御垂示有難存候。『ねこになる』よく言ふ語と気づき申候。いろく啓蒙を受く尠少ならず難有御礼申上候。「先賢列伝」も三分通り出来かけて、まだく海のものとも・山のものともわからぬ状態。明治前後の人物のことは大体わかり申候得共、近古以前になるとさっぱり目鼻つき申さず候。逸見万壽丸など入選させてたものの、サテ愈々執筆となると、抛り処・捉へ処なく落第を免れざる呼と憂へ屋申居候。追加補選の運動もちよいちよい致し居候。こんなことは運動や金で左右出来ず、やはりなるやうにしかならぬに、俗人はこれを解せざるも

のに候。此の仕事なか／＼厄介にて一月以来一勤二休、又は隔日出勤の態すると、塾はダレテ全塾遊び半分に
なり、これも困ったものに候。

74 昭九・八・一〇

(内原)

拜啓 大に御無沙汰失礼の処、過日は圖らずも御見事なる御品御惠被下され、御厚情深謝の至に堪へず候。一
度拝趨御礼旁々種々御伺申度儀有之候処、両三日来親族間に俗事交錯、日々甲に趣き乙に参り……といふ次
第にてへトへトになり申候。爲に方言稿の手入れも遅々、若林撰事堂との約束一件も流れ流れて伸び／＼致候。
何れ近日中貴稿御返却申上度候。人事はうるさいものに候、常盤の三・四人でも手を焼く位にて候へば、大校
多人数の場合は、實際うるさいものに候。常盤も組織変更問題何とかせねばならぬ場面に到達致居候が、先立
つもの〇が思ふやうに廻らず、それに従来の伝統……精神を傷はざる範圍に於て……といふことで、そこ
に自己撞着もあり、大手術となれば小舅連との若干の衝突も覺悟せねばならず。松本縣議も上手に廻り居り、
随分骨を折り呉れ居候へ共、當方は前田・小池両氏との縁故もあり、何れに対しても不即不離的やり居り候。
日高銀支配人連の白日の下に裁かることゝなりしは、何よりの快心事天道の公明を感謝致候。瀬戸明もやがて
同一運命に陥ることゝ存じ候。之もなかなか悪辣なことをやり居る由。日出紡百株といふ問題の株も手放すの
余議なきに到れるものゝ如く、泣き居る人も幾分慰めらるべきか。

75 昭九・八・三一

(内原)

拜啓 貴書拝見、実に愉快なる御報告今日にも実物拝見に罷出で度存じ居候(今日午後式後一寸行事有之、或
は明日曜日にも御邪魔申上ぐべき乎)。御示しの圖によれば純然たる弥生式の土器にて、尾上橋附近より出
でたることが興味津津たる所以と存じ候。則ち古墳時代に先行する此の式のもの、どうしてあんなところへ
埋ったか、自然か・人爲か・在来か・(流)転来か、その出土状態が面白く候。南部農林校実習地(沖積土)
がらも、今年頭弥生式土器ころつと一個出で居り候。田辺在秋津川の河床よりも昨一月頃出た由。して見ると
弥生式土器の出土状態は、一寸不可解の点もあり面白く存じ候。御報奉謝いづれ拝芝万々面陳支度 草々。

76 昭九・九・一五

(内原)

拜啓 乍唐突この貝は何といふ貝ですか、御高示を願上げます。これは和田村常德寺の西隣なる中西和男氏邸
の井戸掘のとき出たもので、上部に砂利層三間程もあり、その下に粘土層があったとかいふ話(もう大分以前

の話)。あてすつぽに圖鑑を繰って、ふねがひ科の「あかがひ」といふのによく似てななどいふだけで、とんとわかり申さず。中西氏の談に今も此の地方の深い海中にちつとあるが、千葉縣の海岸には多く産するといふ貝かと問ひに来られて、盲評定したが不得解決です。

77 昭九・十二・二

(内原)

拜啓 先日は御尊書を辱ふし深謝の至に堪へず候。本日(日曜)一寸拜趨の筈の処、井上豊太郎氏の郷土文献展覽会を一覽致度と存じ、早朝より和歌山へ参り遅くなりし爲め其の意を得ず候。展覽会も呼声ほど大したものには非ず。紀小竹屋の売立品や瀬見家より出でたるらしき旧記など相當あれど、呼値が高うして飛びつけず。別に堂場醉古堂の展陳品中、柿園詠草(拾遺共で三冊)六十円といふには聊かタヂく、それも附箋に三冊とあるを三円と読んで、三円ならば安いなあと手にとつて見れば(よくく見れば)、売價は六十円に閉口仕候。さて又々例の御無心恐入申し候へ共、実は熊野農林学校竹中教諭(上南部の人・前紀南農教諭)より、次の聞き合せ(縁談)参り候につき、御高見・御内示を賜り度折入つて御願申上候。(以下縁談につき省略)

78 昭九・一二・四

(西内原)

拜啓 御懇切なる御回示を辱ふし御厚情謹謝に堪へず候。前田氏より御照会ありしとせば畢意全一事件と存じ候。竹中君は小生の意見により最後の向背を決すると申し居り爲に、小生としても相當を感じて御内意相伺候次第。御高示に依り有力なる自信を得候事を深く御礼申上候。さて先般来一應(休日利用)拜趨の豫定の処、二十三日(新嘗祭)湯浅・広(梶原氏)に急用にて出向、同二十五日朝来客にて兎角不如意。三十日御坊へ廻りしも日暮れて亦意を得ず御無礼申上居り候。併し史跡報告に関し御筆勞を煩し度議有之、追々(メ切も切迫あせり居り候)御無理御願ひに上り度候間何卒宜敷。尚小松原天理協会の蘇鉄(名田沼野邸にありしもの田端昌平氏寄附)はどんなものに候や。御序に一度御高覧の上相當見るべきものありとせば、御手許より御報告相煩度。西川発掘物一件は勝田囑托に実地調査を求め置候(併し例のグズにて、ウンともスンとも回答も無之候)。

79 昭九・一二・一二

(西内原)

拜啓 先宵は突然推参洵に長座缺礼仕候。其の節御願申上候件御多忙中早速御執筆被筆被下難有拜受仕候。之にて大安心大きな顔して報告出来可候。尚寫眞迄御撮り下されし由深謝に堪へず。御出来上り相成候はゞ何卒一葉御惠被を賜り度。尚小生紋の拓本をとることを数回試み候へともうまくゆかず、最後の今一回相試度候

条御手数恐入候へ共、幸校迄実物御携帯下され子供に御ことづけ下され候やう、御取計ひ願上度先は御礼迄此如御座候。 敬白

80 昭一〇・二・二七

拜啓 春寒料峭の候益々御清祥奉賀候。扱御申聞の件実は小生方へも三・四日前に源君より来書、和中氏展へ参観の途次貴下へ御泊め戴きし由、その節一件御耳に入れ御高配煩し置きたる旨申来たり。全時にも小生にも未亡人に機を見て話して見てくれとの事に有之。小生としては至極良縁と存ずる故、何れ崎山家へ序に話して見ると回答致置候。これは大体に於て好縁組みと存じ候。源君はあれでなか／＼理財の才あり、壇中のなき小寺に候へ共、内輪はなか／＼裕福らしく村会議員にも擧げられ居り、嗣子も先づ相當の人物と見受け候。崎山家も遂に千里の農園（開墾畑）を手放し、今後の活計は随分苦しかるべく、千鶴子を三十才迄嫁にやらぬと云ふも無理からぬ点もあれど、娘困ふたらお婆に世の習、活計は別に何とかするとして、やはり娘は若いうちに片付かせることが穩當と存候。まあ機を見て一應未亡人へ話すだけは話して見ることゝ致度。其の上乗気になるやうならば源家の内情をもっと突っ込んで調べて見る事に致度、就而は千鶴子に対し尊台より結婚生活に入る気はないか、それが得策ならざる乎と御勧め下され度、小生は幼年時代の千鶴子を知るも、其の後はどんな娘になったかはつきり致さず單に顔だけ知れるのみ。先日（日曜日旧正十五日）南部の家に立寄り一寸面会したるも、ほんの挨拶をしただけに候。併し茲に小生の取越苦労ながら一寸懸念するは源君は男やもめ、此方も未亡人にて年寄の無い家庭に候が、之が親類関係になつた場合相互同情し合い、その同情が嵩じて変な行掛りが出来ぬとも限らぬ事（世間によくある例に候へば）に候（之は杞憂には過ぎづ候へ共）。源君後妻を貰ふといふ話も聞いた事もあるも、どうやら沙汰やみとなつてゐるやう。佐山氏兩三日前来訪石器を持って行かれた由、京大あたりへ行かれしかと存じ候。小生他出不在中にて面語の機を得だりし次第に候。西川のは勝田嘱托遂に來らずそのまゝになり居る様子に候。「先賢列伝」には閉口致し居り候。百賢を七十賢をするはよけれど、そしたら紀南の先賢は大抵削除組に入ることゝなり、小生の面目丸潰れそれで辞任致候。幸校の組織変更縣だけは通過せるも、尚文部省はどうか？に候。何にしても大分尊職をやらねばならず、此方は行詰つても辞職もならず、どちら向いても頭痛の種ばかりに候。 三月二十六日夜 匆々

81 昭一〇・三・二四

（内原）

御令息様御儀今回中幸校へ御進学の御趣拝承、大慶の至に奉存候。何れ拜趨御勸び申上度存居候へ共、不取敢

書中如此御座候。扱此程来拙家子供用教科書澤山御惠贈被下御厚志忝く奉万謝候。早々と教科書に親しみ得て、當人も大歡びに有之、厚く御礼申上候。今回有田郡広村岩崎勝氏を新設校の主事として迎ふる事相成り、山本啓藏氏も過般来囑托として来任され、大に面白く相成り申候。併し数日来新聞を賑し居るやうな騒ぎも持上り、聊か手を焼き申候。塩崎善一郎氏の從弟たる狩谷勇氏は全型の策動家にて、純情の生徒を扇動する位の事はやりかねまじきは豫而覺悟せし処。故にハハアヤリ腐ったナーと感じた程度に候へ共、然しあの男まだ何をやらかすか分らず、随分厄介な難物に有之候。併し騒ぎがあると入るものは矢張り金にて、新聞か〇を取りにるはどうも閉口に候。呵々。数日来原因不明のコブラ返りの継続的な足痛を覺え徒歩不能。この多事の際これにも弱り込み候。何れ落付候へば一度拝趨万々御礼も申上可候へ共不取敢右迄此如御座候。 草々

82 昭一〇・四・九

(内原)

肅啓 益々清案奉賀候。陳者今回東牟婁郡古座町の友人田中君より、別紙の通その姻戚の娘を貴校へ転孝方出願の由。小生その生徒本人を知らず候へ共、同居の先生と云ふは塩屋の人大崎徳松氏(西向訓導より今回高郡へ転任)にて、農林時代の生徒にてより知り居り候。又田中氏は小生少年時代の友人にて、信頼すべき実業家に有之候。何卒御詮衡の上志願を御聞届下されるやう、御高配の程御願申上候。渡辺校長殿へも別紙御依頼申上置候条、宜敷御取計ひ奉願候。過日来一難去つて亦一難といふ態。文部省にて非常な重荷を課せられ大弱り。浮世の花の春を他所に獨り生みの悩みを続け居り候も、まあ大体こちらのものと見込み候へ共何分最後の 大難関に候。

83 昭一〇・四・九

肅啓 友人田中君より依頼越候。此野生転孝出願一件、早速御聽居を忝なし御厚情深謝に堪へず。直ちに田中君宛移牒致し置候、不取敢此の段御礼申上度候。常盤商業も全くの処、海のものとも山のものとも判り兼候。折柄今日田端春三大人より設立責任者たる小生身許引受方快諾を得、茲に最大最後の難関を無事切抜け申候。之に依りどうかとこうか歪みなりにも学校は成立すべきに乎。残る所は些細なる書類上の手続きのみ。一安堵の態に御座候。 敬白

84 昭一〇・六・一一

(内原)

拜啓 新緑の候益々御清安の御条奉賀候。今春御令息様御入学御祝に何か拝呈仕度と存じながら、俗事に追は

れて遷延失礼此の事に御座候。別冊は博文館発行にて當今の漢和字典中白眉のもの由（參生参考用として）。其の道の人に承候に付一部御令息様へ御進呈申上度、乍失礼子供にことつけ御手許迄御届申上候間、宜敷御笑納被下候様奉願上候。 敬具

85 昭一〇・七・一八

（内 原）

拜啓 先宵は失礼仕候。さて昨朝投函の新聞に切手貼用を忘れたる由。此節は帯紙纏付の仕事を子供任せに致し居り、仍てこんな不如末不悪御寛怒の程奉願上候。

86 昭一〇・八・一二

（内 原）

拜啓 護摩壇・奈良へ御遠征の趣羨の至に存じ居り候処、本日はまた何より結構なる御品御惠贈を忝なし、御芳志謹謝に堪へず候。小生事内外俗務多端、それに夏は万年脚氣の爲身心倦怠、寸閑を得れば則ち墮眠を貪るのみ録々して爲す所なしと申す現状。幸校の方も対御坊町問題にて、暗礁へ乗り上げたる儘と相成居候。當方としても名譽ある孤立で現状を維持し、行き詰つたら潔よく廃校にすべしとなす。論者経営難は自明の理なれば、合併公立として活くべしとなす論者と対立、それに御坊町をして計画を變更せしめ（商業を断念せしめ）、工業・水産の如き幸校を起さしめるやう、有力者を介して談判することと云ふ論者もあり、これは所詮云ふべくして行はれぬこと（縣當局すら之は勧告出来ぬと申居）ながら、下村宏博士に内囑だけ致居候。小生としては内輪の意見まとまらぬ爲、縣當局へ然るべく裁断を一任し」といふことにして、一服致居候様の姿に有之候。不取敢御礼申上度乍略儀愚書此如に御座候。

87 昭一〇・九・五

（内 原）

拜啓 橘氏後任の件、昨日山下氏より花田氏の履歴書を山本氏にことつけあり、花田氏本人本日来訪、急転直下的に同氏の来任を乞う決定致し候（然し本職を有せざる氏のこと故、相當待遇せざるからざるか、さるにしても當方財政難にて思ふに任せず此の点一寸頭痛）。聞けば廣校高等科出身の由にて、岩崎氏とは子弟の誼あるとの事に候。右様の次第にて今回は乍遺憾、佐竹氏に御願する余地なかるべく事情御賢察不悪、御高議賜度右御報旁此如御座候。 敬具

88 昭一〇・九・三

（内 原）

拜啓 橋氏後任の件前便申上候通。従前よりの経緯有之礼として、先づ山下日中校長の御意見を伺ふべく、本日早速山本氏を煩し候処、山下氏意中の候補者として花田実氏を御推薦相成、四日午前十時山下氏本人を同伴、紹介旁々往訪すると申されし由。就而は明日一度本人に会ふて見るつもりに有之。待遇の点で當方の貧弱なる内容諒解さるれば、今の処山下氏に対する礼として、此の話を纏めねばならぬかと存じ居候。不取敢右事情御高諒仰ぎ度如此御座候。

89 昭一〇・九・三

(内原)

拜啓 豪雨連続小生等はもうつゞろを引張り出して着替ねばならぬ程で、和田ぶけの通勤はほとく厭になり申候。さて橋氏の件御垂示多謝々々、実は山下氏の御高配下され居る花田氏有資格との事(當校今出来得べくば此の椅子へ、有資格者を要望)に一寸話の緒をつけた処に有之。ウマク行くかどうかは不明なれど、行掛上・順序上この方解決の上佐竹氏への交渉に移りたく、佐竹氏の事は橋氏囑托の時も話題に上り、木下嘉一郎氏より内意をも聞いて貰つた程に有之。その時ははじ免木下氏に交渉・次で野田英夫氏に交渉・次で御坊小幸野尻氏に交渉、何れもウマクゆかず。佐藤佐内氏の交渉あせんで高女へ、更に日中山下校長へ懇願橋氏の兼任を見たる経緯有之。山下校長の雅量に対しては、ひそかに敬意と謝意を表し居候。然るに中幸内にも尻の穴の小さい人があるとかで、橋氏も厭氣さしたるらしくといふ経緯有之。この爲順序としてこの度も山下校長の諒解と配慮を煩す手筈致し居候。就てはこの話の結着ついて後、佐竹氏の話に皈ることに致度、右御高諒の程奉願上候。佐竹氏尋常科三年の時、ほんの二・三月その組を受持たること有之。今に器用な坊ちゃんなりとしことを記憶致居候。さて先生(二十日過ぎ)源光円氏来訪(自宅へ……小生不在のため更に和田へ)、當方学校問題も益々難しく相成り、対御坊町問題では小生も全く手を焼き申候。それに組織変更の爲すて更に塾の基本金まで使ひ果しさらでも経営困難、それが御坊との対立とでもなれば、當方はもう早目に廢校の申請をせねば、とても何ともかともなり申さずといふ現状。やはり事情には先立つものは金・金あって人集まり、人集まって事効舉るといふ順序で教育も御多分に漏れず、財源に恵まれざる私幸は矢張り當世では立行かず、なさけないこと乍らなさけなき現実に有之候。

不

90 昭一〇・九・九

(内原)

拜啓 御多忙中又々御面倒願出で恐入候へ共、実は今度當校に御眞影奉戴申請致し度、就ては縣へ申請書類提出に際し貼付を要する「平常奉安所」・「式日奉掲所」構造圖別々を、ほん簡単に御拵へ願はれずや御参考に

申上候。現和田校に於ける「平常奉安所」(之を継承する訳なれど、中味まで継承出来ざるべく)は、外部より見たる所間口三尺七寸(一尺八寸五分宛の兩扉附)・高さ五尺八寸、中は六尺以上あるか、奥行き不明(三尺位か)、中に八脚机やうのものを置きその上に奉置せりとか。それでは余り簡單過ぎはせずや。式日にはその八脚机を持出し、それを台にして神棚やうのものをしつらへ、簾を垂れて奉掲するとか、何にしても平常は階上に奉奉し式日には階下に奉掲する爲、兩者共通するときは運搬するに解体を要し候。個別のものとするも奉掲所は平生解体して何処かに取片づけ置くを要し候。

今回の必要なるは申請書類に添付する爲にて、實際調製の際には更に御指導を仰ぐとして、先づ書類に添付して縣當局の納得行くやうに正面圖・横觀圖といふやうなものを、出来るだけ簡素に御執筆願上度。「式日奉掲所」はどんな規模にてもよろしく候。前任古座校の奉掲所は平常は解体して取片つけ置き、式日に取出して神棚やうのものにしつらへ(前と左右には擬宝球など取つけありしことなど、微に記憶致居候)しやうに存じ候。白木造にて凡そ百円内外にて出来得れば仕合せに候。洵に御無理なる御願にて候へ共善い加減に一寸御作圖願上候、本當に善い加減のものにて結構に御座候。

97 昭一〇・九・一四 朝 (内原)

拜啓 洵に御面倒なことを願出で恐縮の至に奉存上候。実は本件に就ては内部に於ても・外部に於ても責任の加重に恐懼して進んで讃意を表するものこれ無。小生の獨斷專行にて申請と発表し該準備を進め居申し候。目下御坊關係微妙なる状態に有之。小生は太極より見て本件は當然のこと當然行ふ迄にて、何等憚る所なしと愚考申請準備を進め、幸校關係(外部評議員)の諒解も略成立、取急ぎ申請致度候條、何卒御高示の圖面複寫紙にて二通(本書と併せて三通必要)、御調製整の程伏して奉願願候。何れ拜芝万々具陳仕度宜敷右御願申上候。敬具

92 昭一〇・九・一六 夜 (内原)

拜啓 多大の御筆勞相煩し千万悉く御礼申上候。御蔭にて洵に見事に出来上り難有奉存候。何れ拜芝御礼申上候度如此御座候。

今夕突如として御坊商業認可の飛報あり一驚致居候。當方余りに見くびり過ぎ、縣に信頼し過ぎ本省へは運動もせず、諒解も求めざりし結果今は臍を噛むも及ばず、今度は全く頭を打ち申候。

拝復 御高示難有御礼申上候。早速堅田氏宛直接照会致置候。今の処熊代翁は大体入選の見込。日高ではやはり瀬見・白井両翁に羽山大幸といふあたり。大幸翁も大抵入選の見込、徳本上人に法燈国師は別格。先づこの位にて藤井の瀬戸十助翁のことは、和歌山起毛業の効業者となり居れど、最近和歌山の委員山口華城大人の調査に依れば疑問の廉多々あり、？を附して再検討の部へ入れ居り候。この人のことは女幸校の古い国語読本にも現れ有名なれど、有名な人必ずしも実績ありとも申されず、史伝はむつかしきものに候。瀬見翁其の他の(日高郡関係で)人物評等御聞込の節は、細大御教示の程奉願候。一寸した逸話でも人物を活かすことも有之・殺すことも有之。徳本上人の如きは間違ひなきも、俗介の人には粉飾もあり・誤伝もあり・隠れたるもありで、この間の鑑別は至難に有之候。幸校問題では全く立往生致居候。先日は御多用中非常なる御面倒願上げ恐縮致居候。御眞影拝戴のことは、幸校として此の場合是非実現を希ひ居り(職員間では責任加重のため内心恐縮の態)、断然申請手続き致候。之は対策上重要な問題に有之候。随分色々の噂も飛び居るらしく、それに此の春の旧職員の誡首問題の経緯も有り、幸校所在地との間がしつくりゆかず困り居り候。御坊も財政的には四苦八苦の体とあり、本年度八千円・来年度七千円・再来年度とか積立て、十三年度には新築の豫定といふも、砂利の採掘権とかの思はぬ金の収入を目標とせりとか。敷地は女幸校前を第一候補とせるも、女幸校近接関係で不成立、今適地なしとありそこで松原へでもと宣伝せるものらしく、そこには田端家の所有地と保安林解除可能の地所若干あるをねらへるか。併し苟も甲種公立校として立つ以上は、敷地だけに六・七反乃至一町歩を要し、之は余程むつかしい問題と存じ候。併し公立幸校の有難いことは、保安林解除申請の可能性あること、此の点私立校では駄目、當方の如きは和田保安林外で(海岸寄洲)、漸く二千坪の使用を認められ、校外運動場と云ふことに致し居り候へ共、何にもなり申さず候。こんなことは公立にならねば都合悪く候。田端氏も私幸経営の困難なることを熟知せられ、種々心配し呉れ居り候。當方も持続するとせば商校としての新設備を充実せざるべからず、之に数千金を要し之を投資しても生徒は漸減、倒底御坊校に対抗し得ざる事明かなれば阿保らしい話。金を出さずに消極的に出来る名案は、此の場合として無之候。此点が全く苦惱の焦点。御坊町が町内一円五十銭・町外三円の授業料とせることも、常盤生を引抜く苦肉策なりとは何人も認むる所。當方は三円三十銭として認可を受け居るも、御坊との関係ある爲四月以来二円五十銭据置きで辛抱致居候。今回公然幸則改正授業料二円五十銭とする件開申致し候。當校としては授業料が唯一の財源なるに、それが右の如き経緯で月額百円位づつ減収、之は經常支出に響影し二進も三進もゆかぬことになり申候。何にしても御坊校出現のお蔭で惨担たる悪戦苦闘を続け居る次第に候。御坊校は公立として職員組織をどうするか、少く共現在の

職員を其儘とし、専任二人を増すものと見らる。体操の古久保五郎氏あたりは兼任の囑托、専任の首席には少く共百円内外の人物を要するがその人選は？。校長は勿論校舎獨立迄兼任、獨立の際は佐藤氏が小幸校を去つて専任になる……と消息通は観測致候。之は氏が商校新設に相當熱心なる点より見ての観測なるが、氏の爲に辨護する人は、氏は今回の商校設置を喜ばず、將來小幸校の施設上（経費上）悪影響あるを恐れて、商校開校を喜ばざるなりといひ、前の消息通は表面はそうだろうが、実は氏としては逃避所の窟境なる所として商校を目指し、その成立に力瘤を入れたりとも申候。人それ／＼見る所を異に致居候。

94 昭一〇・一二・八

(内原)

拜啓 先般は古座峽御探勝の由、同地もよほど（鉄道工事のため）変りたることと存じ居候。小生在職の日の町長逝き、後任町長も又先日病死。今は當年の喧嘩相手皆亡し、今回新任の町長は小生の時代書記だった雛。新陳代謝も斯く鮮かなれば痛快に候。さて先般は多大の御筆労相煩し恐縮に存候。右につき拝謝のしるしをと存じ乍ら其の機を逸し居申候。昨日和歌山にて別封の粗品入手につき拝呈、御笑納を得ば幸甚に存候。先賢一件にて昨日は和歌山、本日は三尾・阿尾の猪土手なるものを一見の爲西に行く。此の土手は実に規模広大。然し單に山腹を裁断し、或は山頂より山麓へ縦段せる土工に過ぎず、何の爲の土工やらさっぱり見當つき申さず。勿論何の遺物も無之。所謂チャシなどはあらざるべく猪防禦の工事としても受取れず、何かの境介的性格のものとしても不可解、実に珍妙なる土工。先づ三尾より上り産湯へ越す三尾坂の反腹に露出、今の坂道は猪土手を截りたるもの、亦全坂の東側シラ谷の草山には谷底より頂上へ顯著なる猪土手あり、更に三尾・阿尾間の阿尾側ドケ谷頂上にも顯著なる猪土手あり、田杭にも及べるものゝ如くに候。右の通更に再度の踏査を試み度。シラ谷のものは論争山附近に迄、山を越えて連続せりと里人の話に有之候。産湯西教寺の柏楨は胸高五尺六寸位・高さ七・八間のもの、椰木（周六尺五寸）と根元密着して対生？致居候。此の位のもの報告の價値ありや否やは存ぜず候へ共、御序に御報告に御加へ下され候へば有難く候。「西教寺境内本堂の前にあり」まるばしやりんばいの事を阿尾にてこばんしば（小判柴）といふ由。尚猪土手類似のもの由良灣北岸の黒山附近にもある由に候。近日一應見分に参度と思ひ居り候。 敬具

目下月水木授業のため出勤、余は自宅又は方々に飛廻候。

95 昭一〇・一二・二五

(内原)

拜啓 歳末多忙の折柄益々御勇健奉賀候。扱本日は圖らずも何より結構なる御品御惠被下御芳志の段深謝に堪

へず候。毎々御厄介相掛候のみにて、却て此の御厚情を忝なし誠に恐縮の至に存じ奉候。小生も学校の行詰りにて焦慮致居候へ共、いくら藻怪もがひても所詮は成るやうにしかならざるべく……とあきらめ居候。昭和五・六年頃より原稿清揮きよひのまゝに相成居候。「日高鑑」其の他の「近世資料」も、若手の犠牲を払つても此際公刊致度と印刷所へ廻附。半歳の後には活版本となりて御目見え仕可候。井上豊太郎氏よりそれを一冊十円で売つて、利益金を孝校経営費の補充にせよと申越され居候へ共、和装菊判八・九百頁のもの十円はちと高過ぎ候。併しどうせ百部内外しか売れぬもの、俗受けのせぬものと覺悟、相當の損失は覺悟致居候。比井崎・三尾村の猪土手も再三調査の結果猪土手にあらざるべし。近世の藩の御獵場（禁獵区）ならざるかとの假説を立てゝ報告致置候。一度機会もあらば御同道御案内申上度候。先は右御礼旁々如此御座候。 敬具

96 昭一・三・一四

(内原)

拝啓 先日は拙娘へ結構なる御品を御惠被忝なし大歡びに御座候。御厚志深く御礼申上候。小生過日来あちこち致居、貧鬪忙鬪俗事從に繁忙……大ひに失礼仕候。不取敢拝謝申上度余は拜趨を期し申上候 敬具

どうしても新入生徒不足背水の陣を敷ひた。此の一戦どうも勝目少く候。儘ならぬ浮世の常。それは観念しつつあへぐのは凡人の凡常のこと。

97 昭一・三・二七

(内原)

拝啓 毎々御厚情難有御礼申上候。扱豫而御願申上置候植物撮影の件、若し御差支へあらせられずば、明二十八日頃御光来相願ひ得れば幸甚の至に奉申候。小生二十七日早朝和歌山へ参り（親族の就職問題にて彼是頭を下げに廻り居り、イヤモウ性に合はぬ仕事。こり／＼儘ならぬ浮世をかこち居り）。場合によりその足にて更に京都附近まで一走り走るつもり。販りは終列車に間に合はずば二十八日の午後・同日の正午までには間違なく販宅仕可につき、何卒乍恐縮御光来御撮影賜度。そのお序に西川発掘の弥生式土器も（西富安の人発掘）御撮影置戴き度と念願罷在候。何れ拝芝万々面陳申上可、先は不取敢御願迄申上度。もし廿八日御差支あらせられ候はゞ廿九日（廿九日は在宅の豫定に有之候へ共）、午後（夕刻位）來人あり三十日の朝迄宿泊の筈か、三十日頃にお願ひ出来得れば難有。何卒都合御宜敷日時に御繰合せ御來駕奉待上候。小生三十一日には幸校へ出勤の筈。四月一日職員会へ（打合）の豫定に御座候。四月二日・三日・四日頃は親戚（志賀妙願寺に何とか大師何百回忌とかの法要あるよし）へ一寸参らねばならぬかと考へ居候。五日は出校・六日は入孝式の豫定に相成居候。右御含み置賜り度不取敢此の段御願申上候。

山下日中校長勇退乎・牧野農校長も何だか勇退説あるやうにもあり、大嵐大荒れのやうの雲行を噂され居候が、真相如何にや。小生も商業教員を一人専任者と、武道（柔道）・農幸など囑託ほしいと。○が廻れば有爲の材が得られ候へ共、そこに惱　ありといふ所　呵々。

98 昭一一・四・一九　（内原）

拜啓　先般来深厚なる御高配を忝なし謹謝に堪へず候。丁度三月二十八日御光来を賜りし、當日亡母は眼疾に顔面神経痛様の疼痛を訴へ、家内同伴俄に和歌山赤十字へ参候処、腎臓より来れるもの故即時入院絶対安静を要するとの宣告を受け、驚いて準備に舛れる家内と入違ひに小生上和。翌日はまた家内と入違ひに湯浅及び原谷の葬儀へ巡拝、即夜和歌山へ引返し狼狽混沌の裡に、四月三日には昏睡状態に陥るといふ急変、全くあわたとしき逝き方。生憎孝校の方孝年始へ持込み、明暮ゴタ／＼して今日に至り申候。……やらの次第にて洵に無音失敬多謝。先般御惠被下候、病人への御見舞の住品も難有拝戴恐縮仕候。また御寫眞も忝く拝受洵に結構なる出来栄多、次の報告輯へ送ることに致度、御手数数の段恐入申候。

四・一事件は罪のない罪な話、御迷惑の程恐察仕候。常ならば一つ新聞へ書く所に候へ共今はそれも及ばず、それにこんなことは新聞などへ書くと、却って茶目連の好奇心をそゝり、変な流行を促す恐れもあり黙殺致し置候。右乍延引御礼旁々御詫迄申上度此如に御座候。

99 昭一一・八・九　（内原）

拜啓　立秋とは名のみ炎熱洵に難凌候処、益々御勇健・御精進の段奉賀上候。扱本日は何より結構なる御品澤山御惠贈を忝なし、御厚志難有拝受仕候。高野から紀和山中への御遠征は、健羨の至に堪へざる御勇羨。小生毎日厚さに情眼を貪りつゝ俗事にアップアップ致居候。何れ御飯郷の日を待ち一度御邪魔申上度と存じ居候。不取敢御礼迄如此御座候。

100 昭一一・八・一八　（内原）

拜啓　御無事御飯宅の御趣大賀此事に御座候。有益なる講習に引続き千山万岳の御踏破、随分御壯快の御事と健羨の至に奉存候。小生俗事に引ずられて俗介を離脱し得ず、夏は一入暑いことに候。さて本日志浦氏来訪、豫而貴台を介して（弊社囑託として御出馬願ふこと）、貴台御旅行中の爲（當方二十一日始業の爲）取急ぎ先日直接御願ひ致候処、全氏も東京方面へ御旅行中なりし由。本日御来訪御受諾を得好都合に奉存候。就ては来

る二十一日より御出勤相願ふことゝ致し候。之にて国漢陣を強化、まあ頑張れるだけ頑張るつもりに有之候へば、此上一入の御後援・御同情を願上度不取敢右拝謝申上度。乍末筆何より結構なる御品拝戴千万悉く御礼申上候。何卒御令閨様へ宜敷御鳳声奉願候

敬具

101 昭一・一・一

(内原)

拜啓 有田の板碑は実に近来稀なる、然も有益なる御発見と感謝罷存候。南部安養寺の分まで拵げるとなると、野島・祓戸辺のも類似として取扱はねはならぬかと存じ候。尚どこかで目にかかったやうに思ふも確と記憶致さず候。有田方面は尚探求せば面白いことあるべく、兎に角いつの時代にも日高よりは文化の程度高く、政治的にも・宗都（教）的にも・経済的にも人物多く出で居り候。徳藏寺の柏愼は別紙の位にてほどよく御報告願上候。佐藤氏と生駒氏の更迭は先づ縣としては定跡通りの人事と存じ候。之によつて松原・御坊間の反目（？）解消せば松原の生徒は御坊商志願多くなり、和田・塩屋も之に追隨することになれば御坊商大繁昌、當方は文字通り孤城落日の拝境に陥らざるを得ざることゝ相成り、悲願すれば前途暗雲に候。佐藤氏が頑張つて呉れて専任御坊商業孝校長にでもなつてくれたら、こちらとしては大いに乗ずべき点ありしに……然し佐藤氏御坊に永住するなれば、或は御坊商の囑托にでもなり、併せて校長事務取扱となり、次いで校長となり恩給を取り、安い俸給で御坊の爲に働く心算にあ某らざるか。（御坊商は佐藤氏の隠居所なり）とは、夙に某間にての観測なりし故、氏の復活當るにあらざる乎？

102 昭一・一・二・二六

(内原)

肅啓 年内余日無之候処、益々御清健の御条奉賀候。扱本日は圖らずも何より結構なる御品御惠贈被成て、御厚情の程深謝恐縮の至に堪へず候。不取敢御礼のみ申上度如此御座候 敬白。余は拝芝の折 二十六日夜

103 昭和一二・二・一七

(内原)

拜啓 先日は岩石につき御教示を忝なし難有奉謝上候、大したものに非ずと賜り大笑ひ。併し時節柄鉾山熱は未だ解消せざる模様候。紀州文化研究所懇談会の件御詳報悉く奉謝上候。當方へも通知ありたるもあの研究所も大したものにあらずと愚考。会費だけ上納済、近寄らぬことに致居候。研究團といふより趣味團といふ方當れるか。喜多村といふ人は文孝者肌の人にて小説など書き居り、この人の思ひ立にて花田氏をかつぎ、あんな雑誌を出してゐる迄にて、随つて随筆雑誌に墮し居候。花田といふ人も歌人にて喜多村君と気が合ふらしく候。

(内原)

次に御面倒なる御願にて候へ共、御差支へなき日曜に一度興国寺へ御苦勞相願ひ、宝篋印塔其他御撮影御願ひ致度、修繕寺関係の墓地は荒廢石塔(寄せ集め)めちやくに相成居、先づ人夫を入れて整理せざるべからざるかと存じ居候で、寫眞は第二段として一度現場へ御同道整頓方につき、御協議申上度と存じ居候。御礼旁々御願まで如此御座候。 敬具

昨日除虫菊王上山英一郎翁に招かれ有田へ参り、「近世資料」一部買ふて貰ひ申し候。ヤット七十部位売れて六十部位の代金が集まり候。学校問題も兎角煮え切らず……

と申すは持参金一万円(乃至一万五千円位)を要すとの事にて、そんな大枚があるなら合併などするに及ばず獨立してどんくやるはず。○がないのでやれんので、合併しようといふので、このところそこいらの町村合併と同様、先づ物にならぬと觀測致居候。東西内原村の合併もトテモ物にならずと存じ候。どちら向ひても○が仇の世の中あさましき次第に候。井上辨護士曰く、三万円程度集めて校舎を建てよと。結構なれどその三万圓の十分の一もわれわれにはその腕なきを憾みと致居候。

肅啓 その後一度拝趨、御垂教相仰度議有之と存じながら、俗事に追われ今に意を得ず候。御申聞の安井宮一件、小生も雲の森はよく存じ居るも、安井宮は一向判らず御確答申上兼候へ共

『紀伊統風土記』卷七十二 「牟婁郡秋津莊下秋津村(第二輯六六頁) ○若一宮の条に」「村の巳の方小名安井といふにあり 云々」と見え、『縣史跡報告』第五輯六七頁「秋津王子趾 勝田氏報告」の条に之を引用して安井宮旧地云々の碑のことも記載有。(統風土記の記事と照合するに)安井宮は下秋津の地名(小字名?)なるものゝ如し。併し小生頓とあの辺の地理に明ならず合点行かざるも、兎に角神社の旧鎮座地(小字名)を標示せるものと存じ候。石碑について最近一笑話あり。先日浜上氏の案内で由良護国寺址を調査の序、

その隣の火葬場を尋ねたるに

ジロボサン

と片假名で刻せる碑あり、之は珍しい外国人か何かの墓だろうか

? 「次郎坊様」位じゃないかとも疑ひ、近所で尋ねたれど知るものなく疑問の儘引取候が、其の後浜上氏の調査に依れば、「御坊辺から来た石屋の小僧が戯れに刻したもので、漢字も知らず・舌の廻らぬ男が、地藏菩薩のつもりでやったものゝ由」で大笑ひ。それにも増しておかしきは開山墓地の宝篋印塔にて、ドレモコレモ寄せ集め物にて、マンゾクなもの一つも無之呆然だらざるを得ず候。別の問題に候が、近時日ノ御崎で和歌山の

誰やらが、日ノ御崎何とか菊といふものを発見のよし。何時ぞやの新聞に見え候が、しまかん菊の変種か何か候や。

105 昭一二・五・一〇

(内原)

拜啓 この間は星尾阿弥陀尊の板碑寫眞御惠贈被下難有奉深謝候。有田郡に於ける此種遺跡はぜひ一度巡訪致度、御寸暇に御東導奉願上候。次に和田村入山城跡最近雜木伐採坊主になり申候。これは多分開墾の前提ならん乎(附近段々開墾着手、これも畑となるものと思はれ候)。とすれば幾分地形の変更も加へらるべく、今の内に一つ見取圖を作り、正確なる記録を遺さざるべからずと存じ候。只今ならば砦としての原型に近き形容を髣髴するに足り申候。勿論そこいらにいくらも見ざる砦に過ぎず候へ共、只今は調査の最好期と存じ先日一寸登山致候へ共と角測圖不得手、思ふに任せず候まゝ御寸暇に御足労相煩度。勿論たいしたものにあらず、さして時間を要せずと存候まゝ御寸隙に御願申上度、平日ならば放課後弊校まで御来校下され候はゞ御案内申し上げ度、日曜ならば御来駕の御時刻御豫報賜らば拝趨仕度、小生は十七日(月曜日)を除き只今の処何日何時にても差支へ無之。幸校まで御光来下され候はゞ幸校の巻尺持参致可。城跡の附近どこかに「女郎墓」といふ宝篋印塔ありたる筈に候へ共、この頃所在を失念致候、然し近い処に確にある筈に候。

106 昭一二・七・二一

(内原はがき)

拜啓 本日は早朝より御無理御願申上恐縮此事に候。皈つて見れば佐山氏より葉書あり、七時頃御坊駅へゆくとの通知なりしも、如何ともする能はずそのままに致置候。 敬具

107 昭一二・一二・二九

(内原)

拜啓 先日は洵に有難うございました。一度拝芝御報告旁々御願申上度と存じながら、幸期末のドサクサ中に新聞引受の金の苦面やら何やら、それが出来るのにさあ引継げと二十五日夜急に引継、鈴木・堅田氏時代からのいろんな遺物・遺産の継承。松本君も遣りくり主義の貧乏神、小生とても替り栄のせぬ貧乏神で、どうもこもならぬのですが、之も非常時に於ける御奉公の一端と存じ、兎に角若干の犠牲を甘受しました。今日の新聞は御承知の如く報導のスピードを生命として居りますが、郷土新聞としては事相を詳報すること・他紙の粕でも忠実に蒐集すること・微事細事も捨てないことを信条とせねばなりませんので、どうか従前通り御声援・御支助を戴き度、何れそのうち拝趨委細面陳致度と思ひます。

(内原)

肅啓 洵に御無音失敬此事に御座候。実は「法燈国師伝」脱稿をいそぎ、本月初より屢々幸校を缺勤致々として原稿整理に努め居候へ共、なか／＼進捗致さずもう印刷間に合はぬといひつゝ、今に脱稿に至らずといった状態。それに時局の重圧もあり公私多端……。併し何とかして九月末までに印刷を了らしむべく苦慮致居候。右につき挿入すべき寫眞は豫而頂戴安心致居り、本日もそれを整理すべく搜索致候処、修善尼寺だけあつて他は一枚も無之。段々調べ申候処何れも二枚づゝ頂戴せることは事実なれど、一枚は「縣史跡報告」に提出。一枚は興国寺老師に贈呈したることを想起、結局手許には一枚もなきこと判明致候。就ては洵に御繁忙中申上兼候へ共、(1)櫻島・(2)護国寺趾・(3)土生庵趾・(4)坐禪石・(5)慧日大姉宝篋印塔(修善尼寺趾は頂戴致居候)、各一葉改めて御惠投に預り度、尤も右は決して差急ぎ申さず。御暇の節に宜敷願上度候。新聞も多忙の爲放任致居り候。近來他紙に一籌を輸し、特に「日高新報」に批して稍遜色あるを認め居り候も、之を如何ともする能はず候。何卒御校関係の記事などどしく御提供被下度、いつにても電話して(茶山・雜賀)の内何人にも御招致御口授賜度願上候。他紙は御坊商と日中の提灯持ちに躍起に成り居り、会社では日高紡へ取居候。當方はどっち向いても深い縁故も関係も無之。御上手も云はづ攻撃もせず・沈香も焚かず屁もひらずといふ態度。併し今の時局にはちと刺激の強い方がよろしきやうに被存候。屁でも大ひにひる方がよいやうに存ぜられ候。紀南の態度は傳統の微温にて物足らず候。坐禪石は花田成実画伯の寫生して貰ひしものもあるも、彩色せるものにて印刷手続き面倒(といふよりも経費を要すべく)と存じ候。

(内原)

肅啓 本日は鄭重なる中元御祝儀御惠贈を忝なし。何よりの佳品洵に難有御厚礼申上候、過日来廢物利用作業に就き、種々御高配難有奉深謝候。小生も八月一日・二日休、八日やと解放されしも、時節柄何彼と問題ありて、あちこち致居候。「法燈国師傳」もやと出来上り印刷に附し居り候。新聞製作も今は全く夏枯れの状態にて、警察種も少く爲に埋草の供給に大童態に有之、何か連載物を一つ書かうかとも思ひつゝその余裕無之。御御覽の通の紙面に相成居候。御校関係・その他何にても宜敷、御加勢願上候。電話にて案を御授け下され、記者拝受即席料にて見事に仕上申候(ラジヲニュースなどあれだけ書きこなすのはエライものにて、新聞記者連の早枝には呆れ申候)。印南町発掘石器寫眞を御願申上度存じ、幸校に預り置ながら放置の状態に有之候。何れてのうちに御願に罷出度、右下不取敢御礼申上度此如御座候。

110 昭一三・一二・二七

(内原)

拜啓 本日は圖らずも又々御心儘しの佳品、沢山御惠贈被下毎々の御芳志恐縮仕候。何れ年明けて一度拝芝御礼申上度。出版の方も一方ならぬ御高配預り深く感銘罷在候。兎角新聞社内手少なにて、年末多忙の折柄編輯陣営混沌、少なからぬ助勢を要し弱り居候。不取敢右拝謝旁々御礼申上度此如御座候。 敬具

111 昭一四・一・一一

(内原)

拜啓 年明けて身辺以外に多時(事)、今に御無音失礼此事に御座候。本日御送被下候有田高女の代金正に難有拝受。「近世資料」が斯くも捌けたることは、全く望外の幸にて以て「鷺峰余光」の拾余冊に相當し、「余光」の埋合せに以外の助け船と相成感謝罷在候。御精算冊数は仰の通に有之。海草中幸の分は未受、他は総て拝受済、洵に難有御礼申上候。尚仰の外入金の内田辺高女の「鷺峰余光」有之入金済に候。何れ近く拝芝御礼申可候。幸校も混沌・新聞も無人汲々身辺多端。日々胡魔化しばかりの其の日暮らしに候。新聞を三つ合併せんかとの話も出で居り、讀者側は大賛成なれど新聞経営當事者としては、具体案の作製困難にて結局両商合併や、東西内原合併の同一轍にて、物になるまじく候。

二、森彦太郎氏・芝口常楠氏宛書簡補遺

112 昭(大)一四・六・……)

(南部時代)

拜啓 別紙一通西下氏へ御廻送願上候。佐山氏の「鑑」評蓋し當らずと雖も、遠からざるべく痛快なる回答に候。幸校の存廢問題可なり、深みに陥り申候へ共、昨日の町会で兎に角幸校をつぶさぬこと・維持基金を贈募して財源とすることに決定、まあこれで由なりに幸校維持に、公然決したわけだが近日校長会・教育会開かれ由に候へ共、小生は失敬するはず(玉井君に代理出席させる筈の候)

113 大正十四年六月二十八日

森彦太郎

芝口様

西下様

先日御送付の観音像寫眞「牟婁新報」主筆雜賀貞次郎(田辺町議)を介して、田辺町湊の佐山伝右衛門氏(前

湊村長・現田辺町議)の清鑑を仰ぎ候。佐山氏は斯導の造詣深く、一廉の眼識を有する士に有之。其の回答書は別紙の通にて、聖徳太子作などいふ俗伝を破つて、痛快なる批評を寄せられ候。尚全氏より伝言の次第も有之。同氏より返送されたる寫眞を、京都の恩賜博物館に送り鑑査を仰ぐことと致し候。尚御手許にて寫眞余り候へば、奈良博物館及び東京博物館・内務省方面の先輩に送り鑑査を求め度と存じ候。聖徳太子作といふ俗伝が破れても、兎に角稀代の佛像だと判つて見れば、一層秘藏の必要あるべく、国宝になることも必ずしも不可ならざるべきかと存じ候。右取敢不申上度。「牟婁新報」記者雜賀貞次郎氏より森宛回答書

佐山氏の談話要旨は左の如くに御座候。

「姿勢特に腰部並に足部の運動と頭髮並に衣裝等、從來日本の佛像に類型を見ざるものにして、直感的に支那佛像ならんかと思はる。支那の宗・元時代のものなるべき乎。日本佛とすれば支那佛像を直接に寫型したるものべし(若し寫型せしものとすれば鎌倉期に行へるものか)。尤も鎌倉期の日本佛は姿勢・線等に於て、之よりも遙かに優美なるも、冠及蓮座は日本のものなること明かなり。而して美術上より云へば、冠及蓮座は佛像よりも優美なり。察するに支那佛を蔣來し、之に日本に於て冠と蓮座を附けしものならざるべきか」と実物を見ざるを以て何とも云へざるも、要するに宗・元時代の支那佛にして、冠と蓮座を日本にて加へものならんとの口吻に有之候。尚左手に持てるものは何かも少しありしにあらざるかとの話も有之候。然して斯佛像は地方にしては珍らしきのみならず、日本国中にてても少数なるべく、傑出したるものなりとは云ふを得ざるも、地方寺院中には美術的方面よりのみ見るも、有数なるものなるべしとの話に有之候。

(南部時代)

拜啓 御返事を怠り恐入申候。連日俗事多端、今宵少閑を得て一筆啓上仕候。御配慮相煩したる金参拾圓については、崎山飛州に協議(農幸校側の幹旋者でもあり、岩崎教頭目下不在のため)致候処、「苦しい財政の中から、そんな金を出して貰ふわけに行かぬ。そんなことをすると婦人会の發達を阻害することになる。われわれの勞力奉仕は當然のことそんな謝礼は辞退せよ、僕の方は絶対頂戴せぬ」とのこと。當校の職員として當然の奉仕、殊に西教諭は「炊事の方でちつと金を使ひすぎた感あり恐縮する」との申出あり、謝礼はすべて辞退するに決し、乃ち別使の通り(実費所要の分差引)御送金申上げたる次第に御座候。然るべく御受理願上候。尚先般御送申上だる請求書のうち、金拾八圓薪炭・野菜等とある分、但書ボンヤリ致居候へ共、西教諭の手許に内訳書をと居候。又小生の請求せる郵税貰ひ過ぎあるかも知れず定かならず。併しまあ総計であの位を要する見込に候。寫眞の發送完了で講習会務は一段落つき申候間御安神下され度。次に今回の聯合会への加盟で、郡の役員(時に副長を女にすることになったとか、西牟婁での話を聞き申候)。一部更迭の由これは結構のこ

とに有之。小生は副長の肩書きなどなく共、応分の御世話致べく（現に楠山氏の如きも、南部の会長でも何でもなきも、会長の実務をとり居候）。此の点は何卒御斟酌なく、他郡並みの改革を行はるゝやう、池村先生へ可然御伝へ下され度。幹部講習終りしこと故、郡の幹部にも女を一枚差加ふること穩當と存じ候。併しそれを假に南部方面より出すとなると、全く適材を得ることに苦まざるを得ず候。併し壓しの利く背景と実力を有する人が得難く候。併し山間部方面を喜ばす爲こんな役割を廻してもよろしと存じ候。そこは然るべく御取計ひ願上候。 草々

文化讀本については、御地で和田君遮二無二突進盡力せられ獲る所あり。有田方面も大分調子よろしく候。

会長告辭紀南へ載つて冷や冷や致候。といふはあれは小生の自作にあらず、会の前夜ヒヨット思ひついて、他山の移誌をやり、頭と尾とをヒツケタルものに候。出所が知れたら又中央の永井御大あたりにケチをつけられるにあらずや。さすれば池村先生へ御迷惑をかけると冷や冷や致候。併し日高の新聞記者や読者は、あの出し所を知らざるべく知つてゐるのは、池村先生一人ぐらひならん？。故に不安の裡にも微苦笑致居候 呵々。

115 昭三・一・四

（南部時代）

拝啓 三日本日は飛脚便にて結構なる御品御惠贈を忝なし（早く着いたらしく候。此の程より連日戸締の爲）
…… 毎度御高配恐縮の至に奉存候。私は常に御無礼ばかり申し上げ居り相済み申さず候。今度東牟婁郡古座商業孝校行に大畧決定（極秘に願上候）。（以下略 …… 前掲なれば ……）

116 昭三・一・一八

（南部時代）

拝啓 まことに御面倒相掛け恐入候。御蔭にて調査十二分に行届き難有奉存候。無論貴台に御伺ひしたことは厳秘にして回答可致、御厚情の程幾重にも御礼申上候。枚谷兄貴（盛一君より）先日當方山崎紺喜氏（島鈴木啓市君の婦人の妹）について紹介あり。それと本件と関係あるのかとも思ひしも、又別口らしく弟英潔君は知らず候。千葉氏よりも先般當地中村家（玉井君の親戚）に就て紹介あり、これは婿の調べに候ひし、千葉英太郎氏も病状よくないらしく候。夜這一件もまあくで処分せずに卒業さすことに致し候。夜這なんて山路あたりでは日常茶飯事で、あの辺では「処女にして嫁する者はないぞ」とは岡崎縣議の話。右の件で五味鶯村（小弥太君）足の悪いのに幾度も来南、浦源助氏も来り五味君はとゞ飯村の途、福井の渡で渡舟転覆又レネズミに成った等珍劇あり、随分念入の余興に候ひし。小生近日発令あり次第一旦單身赴任先方で引継をなし、更に出直すつもりに候。池村氏記念品代西氏の分と合せて、小生の振替口座より払出候、二十日前後に貴着のはづに

候。新聞へは御掲載見合せ下され度、西氏にだけ一寸着金御通知下され度（小生不在になるかも知れぬ故）。野田君の百円の増給むつかしらしく候。九十円は確かとの話（岡崎君縣より販りての話）。松本君百二十から一躍百八十になった例をもってすれば行けそうなもの、然し松本君は一級上俸になったお蔭で慰労金タツタ五十円とは氣の毒に候。御礼旁々ゴタゴタと書き列ね申し候。 不

117 昭六・六・一四

（内原 はがき）

拜啓 御少閑の日曜日に先日申上置候、有田郡藤並村泣沢女の古墳へ一つ御出張煩し度、本日藤並道場にて神職に出会ひ候処、去る十日も毛利縣参一行も視察に見えられし旨話し居候。一基は女郎塚完存、一基は原型と認めざるも中味ある見込。一基は天井石露出、小生は尚隔日に通居候（建王子陵伝説塚）。

118 昭六・六・一八

（内原 はがき）

拜啓 女郎塚視察の件、来る廿一日の日曜日御差支へ無之候へば、全日の二番列車（御坊発六時二十八分）にて藤並駅まで（三十五菱位です）御出の上同駅にて御待願上度、小生は一番列車にて参り大抵は七時過（御着車の頃までに）同駅に参り、それより徒歩にて御同伴申上度。泣沢女より下津野宗祇遺蹟（未知なるもほん近い由に候）へ廻り、引返して糸我坂越に逆川王子跡（吉川）を経て湯浅に出で、大凡午前中に見物を終つて湯浅乗車に致度。猛雨の節は御見合せ下され度。

119 昭六・一・二・一四

（内原 はがき）

拜啓 御寫眞及御描圖何れも難有拜受、何れも眞を穿ち眞に迫りて遺憾なく、乳児棺の御圖殊に御筆勞恐縮。之にて文筆の説明大助り、多謝深く御礼申上候。毎日コザコザと用事あり、未だ報告文出来上り申さず候。タイキンギク御寄惠難有拜戴仕候。 勿々

120 昭六・一・二・二〇

（内原 はがき）

拜啓 本日は年末殊に御繁忙中を御繰合せ御苦勞戴き、御厚情深謝の至に堪へず候。何れ拜芝御礼可申上候へ共不取敢略書此如御座候。

121 昭八・一・二・五

（内原 はがき）

拜啓 野島の古墳を先般来何度も見に行き申し候。就中秋葉山のは稍完全に存置せるも、他は何れもメチャ／＼に候。さていつぞや御示しの観音寺境内に移せる弥生式棺（乳児棺ならんか）、寫眞にはとれぬと思はれ候が、拓本もものにならず絵は得書かず、紋様の表現に困惑致居候。日曜にでも一つ御苦勞御願出来まじきや。塚穴もどれか一つ寫眞願ひ度、日時御回示下され候はゞ何時にても御供申可候。九日午前中だけ差支有之。其の他何日にても何時にても……………。

122 昭九・一・一

（内原 年賀はがき）

謹奉賀新年 昭和九年元旦

（印刷）

昨夏文筆報国の宿願を果す一方便として、新聞介に進出の決意を固め準備略就るの時、たまたま先孝湯川師突然の御不幸あり、その御遺業の一たる育英の方面が、方に興亡の危機に直面せるを見、坐視するに忍びず、一切の私情と一切の経緯を捨て、その経営を継承することになりました。雨のあした晨・風の日夙起、山を越ゑ川を渡つての里余の徒歩通勤は人の子を育む上に於て、スピード時代に逆行するものかも知れませんが、單身悠悠として徐行しつゝ靜思熱慮するに適し、自省修養上確に得る所少なからざるを感謝致して居ります。塾としては差し當り腐朽し果てた教室の改築問題を始め、内容に形式に時代の趨勢と地方の実情に適応せしむべく、如何に改善すべきかの懸案に包圍されて居ります。どうか此の上ながら一入の御同情と御鞭撻の程を偏に御願ひ申上ます。右の事情で著述の方面は中絶の態でありますが、年末歳首の休暇を利用して県教育会編纂「先賢列伝」の資料探訪の旅に出ます。「紀州郷土文献叢書」については、有田郡有志の御奨めにより、先づ「享保漂流記」を出すことになってゐます。別に和歌山某書師の囑によつて「紀州土俗集成」をやりかけてゐます。「法燈国師と興国寺」も、今年こそはまとめたいと念じてをります。

123 昭九・一・一

（内原 封書）

恭賀新年 益々御清健にて御起年奉賀上候。扱旧臘は年末御多端の折柄、再三御足勞相懸け恐縮此事に御座候。二十七日御発送の御寫眞と共に、見事なる松魚御惠贈を忝なし。毎々の御芳志千万悉く奉謝上候。昨三十一日拝受と同時に御寫眞は「紀伊新報」に贈り置申候。年と共に懸案重畳浮世の春をよそに貧闘忙闘、さて何から手をつけてよいやら、他人の出鱈目を責めつゝ自ら出鱈目に墮し行くあさましさ。不取敢歳首の御祝詞旁々御礼申上度如此御座候。

敬具

尚新聞帶紙御鄭寧に御整理御送被下恐縮仕候。読売保田屋より取居り、時々夕刊・或は附録など脱落せるこ

とあり閉口に候。但し本社直取より一日早く着のため、今に辛抱致居候。

124 昭九・一一・七

(内原 はがき)

拜啓 重ねての御懇書悉く拜誦、御厚志唯々恐縮の外無御座候。何れ拜芝万々御詫旦は御礼申述度、尚又不日(多分月末か来月初)紀南農校の出土品の寫眞を御願ひに参上致度(弥生式の破片土器)。

125 昭九・一二・一〇

(内原 はがき印刷)

喪中に付歳末年始の御挨拶を御遠慮申上げます。

湯川靜暢師畢生の事業たりし常盤義塾を継承して、茲に第二次の新年を迎ふるに當り過ぎ来し方を顧みて、その歩みのたどしかりしにもせよ、兎に角に量的にも質的にも若干の向上発展を認め得ること、是れ偏に大方の御同情と、故人の威徳によるものと感佩致して居ります。さらば新しき年と共に劃期的躍進を試みたい念願でござぬます。何卒一入の御厚眷と御鞭撻の程御願申上ます。

126 昭六・五・式〇 推定?

(内原 封書)

拜啓 明二十一日(日曜日)午前中に(晴天ならば)御出張願上度。小生は例のみみ療治に参るため、一番列車で先行藤並駅で御待ち合せ致度、就ては二番午前六時三十八分御坊発にて藤並まで御乗車被下度。藤並着七時十分頃に小生も診療をうけて全駅へ参るべく、患者多きときは或は七時半位になり申すべきか。同駅より徒歩御案内申上度。序に下津野宗祇遺跡(小生未知)、及び糸我王子(小生未知)・糸我山越逆川王子……湯浅へ徒歩致度。大抵午前中に湯浅駅に飯着の見込に御座候。右昨日葉書差上置候。多分今朝ぐらひ御覧下されしかと存じ候が、大体右様御高配願上候。尚乍御手数、御すきの時間に紀南社堅田氏へ左の通、御電話御伝言の程奉願候。

「今朝森からのことづけです。十九日に岩代から呼びに来て即日飛んで行きました。泰地君及び村長に会い、記念碑の話打合せ出来ました。それから海岸づたひに目津まで参り、日暮れて山内から自動車で飯りました。本日(二十日)は休養、二十一日日曜日有田の泣澤女の古墳を見に行きます(二番列車で藤並下車)。序に宗祇遺跡(藤並)・中將姫遺跡(糸我)を視・糸我山越に湯浅へ出て午前中に飯る豫定、御差支なくば参会下さい。それから昨日不在中、村上切目村長から呼びに来ましたので、二十二日(月)一番列車(七時八分御坊発)で切目へ参ります。これは印南から徒歩橋ヶ谷まで参ります。御同行下さらば中山の王子谷(中山王子旧跡)

を御案内申あげます」。と右の通り通知だけ（切目王子で古墳一つ見つけました）。尚々雨の日は次の日曜日に此の路程で決行致候。

二十日朝

127 昭一・六・日頃

（封書 内原）

拝啓 先般は「近世資料」御校へ御購入方御配慮を忝なし候上、早速代金御支払ひ下され難有奉深謝候。どうも定價を高め過ぎしたためか、売れ行はかばかしからず候へ共、先づ牛の涎式に氣長うやって、百部千円位回収を目標と致居候。新聞広告は全然効果無之。（郡内五・六十、郡外四・五十）は何れも見込薄の模様には有之候も今は大綱を張って待機中にごさ候。これがうまく當つたら第二篇には戦記ものを出し度、また「紀州全史」第一篇「史前篇」といふ寫眞版多数入の、高いものも出し度と意氣込居候。田辺雜賀貞次郎氏は既に九百頁ほどの民俗物原稿を抱いて、出版費に窮し居る由申居候。さて有田郡南広中野の法藏寺（？）西山派の寺から、柏愼か何かの老樹あり見て呉と岩崎勝氏を介して申し来り候（御校修孝旅行前に申込まれ候）。一度寸暇の日曜日にでも御同行願ひ得ば幸甚に奉存候。小生今の処近いうちに支障無之、御指示の日時に御随伴申上度。松原村戸数割表を見るに、志浦氏全村假寓中の由。実は一ヶ月程以前に孝校へ挨拶に見えたるも、小生遠足に加はりて不在中に候ひき、全氏向後の方針等につき御聞込にも候へば、参考のため御聞かせ下され度。先般塩路貴校医の検診粗漏にて玉置校長へ一本参り置候。子供が自覺する程の病状を知らぬとは、間抜けさ加減にも程あり千濶千万・危険千万、拙宅老母も和歌山へ入院の前日御坊へ参り、同氏の診斷を受けたるに、之も何の口上もなかつたとの事にて、小生等はあの人を信用致し居らず候（二十日 孝校にて）。

128 昭

（封書）

拝啓 四十周年記念号へ何か玉稿をと期待して居りましたが、……失望致しました。和田ふけ植物天然記念物として御報告願上ます。先日拝受の目録新聞へ掲載させる筈ですが、科名の漢字難しく活字の無いのがあって、平假名に書換へてと思ひつゝ、それも他人任せにならず今に延引してゐます。次に道成寺庭前の柏愼（一文二尺のもの）と、序に松（同丈のもの三株ほど）一つ寫眞を御願して、その序に御報告もよろしく御願ひ申上ます。柏愼の根元に築土があって、眞の根廻りは不明ですが相當に太いと思はれます。小野広海氏に御話下さって、何卒御撮願ひ御報告の手続を願上ます。松は寫眞不要單に付たりに報告してよからうと思ひます。私の史跡報告はもう種切ですが、責塞的に明治二十二年水害遺跡でもと思いつき考究中。先づ道成寺の石階第七

級なんか、水量の基準的史跡として格好のものかと獨断愚考。こんなものでも出さねばもう何もありません。然し忙しいのでどうなるか分りません。皇軍慰問号で小林先生に大層失礼。実は先般御坊町特別号の資料として、長い詩を頂戴したところ、韻文に眼のない社内の連中長過ぎて困るといふ、単純な理由で載せなかったものです。今度の慰問号発行については、私が一切の原稿に眼を通し取捨を裁定しました。その時不圖御坊号の残稿中から、日高々女職員とだけある詩を見つけ出し「之は佳いじゃないか」と云ふと、「長過ぎるのて困る、三段位埋るので」との話。併し「こんなのは載せにやならぬ。作者の名を確かめて優遇してに載せて置け」と命じて置きましたのですが、組む処を見なかつたのです。そして私の行った時はもう印刷にかゝるところでして、二・三の誤植は差換せしましたが、標題や作者名を窮屈に組んで礼を缺くに至ったことは、洵に相済まぬと思ひ、別便御詫状を差し上げて置きました（印刷時間が遅れてゐて組替の余裕がありませんでした。それであんな下手をやりました）。

(内原)

拜啓 「驚峯余光を読む」有難奉万謝候。広告はもうさっぱり効力無之、こんな風の提灯記事をともし居たる所にて難有拜受。早速社の方へ廻付可候。この書はなぜかさっぱり売れず。「近世資料」の方はあの高價で而も一回の広告配布で、兎に角七・八十部捌けたるも今回は全く売れず（小生の知己でいつも買つて呉れる有力者は、大抵興國寺へ多額の寄附をなし、その謝礼に一部づゝ寺より寄贈、その爲重複の向きもある影響もあれど困り入り候）。少々勝手が違うやうに候、御申越の「近世資料」一部は明朝たさせ上げます。振替用紙は本便に封入致置候、宜敷御願ひ申上候。

(内原)

肅啓 「驚峯余光」二部御用命を忝なく候。同封御送付申上候間御査収被下度。これは興國寺法會用三百部印刷の外二百部だけ増刷、一般に発売する豫定にて計五百部印刷の処、その二百部がなか／＼売れず、和歌山市若林書店の手で全市内へ拾部か貳拾部ぐらゐ売れてゐる筈。當方では八十部程着荷、一箱はまだ蓋も明けずに放置、今までに売れたのは正味十五部に過ぎず。勿論売行悪いことは覺悟の前に候へ共、當世人の関心とは凡そ縁遠い書物の事故、サツパリ売れず全く慘憺たる状態に候。そうして買ふて呉れる程の篤志家は、小生の知人かさらずは興國寺の大施主に付、何れかより寄贈せねばならず、それで寄贈又寄贈で……それも興國寺ののは寄贈が目的の三百部故、干渉も出来ざるも「なるべく俗人への寄贈は中止を乞ふでなければ、當方の二

百部とても売捌けず」と寺へ哀願、全く斯うなることは豫想せし所なるも、笑ふに笑へぬディレンマに陥り申し候。興国寺三百部の印刷費は寄附もあり寺の法會費よりも相當支出、之は支出の途つき居るも、當方の二百部は全若林書店の取替支出と相成居候も、売れずば結局小生の負担となるわけにて降参仕候。「日高近世資料」も押売りして結局数百円の損失と相成（といふより売れざる爲死藏）、今回は法外な定價も附せず・押売もせず・広告も一回やっただけで、執拗にはやり申さず。御坊町では注文タッタ三部で町（圖書館）から一部・中幸校から一部・假家徳太郎氏（「郡誌」以来の愛読者）一部といふ慘状。併し御坊は所詮物資万能の土地故無理もないと存じ候。宇井氏へ湯川記（先日の御手紙にて）数日前に御送致候。折返是非見たいと思ひ居たるものにて実に難有と御請状有之候。尚湯川直春の毒殺を否認する論拠はどこか、西牟婁辺の旧家の旧記にありたるものか、近刊「紀州文化研究」へ発表（既に原稿を送った）とのことに候。道成寺の柏慎勝田氏既に調査済とあらば、重複報告の必要も有之間敷と存じ候。興国寺境内にも老樹無之、中門内側の枡が一丈を超ゆるのみ。三好幸博士の「日本巨樹名木圖説」といふもの（特價本・広告に出で居るもの）御覽相成候哉。紀州関係の巨樹はないやうに候が。

131 昭 一三・月不明・六 夜 （内 原）

拜啓 和田沼御調査有難奉謝上候。斯く系統的・組織的に相成候ものは從來未だ無之。和田沼としては最初の文献に有之、此の意味に於てこれは天然記念物として御報告、相煩度拜受の玉稿は新聞へ頂戴致候。道成寺柏慎一文二尺・老松一文二尺といふあり不取敢拜謝申度、道成寺・興国寺関係の俗事繁く。新聞も時局順応に忙しく候。何れその内拜芝致度存候。

早々

132 昭 年月不明・二十五日 （内 原）

拜啓 矢田村若野の塚穴の東方二百米ばかりの地点（破却せる古墳の痕）から別封の埴？・管玉二個出土の由で、矢田小幸校から見て呉れとて持参しました。毎度恐入りますが御寫眞を一つ御願申上度、御撮影済の上は乍御手数御校生徒に御托送、矢田小幸校玉置精三先生宛御返付賜度。尚管玉の石質は何でせうか御鑑査願上度、管玉は多く碧玉（きぎよ）を用ひるさうですが、何ですか御指教相煩度、まだ若野の現場の西に一つ未掘の古墳らしきものあるよしで、見に来いといふ言伝がありました。先般印南町からも石斧が一つ出ました。之も一つ見にゆくつもりですが、現場は幸校に預つてゐます。羽山大幸の「夢雜誌」今回南方翁の註解を入れ、雜賀貞次郎氏抄録出版することになりました。

133 昭 年不明十月二十七日 夜 (内原)

拜啓 本日久しぶりにて興国寺に参り、豫て頂戴の寫眞一葉宛老師に呈上候処、大ひに喜ばれ深謝申上呉れとの伝言に有之候。坐禪石所在は藤本藤松氏の持山となれるよし、史跡指定手続きをとることゝ致候(櫻島・護国寺趾・土生庵趾・修善尼寺趾など一括して)。尚奥の院の傍にある各種の石塔を通覧致候。どれもこれも完全なるもの無之。悉く継ぎ剥ぎのものに候。これにより一時如何に荒廢したか推知出来申候。今夏八月十五日以来初めての登山にて、先般御示の板碑の処へも参り候が、汽車時刻切迫のためほんの数分間大急ぎ、空刷にて拓本を取り差上候。この墓地を浪人墓地と申し虚無僧寺を頼り落ち来りし浪士の墓所の由。随つて何々居士などいふ墓のあるわけにて、殆んど全部誰の墓やら分からずとのこと。その傍へ近世になり段々建墓乃ち現状の如く相成候。尚板碑は他にありしものを整理の時に、現位置に持来たりて土中へ突込んだものと思はれ申候。引抜いて拓影をとり申候。

134 昭 年不明十・七 夜 (内原)

拜啓 豫て懇請の銅鐸寫眞昨日御惠被下正に悉く拝受。折柄昨放課後花田画伯に随して、阿尾の猪土手寫生の道しるべに参り夜入って飯宅。その儘寝込み失礼仕候。花田氏日御崎及白崎の景觀を雑誌「美幸」に寄すべく、大童の活動目覺しく候。不取敢拝謝申上度如此御座候。縄紋系と目される富安出土の石斧拓影御送り申し候。

135 昭 年月不明二十五 夜 (内原)

拜啓 貴意難有奉謝候。小生本日突発的要件にて南部に参り、更に由良に参り夜八時何分の汽車にて飯宅。貴書難有拝見仕候。何卒二十八日(日曜日)午前六時十二分御坊発列車にて御光来願上度、小生は六時十七分内原発に乗車御随伴申上度。但し全日御出発頃豪雨の節は何卒見合せ下さられ度(此場合他日を期し度)、梅雨期のこと故微雨なら押して決行仕度。大抵午前中に解決仕度候へ共、若し天候よろしくは南広村附近逍遙、御指導相仰度候條。何卒濡装束・腰辨当・寫眞機御携帶の程奉願上候。岩崎氏に一寸話置可候へ共、と角日曜日(多用の仁故或は差支あるかも知れずと存候へ共、其節は手探りに盲滅法介に参ることに致候。兎角明日(金曜日)一応岩崎氏に申伝へ置候。寺は岩崎氏の檀那寺とか申居候。何卒宜敷御願申上候。 敬具

136 昭 年月不明二十五日 (内原)

拝啓 吉原田庸太郎氏邸から出土の土器一個、「紀南」の茶山君に預けあり、御序に御一覽願上度。弥生式かと思ひしも、ちつと新し過ぎるやうに存じ候。糸尻の格好など、どうも新し過ぎるやうに候、一度御覽願上度。和田君・有田奥大韻？明神境内より正元元年己未三月□日、水石壮とある石燈籠を見つけ来り、拓本を取り取り候。字体が鎌倉期のものらしく、蓮辨の手法も全期のものだと。全君の話には火袋だけは後補歴然たりと。

137 昭 年月日不明

(内原)

拝啓 石器取交ぜ化石を添ゑて、兎に角御目に懸けます。ロクなものがないのですが、山の賑ひにはなりません。外に龍王神社の榕樹及び埴田崎の浜木綿などの寫眞があります、御入用でしたら御申込下さい。高見の松・根笹の黄櫻（何れも今亡し）もあります、寫眞帖に貼付してありますから剥取れません。須賀社のタイキンギクも此の一月に採集して来たのがありますが、御入用でしたら差し上げます。尚済みませんが別封「新宮高女太田教諭宛柏木正佳氏寄贈柏槇寫眞」至急御校小使さんに托して、郵便へ投函方御取願上度。実は昨夜當方へ届けて呉れたのですが、このポストへ這入らないので持餘してあります。関宗印刷所の人昨日来訪のよし、小生不在にて会へず。併し「日高鑑」を見積らせたところ、どうも目玉の飛出る程高いので、まあ當分印刷を留保時機を待つことにします。四六版八七〇頁に上る厄介物、所詮百部か二百部ぐらひしか捌ける見込のないもの。一つうんと売れさうなものを書いて、それと併行して出版せうかとも考へてみます。

138 年不明一一・二九

(内原)

拝啓 けふ池上年氏（参州岡崎の人）来郡したとて和田君に急に引張り出され、興国寺の宝篋印塔を見せに行きました。道成寺駅前春駒旅館に滞在中で、石燈籠を据へた上で四日の式まで居られるか、或は有田以北を順拜しつゝ飯るか未定。石造美術については一隻眼ありさうで面白い人です。有田高女へ本着いたと花田君が話してゐます。先日の玉稿乍勝手別稿のやうに書改め、御本名御公表願って発表致度、御高諾下されば直ぐ社へ廻付願上度、正午頃まで着けば今夜のへ間に合ひます。段々の御高配深謝の至に存じます。四日（日）石燈籠献納式・十一日（日）には若野・入野方面へ花田画伯についてぶらつきに行きます。土生八幡の石棒御覧になったら報告して置いて戴き度（小生未見）。

139 推定昭一四・月不明・三一

(内原)

拝啓 御高配千万多謝、「近世資料」no 156 久し振りでの目を拝み得難有奉深謝候。之で正味入金七十五冊目

の勘定に候。外に十冊計り売出せしも入金無く、商人ならぬ小生催促も頻々とは出来ず、遂に流出の儘と相成居候。「鷲峯余光」はまた妙に売れず、全く四苦八苦の態に候。御礼旁々右まで。 匆々 敬具

140 推定昭一四・三・三

(内原)

拜啓林出行走の「扈從訪日察記」御惠贈被下難有御礼申上げます。全く初めて珍敷拝見しました。機を見て紙上に紹介致度と思ふてゐます。栗須川中芝の板碑寫眞悉く拝受厚く御礼申上げます。小生は捻木坂より向ふへ行つた経験なく、大辺路も自動車で素通りしただけで、一つ大ひに踏破してみたいと思ふてゐます。幸校もいがみなりに卒業式に漕ぎつけますが、全く難航続きですっかり疲れてしまひました。新入もどうかこうか定員かつくといふ処です。印南の石斧寫眞をとつて貰つたことは貰つたが、どうもうまく撮れず年度末の仕事片つき次第、一度御頼みに上り度いと思つてゐます(現物その儘保管中)。

141 昭一六・一二・三〇

(内原)

肅啓 歳末多忙の折柄本日はわざわざ御光来下され、洵に大層なる御祝儀御惠贈を忝なし。深厚なる御芳情感佩罷在候。御急ぎのため何の御風情も無之恩礼申上候。不取敢右御礼迄申上度如此御座候。 敬具

三、和歌山市田中敬忠氏宛

1 大三・三・一〇

(南部)

拜復 益々御安康奉大賀候。扱御照会の件小生も余り深く調べ居り申ず候得共、不取敢聞きかじりの儘御回報申上候。

- 一、榕樹の事伝来地は全く不明に候。由良附近にては南支那のみん口州辺より持ち来りしなど、申居り候へども當てにならず。要するに黒潮に洗はるゝ事ゆゑ、自然南より漂着したるものに候べく(但し日高郡印南町へは天保頃、土地の漁民が土佐より傳へし由、之は確かに候)。三尾村・比井崎村より由良村・白崎村・衣奈村辺へかけて繁茂するものは、全く同一系統のものらしく(印南だけは別系統)。有田郡田栖川村辺にあるものも、恐らく三尾辺のと同じ系統なるべくと存じ候。
- 二、七ツ井の事民俗孝上面白き伝説に候。併し七井といふは伝説のみにて、現存せるは一ツのみなること御承知の通りに候。

此の井とても素より近世好事者流の故事を、忘れざらしめんとてつくりしものに過ぎざるべく、史孝上より見ては之が眞に、産湯を上りし井とは信ずべくあらず。たゞ伝説として尊重すべきものといふに止まる次第に候。孝年末多忙中不取敢右のみ御回答申上候。 勿々 三月九日夜 森 生

2 昭二・一〇・四 夜

(南部)

拜復 「水夫虎吉漂流記」を御編纂下さることは実に有難く存じます。御尋ねの件は

和泉屋庄右衛門 が正しいと思ひます。

二十四反帆 がよいと思ひます。

有田の箕島出帆 がよいと思ひます。

「郡誌」へ瀬戸家文書を寫すとき、ウツカリして地ノ島としておますが、箕島のまちがひでせう。

吉崎林助 多分御示しの吉原浦市藏でせう(併し私には此の点?)

飯朝後の動靜、御示しの通りと存じます。

尚右について、別便を以て

○「紀伊教育」雑誌第三三六号附録、芝口常楠氏の「水夫虎吉」と題する一文、御送り申し上げましたから御参考下さい。私の方には今差當り必要ありませんから、ゆるく御覧下さい。尚御問合わせの件芝口氏

(日高々女教諭)へ照会、全氏の回答を求めて置きました。それから資料のこと

◇「江崎太郎記」等は芝口氏が寫し取つてゐると思ふので、全氏へ照会して置きました。これはすぐ借るところが出来ます。

◇虎吉等口書等は大莊屋瀬戸家に保存されてゐる筈です。私は明治四十四・五年頃見たのですが、今でも完存してゐる筈です。御入用でしたら私から手紙で先づ依頼して置き、それから私自身が借受に出かけます(藤田村で「郡誌」編纂當時からいろく世話になつてゐる内で懇意です)。

◇浜ノ瀬惠美寿(神納額寫眞)も芝口氏にある筈です(「郡誌」のは縮寫しました)。これも借りれます。以上和歌山方面に伝つてゐる記録と重複するもの(同じもの)かも知れませんが、御申越次第集り集めて御送りします。私の雑誌切抜だけは別便御送りしました。(芝口氏の文)「水攻史」トント申込がありませんが、商賣は牛の涎でまあ氣永う待つことにしてゐます。

3 昭二・一〇・一〇

(南部)

田中氏の質問状

拝啓 「水攻史」に関し、毎日商船会社へ参り調査致して居りますが、未だに判りませぬ。各港へ再調査並に各汽船へ照会してゐますが、茲数日でなければ判明致しませぬ、どうか御待ち下さい。何とか解決致さうと思ひます。前便の汽船名聞き誤りで姫川丸でござぬます。御多忙中恐入りますが数日前より水夫虎吉の漂流に関し取纏中で、虎吉の氏孫及墓は和歌山市にあり、日高と頗る関係が深いのでござぬます。編纂の大事は先生の「郡誌」によりますが左の通りです。

1 はしがき

2 国定教科書に現れた水夫虎吉

3 天壽丸遭難の現場圖（これは口絵として説明。濱ノ瀬惠美須神奉納額）

4 天壽丸遭難日誌（各古文書を配列したもの）

5 天壽丸遭難者の生涯（御坊や松原で子孫に聞伝へたもの、虎吉のみ和歌山）

6 天壽丸乗組尾崎菊次郎翁、晩年の漂流話（子孫に聞たるもの）

7 日高浦天壽丸漂流始末（古文書）、又は紀州船米国漂流記（全文）

以上であります（口絵は奉納額と虎吉の漂流圖二枚挿入したいと思ひます）。

△このうち日高浦天壽丸漂流始末古文書の、和泉屋吉左衛門持船とありますが、他のものは多く和泉屋庄右衛門とあり、御坊町のものも庄右衛門となつて居ります。これはどちらにしたらよいでせうか。

又天壽丸廿六反帆とあり、廿四反帆がよいと思ひますが、これもどうで御座るませうか。出帆場所も大崎浦とありますが、又先生の「郡誌」漂流人の藩よりの各古文書所蔵家はどちらですか。これは都合で転載さしていただきます。

△漂流人の子孫を調べてゐますが、通称「唐林」こと吉崎林助なる人、漂流の一人であつたこと明らかですが、古文書に他の名を記載してゐると思ひますが、或は松原村吉原「市藏」でなからうかと思ひますが。

△漂流人十二名虎吉一行、佐藏・喜久次郎兩人長崎よりすぐ江戸へ参りたるが如く。尾崎家の話で数年後版省し、御番所詰となつたと思ひます。他の人々すぐ和歌山評定所へいたと考へます。□□が長助一行・太郎兵衛及清兵衛江戸へ参り二人

人数年后転勤し、他江戸よりすぐ和歌山へ飯郷したと思ひますが。以上御教に預りたく、又御氣付きの点は編纂上是非御助言下されたく、何れ取纏の上崎山さんより先生に御校閲御願ひ致します。十月二日夜十一時

森 先生

田中 敬忠

芝口氏の手紙

……御手紙の趣承知仕りました。小生の「水夫虎吉」に関する書類上の一切合切をあげて、東京高師川島

訓導の許に貸して居りますので、今詳しいこと記憶して居ません。震災前和師附屬の照会から前記川島氏に貸してあげました。これは全人著「尋常小孝修身教材解説」の中に、要領よく記載せられてゐます。その後震災にあひて筆記せるもの紛失、文部省で修身教材取調係を命ぜられたのでといふので、去る大正十三年に再び貸して、そのまゝに成つてゐる次第です。それで充分わかりませんが、大躰の処を書いてみます。

船の持主

和泉屋庄右衛門に間違ひ無し。最近までこの名は伝へてゐました。

二十四反帆

大抵の書いたものに、二十四反帆となつてゐたやうに思ひます。

出帆場所

有田郡地ノ島と記せるものあり、或は箕島とせるものあつたと記憶す。この辺わかりかねますが、小生の「紀伊教育」に書いたのが、考へて書いたやうに思ひます。

唐林

吉崎といふ姓から考へますと、天壽丸漂流者の一人であるやうに思ひますが、果たして誰か今覚えません。尾崎・蘭崎・江崎といふのは、藩の岩崎藤十郎の崎をもらつて、蘭の住人は蘭崎、尾の上の人は尾崎（尾の上は吉原浦の小字です。森）、とつけてもらつたといふことです。故に吉崎と吉原の吉に崎をつけたものでありませう。一度しらべてをきます。

漂流者一行

飯朝の後故郷にあつて何することもなく遊んでゐたやうで、生計も余り裕でなかつたやうです。屢々庄屋・大庄屋を通じて、永年船稼業をして他に何等の職をもたぬから、船稼業を従前通り許して呉れとの嘆願書を出したが、出すたびごとに一度外国へ行つたものには、国法として許すことならぬと云つて来た。それから貧窮を訴へたら救助扶持をもらつてゐたやうに思ふ。嘉永六・七年頃に至りアメリカ船の浦賀に来ることありて、こゝに異国船取調役として（多分通辨をつとめたるか）太郎兵衛等が任じられた。又その他士分として取立てられた。漂流者中太郎兵衛も尤も外国語に通じ、一等出世したものである。彼は藩の船の船長となり（その時虎吉はその下に船員として働いた）、又藩の汽船に乗組んだりした。

小生寫し取りしもの全部川島氏に行つてゐますから、一度川島氏へ申しやつてもよろしゅうござゐます。猶太郎兵衛の漂流記事なら、一度江崎の新家で必要なら御探して御送り申上げます。寫眞の方は幸ひ手許にありましたから、別便にて御送り申上げます。甚だ要領を得ませんが可然御願申します。

十月六日

森 彦太郎様

芝口 常楠

森先生の手紙

御手紙拝見 芝口氏と瀬戸氏とへ旧記貸與を請ふ旨書面で照会しました。

△芝口氏のは今全氏の手許になく、東京高師川島訓導に貸してあるそうですから、川島氏へ「一時返却してほしい」と、芝口氏から要請してもらふことにしました。

△瀬戸氏のは私が借りに行くから、貸出しを乞ふとの依頼状です。私が十余年前に全家の旧記を調査中探し出したのですが、其の後非常に名高になり、あちこちへ貸し出したやうです。戻って居れば借れます。貸出中だったら少し時日がかゝります。次ぎに先日の御手紙に依る御不審の件、芝口氏へ移牒して其の意見を求めました処、別紙の通回答が有りましたから、御参考までに差上げます。浜ノ瀬戎祠納額寫眞は芝口氏手許にあるのを借りましたから、明朝の郵便で御送り申上ます。

森 彦太郎

4 昭二・一・一

(南部町 謄写版はがき)

諒闇中を畏み歳首の壽詞を御遠慮申上げます。平素の御無音御詫旁々近況左記聞こゑ上げます。公的方面は一昨年引続き多事多難で、相変らず悪戦苦闘を続けましたが、それでもこの頃は御蔭で追々順境に向いて参りました。私的方面では初夏以来脚氣に加へて、十月から肋膜・肝臓の諸症に悩み、随分薬餌に親みましたが、幸に最近に至って健康を回復致しました。本年は公務の余暇青年の読みものとして、郷土情緒の裕かな文孝的教材本位の「紀州文化読本」(四六版約五百頁)を公刊、引続き「紀伊に於ける万葉人の足跡」(パンフレット)を刊行、更に郷土史料目的と致しまする「日高鑑」印刷を完成致したいと思ひます。切に御後援を御願ひ申上げます。

5 昭三・一・一

(古座町 活版印刷はがき)

嚴寒の候愈々御清勝大慶に存じます。扱私事今回古座商業学校長を拜命本日着任致しましたから、どうか公私共一入の御眷顧に預り度偏に懇願致します。私としての負荷は確かに重きを加へましたが、曩年前任校に於きまして、「一針三礼」の校訓を宣して懸命の努力を誓ひ、苦節三年つぶさに逆境の恩寵を体験致しました。私に更に「盤根錯節」に遇ふことの忝なさを痛感し、深く覺悟を以て参りました。地としての熊野——古座峡は、豫てより憧憬的であり、其処に辱知の先輩も多く、其の御指導の下に公務の余暇を、此の自然と人文との研究に捧げたい念願で御座居ます。茲に略儀ながら右御挨拶を申上ます。

6 昭四・六・一五

(古座町)

拜復 過日御書面の趣拝承、古座町より献上の「たにわたり」につき聞き合わせ候処、西向村重畳山かさねやまにありたるものとの事。併し全山自生のものにあらずして、多分海浜何れかより持上りたるものならん。年数等不明なるも、恐らく三十年以上経過せるものなるべしとの事。詳細不明何れ不日全山へ登山の機を得て、委細確かめ

度と存じ居候。「紀伊史談」次号へ何か差上度と存じ居候。高見の松寫眞後より御送申上ぐべく候。不取敢右まで申上候。 匆々

7 昭四・七・一五

(古座町)

肅啓 向暑の候いよいよ御清勝大慶に存じます。さて多年の懸案として波瀾曲折の裡に絶へず、深厚なる御高配を忝ふしました古座商業学校組織変更問題は、御蔭で円満なる解決を見、本年より御高等女学校令に拠る女学校を新設すること、商業高校は現在々々生卒の卒業を待つて廃止することに決定、私は併任の型式で新設校長を拝命、草創の局にあたらねばならぬことになりました。女学校の創立については前任地で苦楚を体験した私として、寄しき因縁とも申すべくひそかに省みますと、生来の驚鈍に加へて近年俗事纏綿、とかく修養を怠り時代の新潮にも遅れがちであり、今回の改革問題からんでは左支右吾、心身共に疲憊の極にある私として、負荷の過重を痛感しないわけではありませんが、一方には現在生徒を首尾よく卒業させ、光輝ある歴史を持つ古商校をして有終の美をなさしめねばならぬ重責もあり、已むに已まれぬ一片耿耿の志は今遽に退脚を許しません。乃ち満身の創疾を蔽ふて、更に悪戦苦闘の途に上ります。しかも前途の難関を突破すべく、私は何等新鋭の武器を有しません。たゞ生来の裸一貫に愚直と堅忍を以てするに過ぎません。どうか此の微力なる一小教育者の爲に「心の糧」を御惠下さいませ。先は右時下御伺ひかた／＼御挨拶申し上げます。(活版印刷)

8 昭四・八・一二

(古座町)

秋は立ちましたが炎威はなか／＼衰へさうにも見えない折柄、いよく御清勝大慶に存じます。私は病軀を持てあまして喘ぎ／＼消光の態です。新設女学校は夏休を半減して本月一日から二十日間を休んでおりますが、休暇中でも園藝当番は定めの日に実習に出て、文字通り眞黒になって働いております。御蔭で今年は校庭緑化の理想が実現に近づき、女生達の丹精に成る新花壇は、あさがほ・ゆふがほをはじめ千紫万紅めでたく装ひし、日高から移植した浜木綿も早速花をつけ実も結んでゐます。崎山飛驒の守の千里莊から寄贈のカンナやダリヤも今を盛りと咲きほこつてゐます。この頃の朝なく／＼古座街頭に花召せ／＼と、優しき花売乙女の姿を御覧になることがありませう。それはまさしくこゝの女生達です。(謄寫版印刷)

9 昭五・六・八

(古座町)

肅啓 「紀伊史談」第七号御惠贈を忝なし、毎々の御厚情感銘仕候。斯導の爲とは申せ洵に一方ならぬ御奉仕

敬服罷在候。其の内次号あたりへ何か拙稿差上度意圖に有之候も、兎角俗務に没頭し研究に専なる能はず。早く教育介より足を洗ふて余生を紀州文献の研鑽に捧げんと念じながらも、やはりその日／＼の生活に追はれ、思ひ切の悪い男に候。呵々。さて先般発表致候羽山大孝翁の令孫羽山芳樹氏（日高郡塩屋）急死の跡は慘憺たるものにて、家産整理の已むなき状態にあり爲に、大孝翁の遺著として南方翁も推奨措かざる『螢惑夢雜誌』百十四冊をはじめ、遺稿悉く競売に附せられんとする状にあり、大約三千元と評價され居るも幸に不景気の昨今トテも売れざるべく、結局親戚山田家（百万長者）へでも這入るかと思され居り候。斯くの如き未刊の文籍（「紀州先賢」の遺著）を根本的徹底的に調査し整理し、叢書をつくりて印（刷）後、昆に伝ふることは確かに有要の事業たりと信じ、小生教職を退くの後には紀州史の研鑽の傍、右の如き文献叢書を編輯致度、先づ田辺又は和歌山を中心として着手致度計画に御座候。幸ひに着手の暁は御支援を賜はり度願上候。国宝とまで行かざるも、社寺旧家の什宝記録中貴重なるもの多く有、而も不埒なる坊主輩往々飲み代に売らんとするなどの事あり、危ういものに候。これらは史跡天然記念物以上に保護の急を要するもの、然も国に国宝指定の制あり、縣や地方團體にその制なし憾むべきに候。崎山飛驒守南部目津の海浜に卜居。 草々

10 昭五・九

（古座町 印刷はがき）

肅啓 今回古座商業学校長・熊野実科高等女学校長を退き、併せて二十年の教育生活に絶縁致しました。顧れば斯道の素養なき裸一貫の私が、所謂闊外から誤って教育介に入り累りに要職を汚しましたが、兎に角大過なくして今日あることを得ましたのは、偏に大方の御同情と御寛假の賜と、唯々感激と感謝の念に胸を躍らすのみであります。此の上は自らの本領と使命に省み、驚鈍に鞭って「文筆報国」新しい戦線を展開致すことに余生を捧げたいと思ひますが、或意味に於ての逆境より順境への進出でもあると觀じられます。其の遙なる道程を前にして、今宿病と重荷と並に身に在り、勝手ながら拝趨の礼を缺かせて戴きますと共に、一入の御懇情と御指導を賜りますよう、書中をもつて御願願申上ます。教育介と古座町を去るに臨みて。 （消印昭五・一

一・四）

11 昭九・一〇・二八

肅啓 秋気清爽の侯益々御清安奉賀候。陳者今回「藤巖院三百年御遠忌要録」御刊行御惠贈被成悉く拝受仕候。毎度頂戴致すばかりにて、洵に恐縮此事に御座候と共に、先賢顯彰の爲不断の御盡力と御精心の程、実に敬意を表するところに御座候。次に小生録々俗事に没頭致し、一向無爲無能慚愧の至に堪へず候。「和歌山縣先賢

列伝」編纂一件に就ても俗務多忙、且つは例の削除問題の爲頓と氣乗り致さず荏苒打捨て居候。次第何れ万々御詫も申上候得共不取敢右御礼迄如此御座候。 草々

12 昭一二・八月

(暑中見舞にて 印刷はがき)

暑中奉伺 七月二十一日より一週間塩屋王子はじめ湯川・御崎・龍王・比井・志賀・吉原諸社の順に毎朝五時神前早天修養会を開催全生参拝、皇軍の安泰を熱禱致候。全二十六日より月末迄上級生を十班に分ち、校外見幸旁々実習行商を課し、流汗鍛錬の一手段と致候。八月一日より一週間武道土用稽古を開始、新海師範は夜間も出勤有志の指導に當る筈。斯くて同月二十一日より第二期授業開始、九月上旬に亘り徹夜訓練(行軍演習・試胆会等)を行ふべく候。右の外來春卒業すべき生徒に対しては、全職員協力特別指導を加へ居り候。乍然尚不行届の点多々有之候はんも、卒業後の就職志願に対しては何卒一層の御高配と御眷観を賜り度奉懇願候。○最近日高平野の中心たる龜山城趾の北朝日谷より、所謂袈裟襷式小型銅鐸三口出土、弥生式文化の究明に一石投じ申し候。詳細は考古幸紙上に発表致置候。

○関南第一禪林由良興国寺開山法燈国師六百五十年大遠忌(来年十月)を機に廢頽を興し、遺存文献を整理して寺誌を公刊の筈。特に皇室に關係浅からぬ事蹟を顯揚致度念願に御座候。

○日高平野に於ける史跡名勝天然記念物御調査の節は御豫報賜らば御案内可申上候。

13 昭一九・四・二九

(内原 印刷)

肅啓 新緑の候愈々御清安大慶至極に存上げます。扱弊校経営に就ては不断の御高配と御厚情を忝なし深謝致して居ります。御蔭を以ちまして宿年の積願漸く相叶ひ、やっと一本立の幸校になることが出来ました。それは余の儀ではなく、陸軍現役將校配属令に依る、現役將校配属の件が、四月十八日付陸軍省告示第十九号を以て指令を頂きました事でござぬます。顧みますれば昭和八年謙敬院靜暢上人の遺圖を継承しまして以来、先覺田端春三大人始め塾友諸賢の強力なる援護の下に、昭和十年に商業幸校に改組致しましたものゝ、設備不充分の故を以て、純然たる甲商とすることが認められず、已むなく全国にも例のない甲と乙との間の子みたような四年制として、穩忍持續すること六年、昭和十五年機既に熟すとなし一挙五年生に改組(甲種)を企てゝ一敗地に塗れ、翌十六年再挙まづ田端大人を始め稲葉淺吉・原豊次郎・中西和男・湯川龍暢・瀬戸健三・野田英夫・森本仁吉・津村芳太郎・出口友藏・上田勝藏・和田喜久男・深海隆藏・中西悦太郎・吹上惣太郎・柏木正住、諸大人を役員とする財團法人を設立、幸校経営に當ることゝして十六年三月末日付甲種昇格の認可を得ま

した。之で上級孝校へ進学の道は開けましたが、兵役関係では尚遺憾の点があり、それだけ卒業生に引け目がありましたから、鋭意現役將校配属の現実を期し、地元和田村の有力者なる支援と、稲葉・森本両大人等の熱烈なる資助の下に、計畫を進めると共に申請手続中、今回幸に配属指令を得ました次第で、之によつて卒業生は幹部候補生の受験資格を得、この重大時局下に活躍の天地が拡大され行くことは、無上の光栄であり歡喜でござぬます。それとともに教練関係の不足次第も着々補充に力め、今孝年から正課となりました滑空訓練についても、森本大人寄附のグライダー森本号は既に到着、目下配給出願中のゴム索さへ配給されますれば、訓練開始可能でございます。訓練場としては矢田村小熊の川原に略完工の、紀南中等孝校滑空訓練場（約一万坪）を共用方友校の諒解を得て居ります。また和田村保安林内に出来まする教練場は、孝校から徒歩数分間の距離で保安林解除区域は二千坪余りでありますが、四周の有力なる地物を利用することが出来ますから、時局の要請に合致する究境の教練所と存じます。省みますると経営十年、それは蹉跎と惨敗の連鎖でござぬましたが、御蔭様で男子中等孝校としての一応の型式だけを出来ましたと共に、私としての使命も略々果し得ましたと存じます。随ひまして適當なる後継者を得られますれば、後圖を任して私は退陣致し度いのでござぬます。時局の要請は退陣を許しませぬはかりか、却つて益々前線へ前線へと追立てて参ります。即ち生徒は増すばかりで先生は減るばかりで、本年の在籍生総数二百八十名に垂んとしてゐますのに、職員は補充の道が無く、已むを得ず自ら教壇に起つこと一週二十六時、それに企画経営統率の要務もあり、書記・使丁・給仕の雑役をも兼ねて苦闘を続けてゐますが、この微軀を以てこの職域奉公に堪へ得ることを、天の恩寵と感謝致して居ります。何卒此の上ながら一入の御高配と御扶掖を賜り、時局相応の常盤教育をして澆漓たる展開と躍進とを示し得るやう、心の糧を御恵み下さい。先は右近況御報旁々心境を披瀝し、謹んで御挨拶申し上げます。

14 昭年不明六・五

（内原）

（昭一七・八年頃か）

肅啓 薄暑の候益々御清安賀上奉候。扱昨日は貴重なる文献御惠被下御厚情の程深謝に堪へず候。久し振の雨にて日曜日を幸ひ自宅に引籠もり耽読致候。海善寺へは是非一度参拜致度心組に御座候。重大事局下當校も工業転換は微力及ぶ所に非ず。就ては農村を環境とする土地柄、農業孝校に転換すぎく計画致候へ共、急の事として準備整はず、特にその筋より転換の機会に規模を倍にし、（現在五〇人募集・定員二〇〇名）を百名募集定員四〇〇名の農校にせよと慫慂せられ、それをやるには相當の設備を（充実とまで行かずとも）整へざるべからず。其の財源は行詰まると共に農孝校教師もなか／＼得られず、それやこれやにて結局昭和十九年度には実現困難（今年是一年生なしにて商業のまゝ存置）、来年を期して倦土重来定員四百名の孝校をやる心算にて

計画を進め居り候。併し依然として無一物の設備に何等か若干の型だけでも整へ度く、其の爲の財源につき、八方工面致居り稍曙光を認め居り候。農業担任教師についても翌年度には、耕種専任一人が外実習担任者を要し候次第に候が、適材を得難く困惑罷在候。何れ機を見て拜趨委曲御願申上度と存候が、何卒万端宜敷御願申上候。先は右御礼旁々御願迄期如御座候。

敬具

15 昭二〇・一二・一四

(内原)

肅啓 其の後御左右如何、一向御無沙汰に打過ぎ恐縮此事に御座候。実は去る四月一日當方商校より農校に転換につき、御來任御指導を得度と三月三十一日上市、新大工町貴邸迄參上仕候処生憎御不在、御近隣にて承れば近く何処かへ御疎開の由。何処へ御疎開なさるかと相尋ね候得共、不明の由にて取付く島もなく、其の儘引返し申し候。其の後空襲激化の裡小生も大阪勤労働員先へ始終往復致候得共、和歌山へは立寄る機会もなく、其の儘今日に及び候。貴方面御様子如何伺上候。當方農孝校としては農孝科・拓殖科を併置致候処、時局変転に即応し拓殖科を園藝科に改組(蔬菜園藝を主として)、孝校を特色づけ度念願に罷在候。尤も私立孝校の悲しさ設備絶無、且つ財源貧弱今後のことも思ふに任せず、全く裸一貫の裸百姓に有之、人件費だけに汲々致居状態に候。勿論孝校の資格は甲種程度農孝校に候。目下農孝(耕種)教員(有資格者)一名ありし者欠員となり、実習(無資格者)一名あるのみにて至急補欠を要し候。就而は此の際何とか御來援戴き難き哉。御事情一向に存じ上げず不躱ながら、右貴意を得度愚書如此御座候。

敬具

16 昭二一・一・五?

(内原)

肅啓 本日は突然推参大いに御邪魔申上候処、種々御厚情御饗応を忝なし感謝の至に堪へず候。午後は亦寒風裡に新旧市域を南馳北奔、具さに戦災跡地を御東道を賜り、洵に貴論の如く天正兵燹以降の大火と痛感、暗澹たる街相に対しては辞の出づるを知らず。特に天守台上の四顧たゞ荒涼たる無量の感慨に耽り申候。御蔭にて夕刻無事販宅仕候間乍多事御安心被下度、何卒御令閨様へわけて宜しく御鳳声願上候。右不取敢御礼のみ申述べ度如此御座候。

近日中是非御尊來御檢分御指導を賜り度、其の上にて御住宅御安定の方策を講じ度、日曜日の場合は先づ拙宅へ御光來賜り度(但し小生出違ひとなる慮あり、御豫報を得ば幸甚)、拙宅は内原駅下車駅南の踏切を越へて東へ入る。徒歩拾数分間茨木大池と称する丘陵連なり(柑園)、後には萩原部落(国民学校あり)・駅の直ぐ東、寺の見ゆる萩原部落に候。園藝科要畑地入手は時節柄最も困難を覺へ申候が、何とか善処致度山地開墾の交渉は受け居り候へ共、生徒は未だ少年十三・四歳のもの

にて力量不足、加ふるに開墾要具缺乏爲めに多くを期待し難く候。

17 昭二一・二・六

(内原)

肅啓 由良守応拓本忝く拝戴仕候。守応は瀬見善水・羽山大孝三羽鳥と併称せられし、明治維新の日高の先覺にて、三人共晩年振はざりしも小生等の夙に敬仰する高士に御座候。さて本日楠本良一君より全家の近隣にて農家の離座敷借受得る見込つきたるより、田中先生へ御知らせ申上げ呉れと。申出場所は内原村茨木(内原駅より當大字への入口)にて、幸校へは遠く候へ共一寸小綺麗なる離れ座敷(新しく)に有之。一度実地御見分に御光来被下間敷哉。他に楠本君の隣に今一軒少人数の御家族ならば(小兒なき方)離座敷を借すと云ふ家有。之誠に御一見被下間敷哉、別紙汽車証明書封入致置候。去る二日南部町田中隆憲師(法伝寺住職)を招請、醜素堆肥講習会を開き候。旧正月にて多数来会者有之候。四月五日には有田郡藤並村有田幸園にて、東亜聯盟本部(解体せしも)より派遣講師の講習会も有之。酵素利用熱昂まり来り候。

18 昭二一・三・九

(内原)

肅啓 田辺へ御出張被遊候由、それまでに何とか當所に於る御寓所を、物色御序に御立寄御見聞を願度と焦慮致折しも兎角思ふに任せず。當方の望も格好の物件は先方が背諾せず、内原西の方でも交渉致居候へ共これもうまくゆかず。和田村地元の農家へ交渉せしもこれもならず、目下和田村入山にて中井寅楠(父兄会役員)を煩し、立花伊三郎家の離座敷貸與を交渉致居候。中井氏は尊台をよく存じ上げ居り、『田中様のやうな御仁には入山部落に御假寓を願ひ、我々の実地農業も御指導いただき度、椎崎村長とも協議大に奔走してみる』と申され居り候。どうしても普通民家を得られざる暁には、和田村常德寺内常盤義塾発祥の地に残存する、旧塾舎へ畳を入れ便所を新設して、これを御利用願度と小生の腹案に候。之は倭陋なる建物なれど常盤義塾草創の記念物故、余人はいざ知らず、好古趣味の尊台には御容認戴けるかと愚考、目下豫備工作として常德寺未亡人(淨暢師配偶)の諒解を得ることに力め居り候。幸校は依前欠員の儘三月末まで隠忍すべく、卒業生有志(高商卒)や望月純一郎氏(元青島副領事)を臨時囑托として補欠授業をやり居り候。さて十五日を期し四年生を卒業させることに致し候。在校生の終業式は廿五日、新入生出願メ切は二十日、考査は四月七・八、発表は九日、入幸式は四月十三日舉行の予定に候。次に本日御下命の一件は元より小生の熱望する処に有之。豫而雜賀氏に対し印刷引受方を申出でたるもこと有之、喜んで一切御引受致可候。小生も四月に入れば職員陣容を整へて、本務に若干の余裕を見出し得べく、相當趣味の道へも没頭致度存念に候。經濟革命下今は俗事纏綿へ右も左も金

々闇々、実に殺氣満々・物相千万に候。時下御自愛專一に方祈上候。

敬具

19 昭二一・四・七

(内原)

肅啓 花鳥の候益々御清祥奉賀上候。扱本日新入考査・受験生意外に少なく候へ共、時節柄已むを得ざるものと相認め奮ふて既定の方針通り遂行致すべく。就ては十三日入學式・十五日始業式を舉行、愈々新卒年の授業に取懸度候条、何卒豫而御梱願申上候通御来援を仰ぎたく、一度御来相仰ぎたる上御寓所・其の他細目打合せ申上度右懇願迄如此御座候。

敬具

20 昭二一・四・二六 夜

(内原)

肅啓 今夕幸校(宿直)にて御速達便拝見、御不例の由にて御出勤御大儀の段御尤もとは存じ上候へ共、當方としても多大の御期待申上鶴首罷在候。折柄御静養はゆるく遊ばされ、御回復次第御来任の程切に懇願仕候。先般来も四月二十日父兄会役員会及総会開催、父兄に対して近く尊台の御赴任あることを公表致し居り、法人関係・和田村関係へも同様公表、先日塩崎村長と途上相会し候。折柄『田中様まだ御見えにならぬか』と御尋ねあり、父兄有志も大なる期待を以て御着任を熱望致居候次第につき、何卒御加療を十二分に被遊び候上にて是非々々御来任相煩度。農科の先生も交渉中今に纏まらず校内は失態続出及居候へ共、兎に角楠本君ありて糊塗及居候。次に先日頂戴の由良守応翁碑につき由良濱上楠松氏に紹介中の処、由良興国寺墓地に由良家先祖代々の墓碑あるも、彼の拓本の如き巨碑は見當らず尚検索中、と返事あり由良にはないように候。やはり広か栖原かあの辺にあるのかと存じ候。

21 昭二一・五・二八

(内原)

肅啓 追々御快方に向はれ由大慶と奉存候。扱本日中井氏来談、過日来八方に手を廻して家を物色中のところ、幸ひ一軒空家を見つけ借れることになったとのこと。それは和田東側の松原村界に近きところ。早速楠本君視察旁々交渉に参り候処、いつにても貸すとのこと。就ては可及的急速に御検分を願ひ度、これは只今の貴宅の如き格好の家に非ず、常德寺の旧教室に比しては稍マシなれど、御氣に召すか否か、兎に角一度実地御検分願上度候。中井寅楠氏長男良雄君南方にて戦死、今日英靈皈還の筈(二十八日朝)。

肅啓 決戦愈々御勇健の条奉大賀候。豫而深甚なる御高配を忝なし居候。農孝校新設の件其の筋へ認可申請の処、愈々本年三月三十一日附を以て認可発令相成たる旨、今朝文部省某高官より電報に接し候。茲に昨年末の懸案は一切解決を告げ、新に中等孝校令実業孝校規程、並に私立孝校令に拠る甲種農業孝校として発足致すと相成候。即ち

孝科	修業年限	定員	學級數	入學資格
農孝科	四年	二〇〇名	四	国民孝校初等科修了程度
拓殖科	〃	二〇〇名	四	右

にして本年は第一孝年・二學級を編成、来る昭和二十三年度を以て完成する計画に有之候。もとより前途の多難は豫期する所、何卒此上万端宜敷御願申上度右御挨拶迄如此候。 敬具

追而本年度は既に職員組織も終り、実業科主任教諭も着任、決戦即応の作業計画を樹立、生徒も

和田	三尾	比井崎	志賀	内原	湯川	藤田	野口	塩屋	名田	御坊	松原
二四	一	一〇	四	三	七	一	七	二	七	一〇	一七

衣奈	白崎	由良	川中	川上	他府県	計
二	二	一	一	一	五	一〇五

を收容定員を超過致居候へ共、尚各孝級共數名宛收容可能につき、開校認可を機会に此の際追加募集を致度、御承知の通本孝年は授業を停止、重点を農業実習に置き勤労作業を通じて戦意を昂揚、併せて農業生産に対する熱意と実力を啓培する建前につき、智能的方面の素質低劣なるものも、必ずしも拒否せざる方針に有之。此点御含置賜はり一段の御配慮・御後援奉願上候。

四、南紀土俗資料刊行會報

和歌山縣南部町

南紀土俗資料刊行會

恨みは深し 「南紀土俗資料」

「日高郡誌」の補遺として日高郡が當然すべかりし残稿約九百枚は、日高郡廃止のその日尚編者の手許に留め

和歌山にて 崎山信吉

て推敲を重ねてゐた。日高郡としては編纂を囑託した編者に対し、當然一応の挨拶があるべき筈だ。少なくとも其の残稿を如何に処置すべきかを指令すべき筈だ。而して郡誌の印刷費には若干の余剰があつた筈だ。余剰がないにしても其の最後の郡會に於て、郡長が西面議員の質問に答へた手前もあり、何とかしてこれを世に公にすべく一工夫あるべき筈だ。然るに何事ぞ日高郡當局は、編者に対し郡制廃止の日になつても一言の挨拶もせず、残稿の処置についても何等の指令をも與へず、全く闇から闇へ葬り去らうとするかに見えた。実に編者を馬鹿にした話である。そして編者から指令を乞ふに及んで、「郡制既に廃止の今日如何ともするに由なし」の何のと、水臭いの何のて話にも何にもなりやせぬ。是に於て編者の友人たる我々は種々口議の結果、みんな応分の努力して編者をして自費出版を刊行せしむることとし、取り敢へずその残稿を日高郡から編者の手へ頂戴させた。どうせ厄介者扱にしてゐた原稿だから、日高郡としては寧ろ厄払ひをしたつもりだつたらう。それから豫約を募つて和歌山印刷株式会社に命じ印刷にかゝらせた。豫約は実に好成績で郡外及び縣外からも別紙の通応募の申込があつたことは編者を感じせしめた。それで印刷に臨んで郡外の記事をも追補し、名実共に「南紀土俗資料」として恥しからぬものを公にすることになつた。そして不肖私は同人會議の結果和歌山に定住するの故を以て、校正及印刷の督勵といふことを引受けた。印刷ははじめ順調に進んだが、彼の去秋の大震災の突発するや忽然として豫定が狂ひ出した。それは和歌山市印刷株式会社が大災の影響によつて、紀州の一角から中央の桧舞台に乘出し、差當り緊急を要する教科書の印刷など沢山引受け、専務関次郎君は災後の東都に乗り込んで、懸命の活動をする事になつた結果、本書の如き印刷物なんか全く閑却さるゝに至つたのである。本書の発行遷延の理由は右の事情による。遅くとも昨秋十一月には配本するといふたものが今日になつたのである。短気な編者は幾度関社長（宗七君）のところへ怒鳴りこんで行つたか知れぬ。私は編者と会社との間に立つて実に困つたのである。右の事情故どうか各位の御寛恕に預かり度い。尚経済の貧弱な本会は本書刊行の爲満身に創疾を受けてゐるので、規定の其の節（すぐ）への納本以外一部も寄贈が出来ないのは、恐縮であり遺憾であるがどうか苦境を御察し願ひたい。

◆第二期事業ⅡⅡ「日高鑑」の刊行

右の事情でもう活版印刷をやる餘力がありませんので、これから紙版印刷（即ち謄寫版印刷）によつて郷土史料の刊行を企てます。差當り第二期事業として、来る九月「日高鑑」を出します。本書の御豫約の方で御入用なれば御申込下さい（和歌山縣南部町本会宛）。印刷費は知れたものです。

五、心友の爲に紙碑を立つ

あゝ崎山 紀南農業孝校崎山教諭

森 彦太郎

四月二十八日故紀南農教諭崎山信吉氏の葬儀に列したが、各団体代表の弔詞だけでも二時間以上もかゝるといふレコードを作った。故人はすべての点に於てレコード破りの快男子であったが、其の最後を飾る校葬もレコード破りの盛儀であった。それでわれわれ風情のザックバランな弔詞なんか無論割込の余地もなく、完全にオミットされた。私も実は浪人組といふ団体の代表であったが、そんな代表なんか認められる筈もない。そこで本紙上を借りて一建立の紙碑をたて、聊か追念の微意を表する。

崎山大兄！ 新瀉縣立高田農孝校長岩崎二三氏から

紀南農孝校々友会賛助会員、即ち旧職員有志を代表して誅をささげ、われわれの心からなる敬悼の意を表して呉れ

との御電囑であります。さられも「私は大兄の最も古き竹馬の友として・會心の友として、ここに最後のお別れに臨んで哀傷切々の心境を、御柩前に披瀝せざるを得ないのであります。兄よ！ 兄の若かりし日王子橋畔の柳樹に因んで翠柳と号し、又塩屋校代用教員たられたに因んで塩校代師（円光大師に通ず）というペンネームを用ひ、又戦国時代有田・日高に亘つて武名を轟した、土豪崎山飛驒の守を遠祖とするに因んで、飛驒守の別号をもつて居られたが、いつであったか（多分和歌山縣農會時代だったろうと思ひます）一編の小説をものし、和歌山新報へ（だったか）の新年号に寄せられたことがありました。兄は其の小説の主人公に私を据へて才子ならねど蒲柳の質であった、私を病死した事にして取扱れたことがありました。嗚呼當年既に死んだことになつてゐる、其の小説の主人公たる私が却つて、今日ここに生きて兄の御棺前に立たうとは、健康に於て一歩も二歩も兄に譲る私として、豈圖らんやで全く感慨無量であります。思へば和歌山縣農會にあつて有爲の青年技師たりし大兄を勵し、大兄を勧めて奮つて靜岡縣興津の国立園藝試験場に螢雪の功を積ましめたものは、内助の人としての兄の令夫人でありましたが、晩幸を厭はず興津に遊幸し、若いものの中に一人混じつて技を練り・腕を磨くことに精進した兄も又偉なりと云はねばなりません。やがて幸成つて飯縣した兄は、縣立農事試験場蔬菜主任として即郷土・即地方栽培といふ大旗をふりかざして蘊蓄を傾け、又當時の小原知事の知遇と援助の下に、園藝趣味並に俳句趣味鼓吹の目的を以て、「遊土会」といふ団体を作り雑誌も発行された。又當時この幸校から出してゐた、「紀南農業月報」にも盛んに寄稿して斯道の爲に貢献され、門外漢の私如きも兄の感化によつて下手の横好きといふ域に漕ぎつけ得た事を、深く感謝致して居るものであります。

牧野先生は夙に兄を識り兄を垂重して居られました。日高農業孝校を紀南農業孝校と改称の年、園藝科主任として実力・貫禄兼備の士を招聘することになり、不肖私を介して先づ兄の意向を探らしめた処、當時試験場を去る事は恩給関係、其の他兄の一身上物質関係には不利益ではあったが、兄は牧野先生の高邁なる風格を仰慕し、「士は己を知る人の爲に死す」と云つて、手紙一本で即諾・即決南部へ来られることになりました。あの時兄を南部へ引つ張つて来なかつたら、こんなことにならなかつたらうに……というやうな凡夫としての愚痴も出ます。さるにても若い時分から死ぬ程の事がしてみたいといわれた兄が、南部では文字通り一生懸命・一心不乱にその本務の爲に盡瘁して下さつた。そして孝校の園芸科を然して地方の園藝界を一人で背負うて立つの概があり、兄の同僚も兄の生徒も皆兄になつきし、園藝の崎山が・崎山の園藝かといはしむるに至つたことは、友としての私に取つても嬉しいことの極みでありました。かくて兄は数年前南部川の彼岸・櫻散る片倉山に近く、翠滴る千里浜に近き谷間の地を目してそこに安住の居を構ふ、「もう南部の土になるんだ」と云つて居られました。土になると云うことは実現しましたが、それにしてもそれが余りにも早すぎました。今日となつては何故あの時目津移転を諫止しなかつたか、嗚呼たつて諫止して居いたら……と又しても愚痴が出るのであります。併しながらまた思ふに、兄が四十五年の生涯に印せられた足跡はなかなか深く、その残された業練はなかなか大きい。兄の肉体こそ滅びたれ、兄の魂は・兄の教は後進諸生及び社会各方面の人達の脳裡に生きて永久不滅であり、それは同時に紀南農業史に太く・大きく・輝しい存在として万世不袴であります。其の最後こそは悲しくも痛ましいが、兄の四十五年は本當に意儀あり價値或人生であつた。之を思へば死んだのは肉体であつて、精神の大兄・魂の大兄は断じて死んではゐないのであります。それに突然の奇禍による大兄の悼ましい急逝は、私どもに無言の然して無限の教訓を興へて呉れてゐます。それは人間の五体というものは、昔から厄年の前後に於て機能に変調を来すものである。そういう意味に於て所謂厄年以後は、余程警戒を要すると云うことであります。打つても・叩いても死なぬぞと、頑健を誇られた大兄ではあつたが、それでも年令の関係で矢張り視力に変調を来たし、もうこの眼鏡はあはぬ掛けても掛けないでも同じだと、云つては外し外しされた事を私は想起します。あゝこの年の勢による視力の変化、それが今回の遭難の根源であつたと思ふとき、大兄の最期そのものが一大教訓であり、一大警鐘であると私は解します。更に私として終生忘れ得ないことは、さきに不肖を以て創立の孝校を御預りした時であつた。それまで順境にばかり居つた私は、本當の世の中と云うものを知らず・本當の人情と云うものを知らなかつたので、たとえば山中の湖水を出て波瀾万丈の大海に投じたやうでありました。此の時私如き者に熱烈なる同情と激励を賜つたのは実に牧野先生で、而も先生の思召を体して終始私を支持し、擁護して下さつたのは、紀南農業孝校職員諸氏であり、

就中大兄及前田・林・田所諸氏が、激務の時間を割いてまで献身的援助して下さいました、厚き友情と道の爲の篤志とは當時私の苦みの大であつただけ、感激も深く且つ大であつたのであります。茲に此の機会に於て當時薫陶に浴した人たちに代つて、心からお礼を申し上げたいのであります。それにしてもほんこの間めつたに来て呉れぬ兄が、出張の序を以て久しぶりに拙宅に立ち寄られ、痛飲快談数刻に及んだか、あゝあれが最後の対面であつた。そしてそれが虫の知らせと云うものででもあつたであらうと思ふと、そぞろに悲しくなります。「あの酒よかつた。それから兄貴の所で蜜柑をたらふく食べ、尚ポケットにまで忍ばせて鹿ヶ瀬越え有田へと急いだ。「あの酒と酒後の蜜柑の味忘れられず」など、有田からよせられた消息を思出しては、またしても私は愚痴をならべたくありません。否もう纏りごととは止しましょう。兄よあまりと云へは突然のことで、人の世の悲しき運命をまざまざと眼の前に見て、あきらめようとしてもあきらめ切れぬからの愚痴であります、がどうか一切の後事は、先輩およびわれ等友人に委して、靜かに安らかに永の眠について下さい。蕪文体をなさず措辞當を缺くと雖も、ただ希くば私共の微哀を餐けさせ給はんことを。

○追伸

當日會葬した我等のグループでは、異口同音に故人の筆まめであつた事を讃へた。「僕の所へは三月十八日附の手紙が最後であつた」とか、「僕のところへは二十日附の葉書が来てゐる」とか、故人の手紙の話が一しきりはづんだ。就中三尾村山本啓藏氏が御持ちの、四月二十四日午後七時発とある葉書は、恐らく故人の絶筆で、遭厄の直前認めて幸校からの飯途、投函したものだつたらうと誰もが肯定した。私宛の消息は十九日付の葉書が最後であつた。それはその前に私から

一、玉井武二君を喜ばず濱木綿文献を新たに発見した。

二、加藤みさを女史から懇望された拙筆（揮毫）が出来た。

と云う通知に対する返事で、「それ見度くてたまらぬ。僕の手許へ送つて呉、僕が取次ぐ」と云う意味であつた。この葉書の着いたのが廿一日、そこで私は直ぐ荷造りして翌二十二日早朝客車便で急送した。故人はそれを見て大層よろこんで、職員室から校長室まで見せに行つたとかの話。

故人は画も字も拙かつたが、眼識は相當あつたようで、文章は當意即妙意至り筆随ふの概があり、新聞雑誌の原稿なんか、需められるまゝに人に待たして置いてすらすると書いてのけた（どんなな幸術上の複雑な事柄でも）。當意即妙の例としては、いつであつたかの年賀状に

年と共に娘美しうなう嬢きたなうなる。やはり年は争われぬ ……
などあり、卒業式祝詞を贈つた返事に

祝詞難有、アレ早速校長に預けた。喜んだ、森さん来てほしいと申されける。高台来られぬときは井出教頭に読んで貰うべきか、小生読んで然るべきか、それとも玉井兄を煩すべきか、何分の御内意伺ひ上げ候。といった調子で頗る要領がよかった。智識欲・読書欲が旺盛で、それが清新多趣味な講演に巧に盛られてゐたが、時々「この本買う」といふ、安いもんや……」などと云つて、古本目録を送つて来た。藤原定家御筆「明月記」原稿コロタイプ板十五円などといふのも、勧められて買ったが今にして思へば十五円は安い。先年来柑橘園剪定に適當なる代理者を派遣して貰いたいと頼んで居るが、「そいつコツがあつてなあ、代理では行けぬ時分が行く。自分がやらねば責任もてぬ……」とあつて、とうとう来てくれる暇がなかつた。噫……

この校葬に盛儀に關聯して遺憾に堪へない事、故人の英靈に對して相済まぬと思ふことが三つあつた。あれだけ道の爲に貢献し・あれだけ社会的に活躍し・あれだけ功業の顯著な人物を、法名單にわずかに「觀空信道居士」ではなさけない。いかに新福寺の新附檀徒だとは云へ、またいかに佛教的功績に乏しいとは云へ、此の場合には典例や家格など云うものを度外視して……、つまり破格の取扱をもつて院号の追贈があつて然るべきだと思ふ。家格其の他に於ては同寺檀家としての、熊代・岡崎・玉井・中村諸名門には遠く及ばぬが、一個の大人格というものを認めて、適當なる院号を贈ることが、新時代に処して佛教の生きる道でもあると思う。これが一つ・それから会葬者二千を超え、縣下各方面・各階級のあらゆる人士を網羅した盛葬に、和歌山縣の代用者と、東内原村（郷里）の代表が参列しなかつたこと、之は別に云う人があるから、われらは多くを云はぬ。完。

六、森先生公葬の弔辞

1 弔 辞

井上 豊太郎

本日森彦太郎君公葬にあたり、不肖豊太郎つゝしんで君の靈に告す。君つとに史孝の志ふかく、教育の業にたづさわるかたわら、思を考古の孝にひそめ、筆を史実の顯揚に染めて、六十年の生涯孜々教而不倦孝而不息豊騰の思想棟大の筆つねに世間を碑益し、人俗を啓発するところ甚大であつた。今君が生涯の業績をかへりみるに、職を教育に奉じては御坊・南部の実業孝校教諭、南部実修女孝校長・古座商業孝校長に歴任、おほくの青少年子女を教養し、湯川淨暢師なきのちの常盤孝園を經營して、その間幾波瀾にたえその間數百の子弟君が薫

化をううむる。また棟大の筆をおこして孝問に資するや、研鑽日をおひ月を重ねて、「日高郡誌」・「南紀文化読本」・「南紀土俗資料」・「日高近世資料」・「鷲峯余光」など、孝者一代の業績としてことたるべきか。およそ孝問の道肅涼として孤高、著書おそらくは俗世に遠隔す、偶々後世発する人ありて遺光利益するところある。而已しかれども、また人と著書形影ともに靈ありて不滅、時流の明滅何ぞ介意せん。今君幽明境を別にす。生前の辱知として君の行藏を追慕することしきりなり。君後ありて君が業をつぐと頼母しいかな君以て瞑すべし。ここに一詩を献じて慰靈の詞となす。

孝門之道肅廉貞著書隱行

郡資生森君業績奚消耗

必有後知能啓明

冀くすきたりうけよ

昭和二十二年八月十七日

井上 豊太郎 枯香 再拜

2 弔 辞

常盤商業学校職員・生徒

森校長先生は遂に逝かれました。孝校の将来と生徒達の現在を臨終のその時まで絶えず口にせられ、近親の方々と孝校関係の人々に護られながらいと静に逝かれました。絶望の中にも一縷の望を託して平癒を祈ったことも、今ははやあだとなりました。先生には先生ではなければならぬ幾多の問題と・事業と・研究とが未完成のままにして、この世を去られたのであります。天はなぜ先生に猶若干の齢をかさなかつたのであらう。あゝ天に呼び地に叫べども、先生はもはや此の世には皈って来られません。げに惜しみてもくあまりあることをごさぬます。

願れば明治四十一年教育介に身を投じてから今日に至るまで、全生涯をこの道の爲に捧げ、徹頭徹尾奮闘と努力に終始せられました。先生の孝殖の深きこと郷土史の權威たるに止らぬものがあります。先生の書齋に山と積まれた書籍は抑も何を物語るであらう。教育の劇務に従事しつつ、こゝから幾多の貴重な著書が生まれ来たのであります。不朽の大著「日高郡誌」が上梓せられるや先生は私に云ひました。「日高郡誌」は筆で書いたものではない草履で書いたのだと。當時紀和国境を踏破し、日漸く西に傾かんとする時引牛の峻険を下ったなど、尋常一様の著述と同一視出来ない真摯な所産であることがうかがわれて貴い。昭和八年前常盤義塾長の物故せられるや、関係者より切なる懇請によって理事兼塾長となり、先生はこの時に於て特別の努力をその経営

に払はれたやうに思はれます。先生は元來直情直行の人でありました。所信に向つて進む時は意志頗る鞏固乏しければ乏しきほど・苦しければ苦しいほど、先生の勇氣は之に百倍し成し遂げずんば、敢て退かざる人でありました。常盤校の今日を築いたのは偏にこれに依るものあります。壇上に立てば侃々の議舌端火を吐き、紙に向へば諤々の論争鋒當るべからずといふ先生ではありましたが、一度先生に接すれば温容玉の如く謙虚そのものゝ態度、眞に己を知るもゝ爲には敢て苦勞を辞せざるその親切、之が先生の眞面目であり徳であつたかと思ふ。森宗を奉ずる人の多きも亦之によるものと信ぜられます。私も森宗の一人であり、先生の小壯時より知遇をうけ、特に親交を得てゐるものであります。先生の靈前に坐して感慨の一層切なるものがあります。あゝ先生はすでに今やなし、されど先生の遺著は大ひに世を益し、先生の遺訓は我等の前途を誡めてゐるではないか、常盤の松籟余韻長く先生はまだ死んではゐられません。我等は先生のこの遺訓に従へば、必ずやその御庇護に預るべきものなることを信じて止みません。先生よ希くば我等が上をまもりませ。謹んでこゝに先生の御冥福を祈る。

昭和二十二年八月十七日

常盤商業学校

附設中学校

職員生徒を代表して

芝口 常楠

3 誄 詞

昭和二十二年八月三日財團法人常盤義塾理事・常盤商業学校長森彦太郎君逝去さる。洵に痛惜に耐えぬ。君は明治二十一年一月二十四日日本郡内原村茨木森喜平氏の長子として生まれた。母は隣村丸山村の丸山氏で何れも数年前物故された。家は代々農業を営み、文筆弓箭を採らなかつたが、生まれた當時国情は明治憲法の施行迫り、通商條約の改正・枢密院の創設・孝位の制定等、内外制式の整備と相俟つて国風隆盛であつたから、自然時代の風水の氣質を享けた。長じて居村の小学校を経て田辺中学校に孝び、穩忍恭儉・殷懃厚礼の氣風を作つた。膨大な「日高郡誌」の編纂・精緻宏博な土俗資料の蒐集等は、穩忍と恭儉の結晶に外ならない。君の誇るに足る業績のみに数ふべきものである。始め職を代用教員に奉じ、次で紀南農学校に転ずるや旧海草農林出身者を教職に迎ふる周旋尤も努め、多年確執の孝統に居中調停して縣農孝介の淨化融和に盡したる如きは、天稟の性として徳望の一つである。大正十四年紀南実修女学校の創立せられるや擧げられて校長となり、克く創

草の困難を克服して教壇を確立し、次いで昭和三年古座商業学校長に転じ、校風の刷新・講壇の整備に得意の手腕を発揮して、薰陶愛育の子弟遍く縣下に遠んだのは、殷懃の徳恭謹の自信厚きに依るものである。其の時務非なるに當り、昭和五年十月辞任して故山に皈耕して、豫て好める郷土史の究明に従った。會々昭和八年湯川淨暢師を失へる常盤義塾存亡の秋に會し、塾友門生に迎へられ入って経営・育英の任に當った。時に塾は規模も小さく門生も五十名にも足らぬ叢爾たるものであったが、君が櫛風沐雨彫由鏤骨の垂範訓育の宜しきを得て、十年五月常盤商業学校に更新されるまでに至った。之より一層力を致し誠心を盡して経営に傾倒された。然るに財團の経済は極免て貧弱言ふに足りなかつたので、財的基礎の補強に身心を勞し、塾関係者は勿論・或は先輩・知己・朋友・或は卒業門下の間に奔走し懇請、遂に昭和十六年目的を達成して甲種商業高学校として更新発足することが出来たが、財務は決して樂ではなかつたが、此の間些しも倦怠の色なく、且に霜を踏んで家門を出で夕に星を戴いて校庭を辞し、終歳備に精進して克く缺乏の資を以て、校舎の増築に・教材の充実に肝胆を碎き、乏追の財政を工夫塩梅して変理されたる労苦は、到底筆舌に陳べ難ひ。然るに昭和十六年以来国運は非恨不已、全十八年を以て文化系統の学校閉鎖の厄を負ひ、山川・草木・卒土の潰掲げて防戦の資に供する時に、会ふ君が内外の苦患茲に窮り、行路の蹉口^だ荆棘の險惡甚大を加へしも、克く文化傳承の責に任じ無比の勇猛心を以て、二十年甲種農業学校に転換更新するを得たが、安閑直に破れ悲運は更に重り来り今年の孝制改革に當る。されども毫末も悲觀せず、直に高等学校への昇格を決意し、その準備に着手したるは眞に文化を好愛する文化人であつたが、会々七月二十七日其の準備の同窓會に熱辯を振いたるを最後として、其夜急病に倒れ二・三の国手の治も不及、八月三日藥石の効を見ずして午後八時五分天壽薄く易簣された。行歳六十歳洵に悲に堪へない。君有爲の壽を残して逝けるも、既に史孝界に・文化面に残した足跡は極めて巨き。而も此の大業を成せる良室と英才君に踰ゆる賢嗣の後を護るものありて、君の業と徳は綿々として盡きづ、永く清良の家門に続くであらう。たとへ魂は塋に埋まるとも瞑するに足りよう。茲に君が知友・塾友を始め門生等會して祭壇を設け、偉業を偲び、遺徳によつて君が冥福菩提を念じ、安樂の彼岸に往生せんことを謹んで祈る。在天の靈来たりて此の回向を亨けんことを希ふ。

昭和二十二年夏 忌日

財團法人常盤義塾

理事長 田端 春三

森彦太郎先生、私は心からこゝに悲しさと淋しさの気持ちで、先生の御名前を御呼びするものであります。はかなさが人の生命の定めとは云へ、余りにも先生の去られるのは突然でありました。私は先生の御死去の通知に只呆然となるだけでありました。近来益々教育の爲に御奮勵される先生の御様子を拝聞して、私わたくしかに敬服の心を持つて居りました私には、全く技を失ひ・暗夜に燈を失つた思になるばかりであります。先生は早くから「日高郡誌」の編纂にその努力を盡され、その資料採集の爲郡内各地を、殆んどわらじがけで踏破されたとの事であります。激務の傍らあれ程のすぐれた仕事をなされるのは、その蔭になみ／＼ならぬ御努力と、約十三年と云ふ長い年月がかけられてゐるのであります。その後先生は常盤中幸校（當時の常盤商業幸校）の校長として全力を傾倒されたのであります。南部に在任された時分からの慢性の脚氣にも拘らず、なくなられるまで、約十五年間和田まで徒歩で通勤されたのも、郡誌編纂に見られた先生の努力家であること、辛抱強い性格の方であることを示すものであります。先生は常盤校経営の爲実に種々の心労を盡されました。最後まで氣にかけられたのもそれでありました。病床に居られて『自分は達觀してゐる。生死も何もすべて天に任してゐる』とまで云はれた先生が、たま／＼病状悪化に際して『まだ死に度はない。自分にはまだ／＼仕事が残つてゐる』とあせられた相であります。私はそこに教育の爲に余りにも短かい人の生命をなげかれた、先生の熱い吐息を聞く思がして、胸にこみあげて来る思をどうすることも出来ないであります。今日程教育に大きな期待をかけられてゐる時はありません。先生の御死去は実に縣教育介にとつても、新生日本の教育介にとつても大きな痛みであり損失であります。而し思ひかへして見ればその肉体はうせても、その精神はいつまでもなくなりません。却つてその光輝を増すものでさへあります。その点から云へば人間は永久に生きるものであるとも云へます。先生の肉体がなくなられても、その教育愛は何時までも消えません。未熟ながらも先生と同じ道を進む私達も先生の歩かれた道みちを見つめ・ふみしめ乍ら、先生の精神を生かして行くつもりであります。又先生の薫陶をうけられて、今は立派に社会に於て活躍して居られる人々も、先生の御遺志を増々拡大して行く事でありませう。今となつて徒に呆然自失して悲しみにひたりますまい。先生の無言の御言葉を常に心に抱き乍ら、勇躍進む覺悟であります。先生が去られて急に淋しさを増された御家庭にも、尚未た慈愛深く賢明な奥様と、立派に御成長された御子息様方の健在されるのを思ふ時、私達は又明い希望と祈りを禁じ得ないものであります。茲に教育介・教員組合を代表して謹んで弔辞を呈します。

昭和二十二年八月十七日

日高郡教育会長
日高郡教員組合長

宮所 恒楠

5 弔 辞

謹んで故森彦太郎先生の御霊に哀悼の誠を捧げます。先生突如として幽明境を異にせられました。我等その訃報に接し、且つはこの耳を疑ひ・且つは愕然として爲すべきすべもありませんでした。嗚呼悲痛の極みでありませぬ。先生性は温厚篤・実幼にして孝好まれ、長ずるに及んで夙に教育界に身を投ぜられ、学問の爲・教育の爲と常に卒先垂範なされました。平素内にあると外にあるとを問はず、寡言よく実行され研鑽倦むところを知らず。身を処するに実に潔癖であり、教育の熱愛衆に擢でられ、誠に教育者の龜鑑とも申すべき立派な人でありました。就中多年御盡粹せられた数々の御功績の中でも、後半常盤中学校に關しての献身的な御経営は、吾等世人と共にひとしく絶大な感銘と深甚なる敬意を表するものでござぬます。先生は又郷土史研究の權威者であられまして、今日先生の急逝御他界は洵に我が内原村にとつての痛手であると共に、本郡・本縣否我が教育界の偉大な損失でござぬます。今や新日本建設の黎明期に際会して、特に教育の重要なことは自他共に論を待ちませぬ。先生亦この新孝制実施の眞只中であつて教育救国の念黙し難く、臨終呻吟の御最後まで學校のことを案じ、教育のことを口にせられてゐたと拝承致しまして、吾等今更ながら眼頭にあつくなるのを禁じ得ず。その教育に対する御熱誠に魂を揺さぶられる思が致すのであります。噫何たる天の悲痛でせうか。ゆくりなくも病魔の爲に斃れられ、百方手を加へた甲斐もなく、遂に不眠の旅路につかれましたことは……全く思いがけない御永眠。後を守られる御家族の胸中を御察しするに、まだく痛恨その惜く所を知りませぬ。嗚呼悲しみ極みであります。然し乍ら徒らに涙にくれつゝ先生を弔ふことは、その本意ではござぬますまい。思ふに残された数々の御功勞は燦として青史に輝き、御薫陶を受けた幾多の門弟達は、御教訓を確と胸に秘めて社会の荒波を乗りこゑつゝ、雄々しくも羽搏ひてゆくこととせう。幸にして又立派に御成育の御子女方、今は亡き父上の幻を夢にも見つゝ御遺宅を・御遺志を立派に受け継いで行かれることとせう。吾等また及ばず乍ら先生の高潔な人格と・卓越した見識と・豊富な孝識を敬慕して、永久に御遺志に背かないよう、第二の森先生を我が内原村から生み出す様にと一同懸命の奮発を誓ふものであります。先生もつて冥せられんことを些か粗辞を陳ねて弔辞と致します。在天の御靈髣髴として来り亨られよ。

昭和二十二年八月十七日

内原村長

楠山 文三郎

6 弔 辞

我聞く先生は田辺中孝を卒業されてより、獨立研鑽諸氏百科の書籍を通覧せられて、珍しくも南紀の野にその頭角をぬきんでらる。殊に歴史の孝に造詣深く、文筆の士として人格・見識ともに衆に秀で職を教育に奉じ、常盤義塾の経営を継承せられてより専心努力、その存在を今日にあらしめられたる、誠に偉大なる業績と云ふべし。児童教育の傍ら自己の趣味として培養せられし郷土研究の成果は、「日高郡誌」・「南紀土俗資料」・「紀南読本」・「近世資料」、其の他数余の著述として上梓せらる、昭和十三年由良開山法燈國師六百五十年延年講の盛儀に當りては、その以前より資料を世上口碑の果てにまで及びて是を集め、「法燈國師傳」・「鷲峯余光」の一書を編述せられ、雲巖老師の業跡を助け、錦上花を添ふる遺業を完成せらる、誠に無切用の善根と謂うふべし。今茲に先生の葬儀に列し、靈前に焼香度みて感謝の誠をさゝぐ。先生は雨の日も風の日も、内原の里より和田村常盤校に通ひつめられしと聞く。その熱意と情操とは子弟薫育の上に高き成果を將來せり。嗚呼病魔とは云へ夢の如く焉然として、忍土六十年の終止符を打ち安養靜へ歩を告げ玉へり。再建日本の現狀は先生の如く清廉硬骨なる士を慾求して止まざることとは、旱天の慈雨を望むが如くなるの秋、先生を失へる実に惜みても尚余りあり。されど家には業績を継がるゝ令息・令嬢のあるあり、又以て冥日本来の自性を達元遊裁して可なり。

野納一句あり、幸ひに納受し玉はむことを

雲想衣裳 見花懷顔 聽罷松・午睡濃

昭和二十二年八月十七日

由良 開山興國寺 華 凌

7 甲 辭

森彦太郎先生、いらかもとろける盛夏に、淨きみ国へさして皈られました。今さらながら先生の御一生を追憶して、感慨切なるものがあります。さらでだに此時局下寺院経営の困難なるとき、先生を亡ひたる吾等の痛手大きいと共に、此の死を惜しむの念深いものがあります。先生は壯年時代から孝徳高い人格の士として、教育・宗教介に冠として知られておりましたが、殊に徳本上人の徳を慕はれ、子女教育のかたはら念佛信仰に専念されました。我等念佛寺坦信徒が先生に期待憧憬の愈々切なる時、突如として先生の訃に接し、我等は一大驚攪を感じたと同時に、痛惜の情も誠に忍び難いものがあります。嗚呼巨星を光を収めて光明の分野淋しく、今後先生に俟つもの益々多き今日先生は今やなし。然し乍ら先生の念佛寺光明会につくされた足跡は、永遠に會史を飾るであります。謹みて先生の御冥福を御祈り申し上げます。

八月十七日

念佛寺 担徒総代

8 弔 辞

総本山梅之間待遇特別信徒

森 彦太郎氏

夙に淨教を尊信し奉佛の志ふかく、念佛寺担徒総代として寺門護持に貢献多大なり。常に淨教怠らざりしに、不幸病を獲て溘焉永逝の報に接し痛恨の情に堪へず。茲に淨香を供へ以てその靈を弔す。

昭和二十二年八月十七日

知恩院門跡大僧正 昱 譽

9 弔 辞

謹みて御靈前に供す。昭和貳拾貳年八月三日我等生徒一同の尊敬の中心・師表的、森校長先生は突然逝去されました。私共は眞に意外であつた爲、その驚きと悲しさは極り涙も涸れ、嘆きは深く血も逆流するばかりの思が致します。且に霜を踏んで家門を出で、夕べに星を戴いて校門を辞し、寒暑風雨に厭なく精勵格勤の結晶のやうな先生は、常に能不能は人々の生れつきに依るが、大成は只勤勉又勤勉によつてのみ成就するから休まず出席せよと、しみぐと誡められたにもかゝらず、怠慢懶惰の外なかつた私達は只漠然と幸校へ通つたにしか過ぎなかつたが、しかも垂範の先生に再び御目にかゝれない、洵に人生の無常を悲啼せず居られません。悪技に始まり失策に了る私達の不可知性は、手のとゞかぬ処の窓硝子を破り障子を壊した。其の都度先生は物資は日本の宝であるから、極めて大切にしなければならぬ。幸校は一人の幸校ではない、天下の公共施設であるから、整頓し清潔にと貧困な私立幸校ではあるが露ほども私情を設けず、寛容自ら金槌・釘箱を持つて教室の修繕に、他の先生方をひきいれられた御姿を思い出しては、洵に慚愧に堪ゑません。私達不徳の数々を思ひ、此処に至りますと身の置く処を知りません。自由民主国の国民としての教養については、先生が最も力を加へて下さいましたのは公民科の授業で、難しい憲法をプリントして熱辨を振はれた。其の教壇に再び先生の御姿を拝見する事が出来ませんが、眼を閉じると今尚眼底涙の流るゝ裡にアリくと浮び出て、恐ろしい迄に熟した激しい先生がチラツキ、ヂット耳を澄ますと耳の底頭の奥に、あの声あの理論が烈々として響き渡り、身に繋る思で一杯です。それも此れも思を追へば、父にも優り母にも越ゑ情篤き先生今は夢のやうです。先生私達

は先生の御訓誡を確く肝に銘じ、先生の弟子たるに恥じない人生を歩む覚悟です。どうぞ心安らかに御永眠下さい。

常盤商業学校

常盤中学校

生徒代表 玉置 幸雄

10 甲 辞

本日茲に森彦太郎先生の校葬に参列し、謹みて弔詞を奉呈致します。先生は夙に孝識豊にして郷土の先覺者として、自他共に許す偉大な存在で、私共の常に敬慕して居った所でありました。私も先生の知遇を得たことも三・四度御座居ましたが、先生の御人格御徳望に関することは、他に尚適當な方もござぬませうから、茲に申述べることは省略させて頂きます。當村小学校と、先生の後半世心血を注いで御経営になつてをられた此の常盤校とは、実は兄弟も只ならぬ縁に以て居ります。勿論兄弟橋に閲ぐの諺に洩れず同村内のこと故、相互に欠点缺所を云ひ争つたこともあつたでせうが、小学校の卒業生の大部分は御校に御厄介になつたでせうし、又御校の大部分はやはり私の学校の卒業生であつたこととせう。日高中学校の開設以前は、郷土に於ける男子中学校として、學制當初の頃より偉大なる存在でありました。その同窓生は此の日高平野の各地位に、重要なポイントを掌握されてゐます。先生の御徳望と・御孝識と・當校の御経営は、実に理想的と思はれますが、満州事変前後からの日本の状態は国家統制が次第に学園に強化された爲、先生の御意圖通りの御経営は出来なかつたことと存じます。終戦後は又戦時中とは全く異つた意味に於て、御意思通りの御経営は出来なかつたし、今後二・三年の歳月と人心の安定により、今度こそは先生の御理想実現の機到来したやうに感じて居りました際、忽然として病魔の爲幽明所を異にせられた由承り、私共も只亡然と致しました。私は浅からぬ血縁の学校に奉職して、今後一層の御鞭撻と御指導を仰ぎ度く存じて居りましたのに、遂にそのことも出来なくなりました。御校並に御遺族の心中を御推察致しますと、実に申し上げる言葉に絶します。何卒先生の御遺志を継がれ、御遺訓を守られ相共に協力せられて、善処されんことを切にお祈り申します。終りに臨み御生前當小学校、並に私に御教示下されし数々の御恩を厚く感謝しつつ、御冥福を御祈り致します。

昭和二十二年八月十七日

日高郡和田小学校長

丸山 源之助

11 弔 辞

常盤商業学校兼附設中学校長森彦太郎先生逝去せられ、洵に痛悼の至に耐えませぬ。先生は先に常盤義塾経営の任に就かれ、缺乏の経済を塩梅して宜く訓育陶冶の責を盡し、地理的に不便なる片田舎に於て、よく数百人の門生集めて、各々其の才に応じ知性に順じて、有能の人材を養成すること数年倦むことを知らず。格勤にして而も殷懃師表の典形にして、子弟は素より父兄又其の熱意と德行に信賴し、眞に尊敬の的たりしに、今急に訃に逢ふて、私共は今後の子弟教養の指標を失ひ、倚る可き処のない悲を加ふるものでござぬます。先生何卒魂魄を此に止め、吾等並に子弟門生の上に清鑑を垂れて、永く其の愛育の思を御加へ下さい。此処に先生を葬るの式に當り、生者の弱き心を被撫し追慕の情を述べ、在天の御冥福を謹んで御祈り致します。

昭和二十二年八月十七日

常盤商業学校並附設中学校

父兄会長 中西 悦太郎 謹白

12 弔 辞

恩師故森彦太郎先生の校葬儀執行せらるゝに當り、謹みて敬弔の誠を捧ぐ

昭和二十二年八月十七日

中井 虎楠

13 弔 辞

謹んで常盤商業学校長故森彦太郎先生の御靈前に哀悼の意をささげ御冥福を祈る

昭和二十二年八月十七日

和田中学校長 亀石 豊太郎

14 追悼の辞

秋漸く深まりて今日ど彼岸に入ると云ふの日、日高実業学校生一同は此の佛前に会し、恩師故森彦太郎先生の靈前に追悼の誠を捧げんとす。思へば吾等先生の薫化に接してより既に幾十星霜を閲したり。その間世相の幾転変、吾等亦寒暑の礼をさへ缺くこと多くして、今日に及びたりしに、勿然として先生の訃音に接す。我等驚愕惜く能ざるとともに、先生に対する追慕の情切なるものあり。即ち相寄り相計りてせめても我等の微哀を表

し、以て先生の御冥福を祈らんものと、茲に細かなる催とはなれるなり。教育家としての先生の功績・卒究の人としての先生の偉業は世人の既によく知るところにして、今日此等を枚擧することを暫く省くも、我等の追慕の情禁じ得ざる所のは何処までも謙虚にして、説かるゝところ必ず行を以て示さるゝ。眞摯なる御態度身を持つるに、秋霜の嚴を以てし人に接するに、春風の和やかさを以てせらるゝ。実に古聖を思はしむるが如き御態度。而も一度志を立てられて向はんか、勇往邁進如何なる難関をも突破して成らざれば止まざる御意志の強靱さ等々、年を経ると共に胸中に浮かぶ。幾多の身を以てせらるゝ御垂訓の数々が、我等の行く手に光明の火を点じ給へる処、我等何れも相當の年輩に達し、人生の行方に考を繞らさんとするとき、先生の御教示に頼るべきこと多々あるべきに。噫恩師は遂に此の世に在し給はず。今や再び先生の警咳に接すること能はざるを思へば、我等の身辺遽かに寂しさの湧くを如何にせん。只その追憶の糸を辿りて、そのカミの御垂訓を思ひ浮べつゝ行かんのみ。敗戦の祖国混濁の世相、此を再建し・此を淨化すべき容易ならざる責務に喘ぐものなるを、在天の恩師よ時に我等の胸に居ませし日の面影を甦がへらせて、永遠に導き給らんことを。万感交錯して筆及ばずと雖も、茲に粗辞を連ねて微哀を訴へ、併せて先生の安らかに御冥福あらんことを祈り奉る。

昭和二十二年九月二十一日

日高実業学校同窓会

森先生追悼会代表

尾崎 光之助

七、故森彦太郎君の横顔

芝口 常楠

(1) 故森彦太郎君は奇人ではなかつたが、とに角異採のもつ存在であつた。同君に接すれば大きな声で口もきかないやうな、謙虚そのものゝやうな態度である。併しながら筆陣を張れば論法當るべからざる鋭さである。同君は余程気に入つた時でなければ、雑談は一切しないけれども、同君は非常に筆まめであるから文通をしてゐると、世評から・浮世話・自己消息を織りまぜて長文の書簡をよせられる。これが又実に雑談以上に興味の隘れたるものである。それでは同君は■筆の人であつて□の人ではないのかと、云はゞ決してそうではない。演壇上に立てば三時間でも・四時間でも熱辯をふるふことは知る人ぞ知るである。大正三年當時地方操觚介の先人、玉置暁靄・濱田野花両氏の編纂せる「日高紳士録」には、

「氏は一見極めて謙遜なる教育家なり。されど抱負もあり・度胸もあり、夫の眞面目一点張で殆ど融通の利かざる小心者の比にあらず。且つ幸究の深厚なる稀に見る処なり。誰その文章を見て人物に接する時は、何人も以外の感あらむずんばあらず。何となれば論評の堂々たるに反し、風采に至っては至つて謙讓なる一小色男にすぎざればなり」

とある。一小色男は同君の未だ妻帯せざりし昔を物語るもので、侮蔑を意味するものではない。大体コウケイに當つた比評であると思ふ。同君は中年以後酒豪になつたことも、人々の意外とする処であるが、これも本當に呑むのであつて、粹な方面に足を運んで本能寺の敵を望むことは全くしなかつた。同君は全く歌はない、こんな現代的な社交界から自ら退いてゐたなど異つた点だつた。同君の精力の絶大な半面に此のアルコールが興つて、大ひに力があつたのではないかと今も想像する。なほ同君には人の知らない一面がある。それは政治界でも自治方面でも、或は操觚界でも黒幕となつて活動したことである。同君もこれには少々興味を寄せられてゐたことは事実である。同君の小孝時代は無口な從順の一少年、無論成績はよかつた。中孝（田辺）に入るに及んでその文才が頓に伸び才氣從横といふ文章、各地方の新聞に投稿してその穎才をみとめられた。嘗て牟婁新報社長故毛利柴庵先生が、この文壇の主を下宿に訪れしに、小倉服の可憐なボンチが机に向かつて居つたのに一驚を喫した話など、有名な巷間のエピソードであつた。卒業後は地方文壇に活躍し、故崎山粹柳・片山翠波（現在常盤）・高尾眩月（現在御坊）の諸氏と共に大いに論陣を張り、森梢雨の名が一段の光をあげた。明治四十一年御坊小孝校に代用教員となり、日高郡教育會が「日高小史」を同氏に頼んだことが手初めとなつて、日高郡役所より「日高郡誌」の編纂を委嘱せられ、ついで日高第一実業孝校に椅子を代へた。これより同君が実地踏査に資料蒐集にその研鑽に日も足らざる有様。時に先輩を訪ねてその説を聞き、古文書の読み難きはその道の人に質し、苟も「郡誌」編纂の事項に関係ある講習には、私費を以て連年聴講に出席し、又参考となるべき書籍を見れば、細大もらさず購求研究せざるはなかつた。不審に遇へば京都・東京を遠しとせずして、大孝・高校・其の他の専門の諸士に教を乞ふなど、その幾度なるかを知らず。

(2) 大正三年日高第一実業孝校の廃校となるや、南部なる日高第二実業孝校に転じ、日高・南部の調査に便宜を得た。大正十年「郡誌」功成つて之を世に送るや、その努力の如何に絶大なるかに驚き、之をひもとひてその記事の精細・正確に舌を巻かしめたるも宣なるかな。地方研究家にも・教育家にも・寺にも・宮にも・一般家庭にも、なくてはならぬ書冊となつて、我等を益して居るのである。かくの如き著書にどこをさがしても、同君の名を書いた所は一つもない程、こゝにも謙虚な処を示してゐる。同君はたゞ中孝校だけの卒業であるにかゝらず、その深い学殖は、同氏の天才的文才もその因をなしてはゐるが、永年に亘りて「郡誌」編纂に最大の

努力を続けた爲であると思はれる。大正十四年紀南実習女学校の南部に創立されるや、推されて校長となり、昭和四年古座実業学校長に転ずるは、同君の実力の致す所である。歌謡や盆踊りの研究はしても、全く謡はず・踊らぬ君は、一般の公理とせらる官界遊泳術を知らざるものゝ如く、否知らざるに非ずやらなかった。硬骨肌で昭和五年遂に同君は途を後進に開いて、自ら職を辞して郷里に皈った。閑居四年此の間に「南紀土俗資料」を世に問ひ、「日高近世資料」を整理した。たま／＼常盤義塾長湯川淨暢師の長逝ありて、義塾は今や存亡の岐路に立つて居った時、同塾理事・塾友・先輩・有志の懇望もだし難く、決然起つて其の急に応じたことは、己に心に期するものがあつたからであらう。同君の常として逆境に立てば立つ程突張り抜いて、意地を通すことは事毎に見受けられる。保守的な常盤を脱して積極的に乗り出さんとする計画が立てられたが、貧弱な私立学校では、中々安売りは許されない処に人知れぬ苦辛があつた。先づ日高平野に一つもない商業学校に目をつけて、四年制の商業学校に改組、続いて財団法人常盤義塾を設立して、五年制に昇格し一步一步理想に向つて前進した。この間にあつてかの戦争の最中に、縣の事務部長の日本アルミ会社の使になつてか否や、態々^{わざわざ}学校を此の会社に売却しては如何など、喰すに利を以てしたがガンとして応ぜず、之が爲に此の年の生徒募集が出来なかつた難関もあつた。

(3) この吹けば飛びそうな孤城落月と云ふ貧乏学校を死守してゐる処に、同君でなければならぬ処があると思ふ。しかしかくまでに同君をやらせてゐる陰にかくれたよい後援者もあり、森宗の皈依者も多数あることを忘れてはならぬ。学校の職員組織もこゝに立脚してゐることも、此の学校の強味である。同君は朝早くから夜おそくまで学校にゐて雑談一つするのでなく、乏しき経済をやりくりし、書記を置かず卒業生の世話まで、自己一身に引受け、一週廿幾時間の授業まで受持つて、身に寸暇がなかつたやうに思はれるが、それでも金槌を手にして校舎の修理に廻り、糊を片手にしては生徒の破った窓硝子を繕ふた。本當にひまは見つければ出来るものである。然も黙々といてゐる処に同君のエラサがある。校長会とか協議會とか開かれても、常に教頭を派遣して一回も自分が出向かなかつた処に、同君の異つた処が認められる。今年新学校制が布かれて、来るべき幸年には高等学校に昇格すべく、例の逆境の勇に期待と興味を賭けて、事業着々其の緒につかんとする時、突如として急逝した。一部には今までも無理をして来たのだから、猶この上の無理はと……危むものなきにしも非ずであつたが、同君は実行の前にこんな事を顧慮はしてゐなかつたが、今や学校の將來にも暗雲がある。僕が死んでも必ず後継がある。そんな取越苦勞はいらぬと今云つたばかりの同君、果して地下に何を考へてゐるだらうか。昭和十三年名刹興國寺が宗祖六百五拾年大遠忌法要嚴修に當り、記念事業として寺内に修史局を設け、

同君が劇務の余暇こゝに赴ひて『驚峯余光』を出版した。同君がまだやってみやうとしてゐたものに、『修正増補南紀土俗資料』・『紀伊に於ける万葉人の足跡』・その他二・三がある。和歌山縣教育會が『紀州先賢列伝』を編むに當り、日高郡の部が既に同氏の手によつて出来てゐるはずだが、肝心の教育會の出版が中絶となつて世に出ないなど、同君に求めるものがまだ澤山あるのである。　　噫

（昭和二十二年九月二日・四日・六日の三日間紀南タイムスに連載）

後記

- 一、本巻は森先生生涯の同僚の友であった芝口先生、及田中敬忠氏宛の書簡を集録し、附するに諸氏の弔辞と芝口先生の「故森彦太郎君の横顔」なる一編を以てした。
- 一、書簡・郷土史談あり、日高教育界の状勢論・人物批評あり、人間森彦太郎を語りて余す所なし。「森彦太郎傳」の重要な資料なり。
- 一、附録二編又氏を伝へて残す所なし。
昭和二十六年八月三十一日

清水 生

「森彦太郎書簡集」活字化を終えて

父が「森彦太郎先生傳」を編纂するにあたり、芝口先生や田中先生の家に保管されていた書簡を借り、書写したものだと思ふ。伝記や人物伝を公開するのなら兎も角、この書簡集を全部そのまま公開するにはどうかと考へる。大正・昭和初期の和歌山縣教育界の状勢や、森先生の教育論・学校経営に関わる縣政界との対立など、批判的に生々しく記されている。先生の死後約六十年、書簡の多くは六十〜八十年を経ているので、もう時効かも知れぬが。

平成十八（二〇〇七）年三月十三日

清水 章博